

# 令和5年度

## 埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「ケアラー・ヤングケアラーの認知度等について」、「人と人とのつながり・支え合いの状況について」の2つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

### 【目次】

○ 調査のあらまし	3
I 調査結果のポイント	5
II 調査結果（単純集計結果）	15
1 生活意識	17
2 日常生活	29
3 県政への要望	73
4 ケアラー・ヤングケアラーの認知度等について	79
5 人と人とのつながり・支え合いの状況について	87
（参考資料）世論調査実施状況	93

<本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先>

埼玉県 県民生活部 県民広聴課 広聴・知事への提案担当  
電話 048-830-2850（直通）



## ○ 調査のあらまし

### 1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

### 2 調査の項目

この調査の項目は次のとおりである。

- ア 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、住みよさ、埼玉県に魅力を感じるか）
- イ 日常生活
- ウ 県政への要望
- エ ケアラー・ヤングケアラーの認知度等について
- オ 人と人とのつながり・支え合いの状況について

### 3 調査の設計

この調査は次のように設計した。

- ア 調査地域 埼玉県全域
- イ 調査対象 満18歳以上の個人
- ウ 標本数 5,000
- エ 抽出方法 住民基本台帳による層化二段無作為抽出法
- オ 調査方法 郵送法（郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用）  
（令和元年度までは、調査員による個別面接聴取法）
- カ 調査時期 令和5年7月7日～7月28日
- キ 調査実施委託機関 株式会社サーベイリサーチセンター

### 4 回収結果

- (ア) 有効回収数（率） 2,477（49.5%）
- (イ) 調査不能数（率） 2,523（50.5%）

### 5 回答者の属性

#### (1) 性別

総数	男性	女性	無回答
2,477	966	1,385	126
100.0	39.0	55.9	5.1

#### (2) 年代別

総数	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
2,477	31	179	253	388	479	463	618	66
100.0	1.3	7.2	10.2	15.7	19.3	18.7	24.9	2.7

（上段は人：下段は％）

## 6 調査結果の見方

- (1) 結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- (2) 問1「昨年と比べた暮らし向き」における『楽になった(計)』のように、「楽になった」と「少し楽になった」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢への回答者の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、内訳となるそれぞれの選択肢の比率の合計と合致しないことがある。
- (3) 図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の割合が0.05%未満のため四捨五入の結果0.0%となったものである。
- (4) 一人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者(n)で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数をM.T.(Multiple Totalの略)として表示した。
- (5) 調査票上のFはFace Sheetの略で、回答者の基本的属性についての質問である。
- (6) 調査手法として、令和元年度までは「個別面接聴取法」で実施されていたが、令和2年度より「郵送法(郵送配布、郵送返送・インターネット回収併用)」に変更したため、令和元年度以前の結果と比較する場合には留意が必要となる。

# I 調査結果のポイント

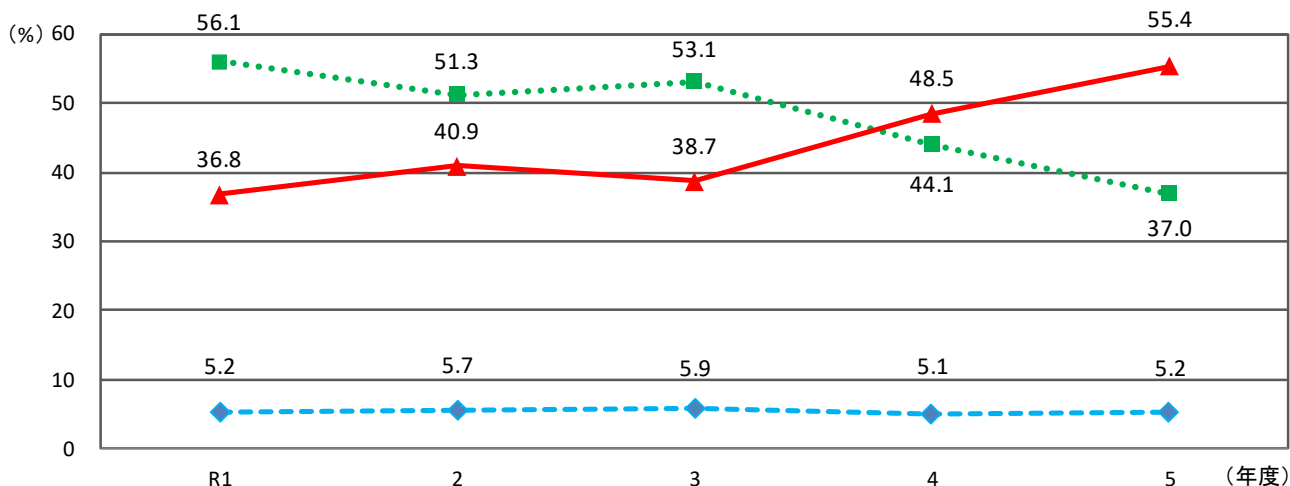


# 1 定期調査（生活意識）

## 昨年と比べた暮らし向き

◆ 楽になった(計)    ● 変わらない    ▲ 苦しくなった(計)

- ・『楽になった(計)』は昨年と比べてほぼ横ばい
- ・『苦しくなった(計)』は6.9p増加し、5割台半ば
- ・「変わらない」は7.1p減少

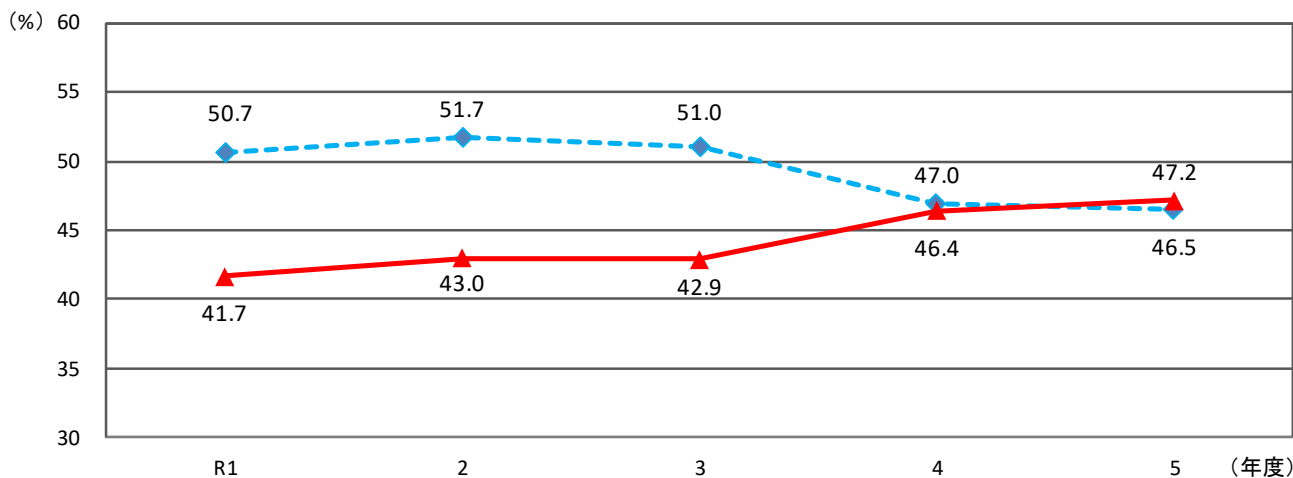


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

## 生活全体の満足度

◆ 満足(計)    ▲ 不満(計)

- ・『満足(計)』が『不満(計)』をわずかに下回った



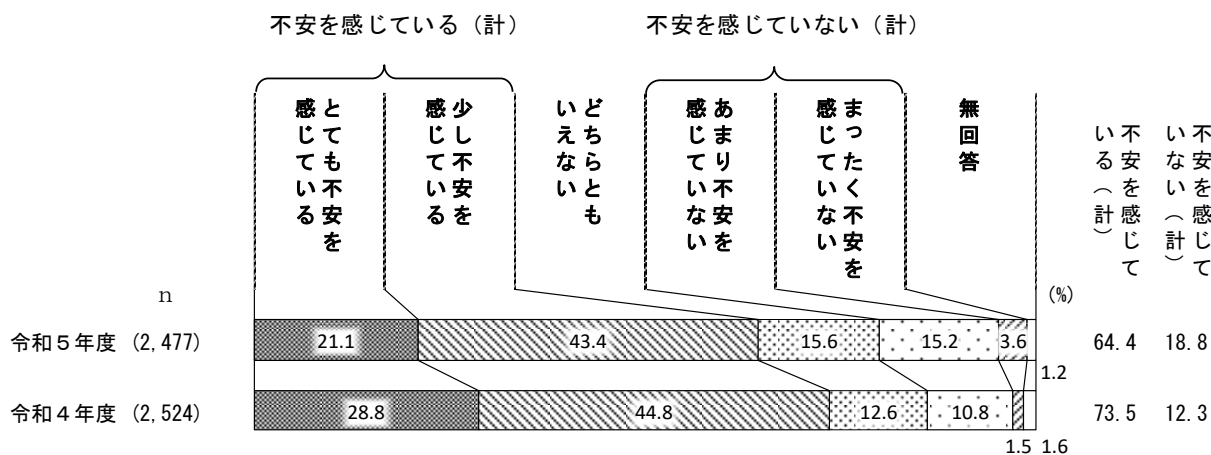
※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

## 2 定期調査（日常生活）

### 新型コロナウイルス感染症への不安

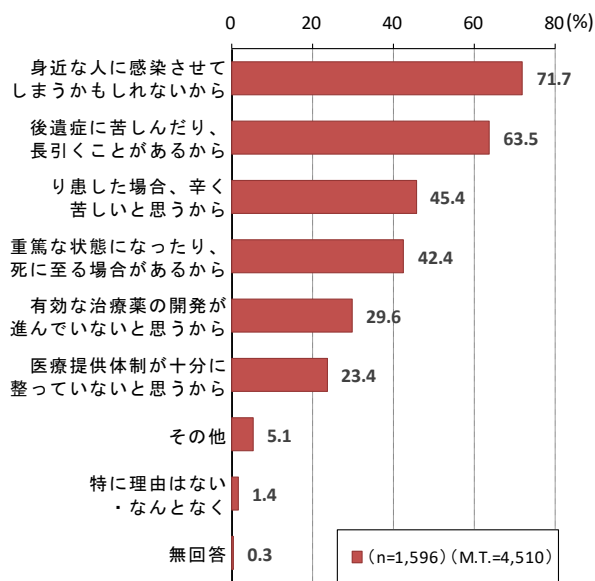
1 あなたは、御自分が新型コロナウイルス感染症に感染することについて不安を感じていますか。

・『不安を感じている（計）』（64.4%）が6割台半ばで前回調査（73.5%）から9.1p減少



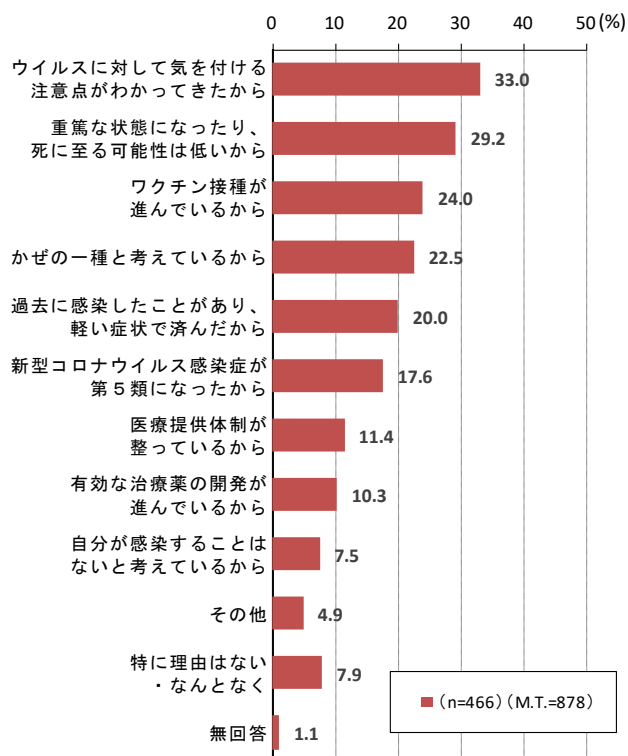
2 あなたが感染することに不安を感じている理由は何ですか。

・「身近な人に感染させてしまうかもしれないから」（71.7%）が7割強と最も高い



3 あなたが感染することに不安を感じていない理由は何ですか。

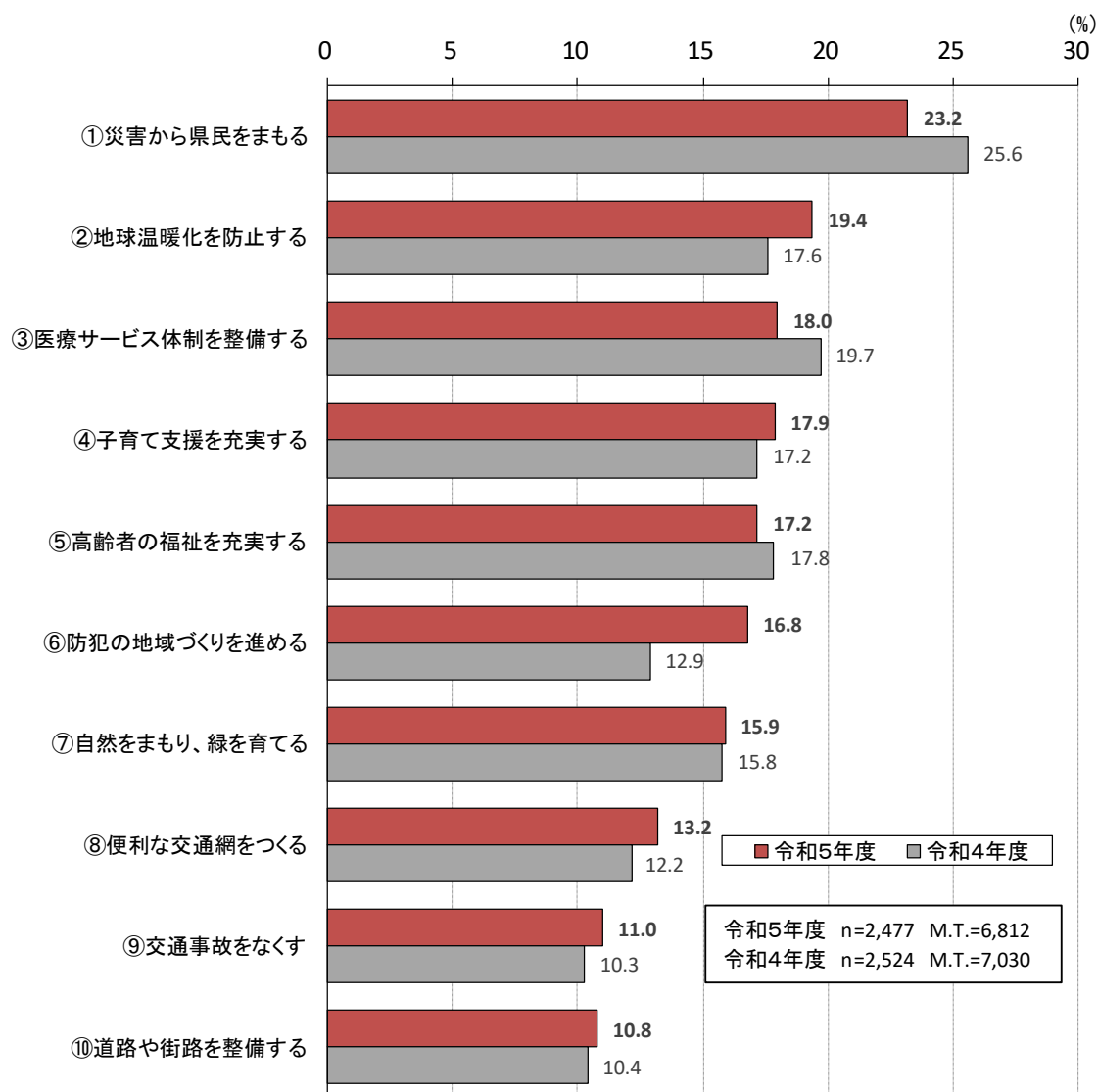
・「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」（33.0%）が3割強と最も高い





### 3 定期調査（県政への要望）

- ・ 下記は、令和5年度の上位10項目を比率順に並べたグラフである
- ・ 「災害から県民をまもる」が2.4p減少したものの、前回に引き続き第1位となった
- ・ 「防犯の地域づくりを進める」が3.9p増加して第6位に上昇した

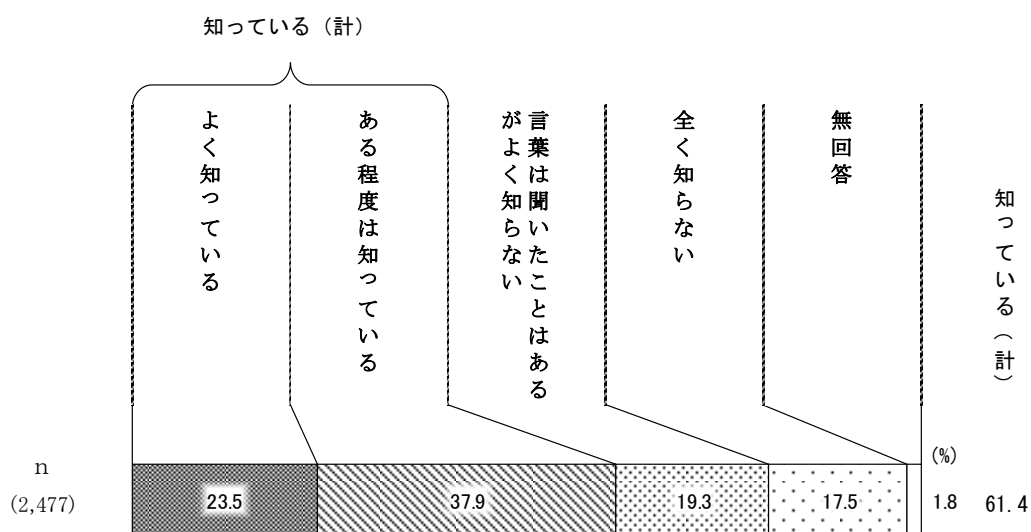


## 4 課題調査

### ケアラー・ヤングケアラーの認知度等について

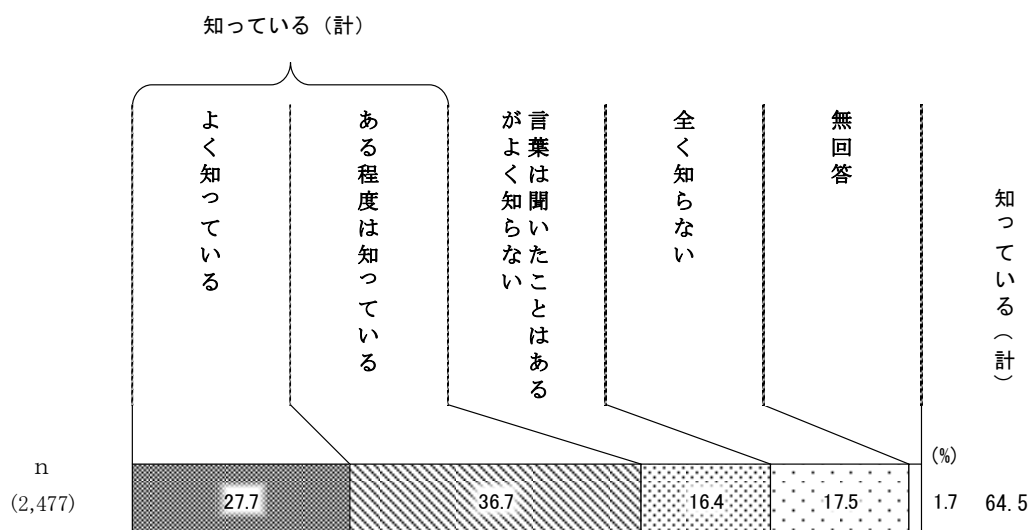
1 あなたは、「ケアラー」という言葉を知っていますか。

・「ある程度は知っている」(37.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、『知っている(計)』(61.4%)は6割強となっている



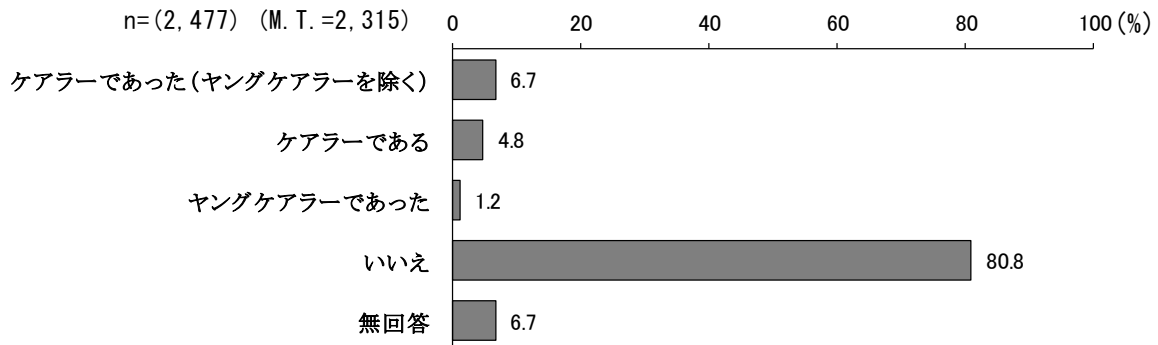
2 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。

・「ある程度は知っている」(36.7%)が3割台半ばを超えて最も高く、『知っている(計)』(64.5%)は6割台半ばとなっている



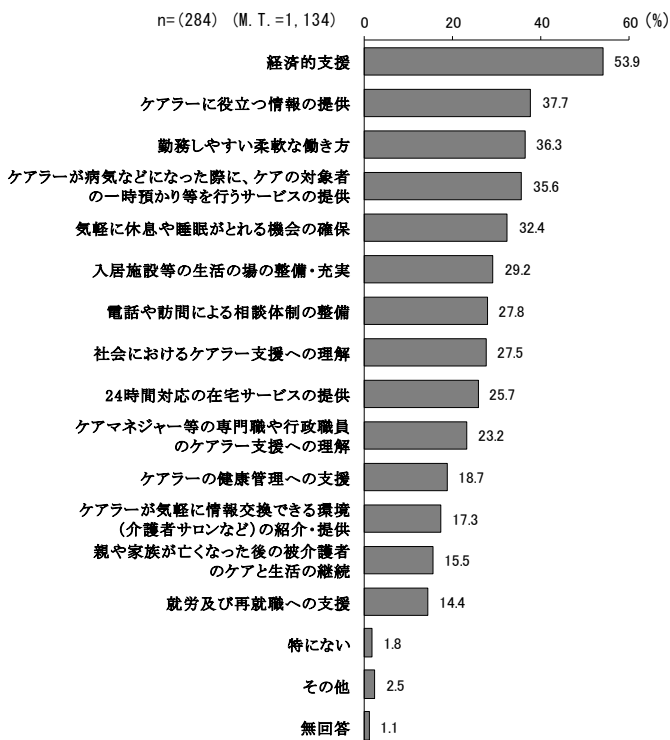
3 あなたご自身は、現在ケアラーですか。または、過去にそのような経験がありますか。

- ・「ケアラーであった（ヤングケアラーを除く）」が6.7%で最も高い
- ・ケアラー経験のない「いいえ」（80.8%）は8割を超えている



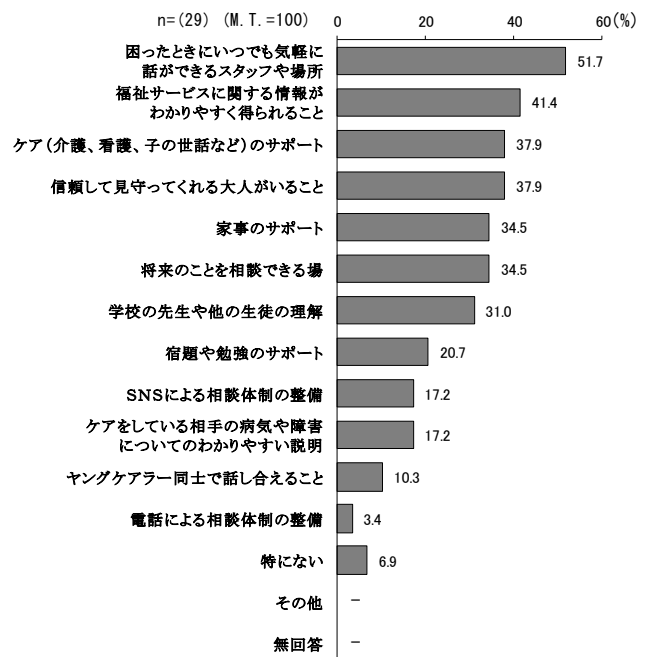
3-1 ケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。

- ・「経済的支援」（53.9%）が5割強と最も高い



3-2 ヤングケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。

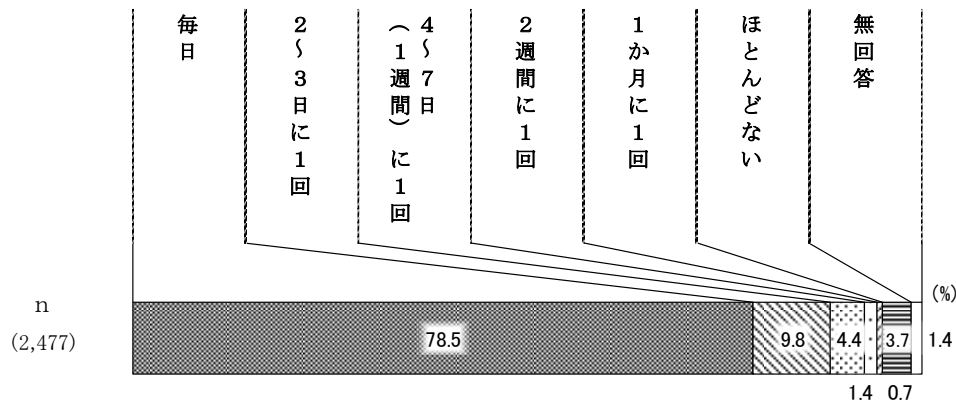
- ・「困ったときにいつでも気軽に話ができるスタッフや場所」（51.7%）が5割強と最も高い



## 人と人とのつながり・支え合いの状況について

1 あなたは普段どの程度、人と会話や世間話をしますか。あてはまるものを選んでください。

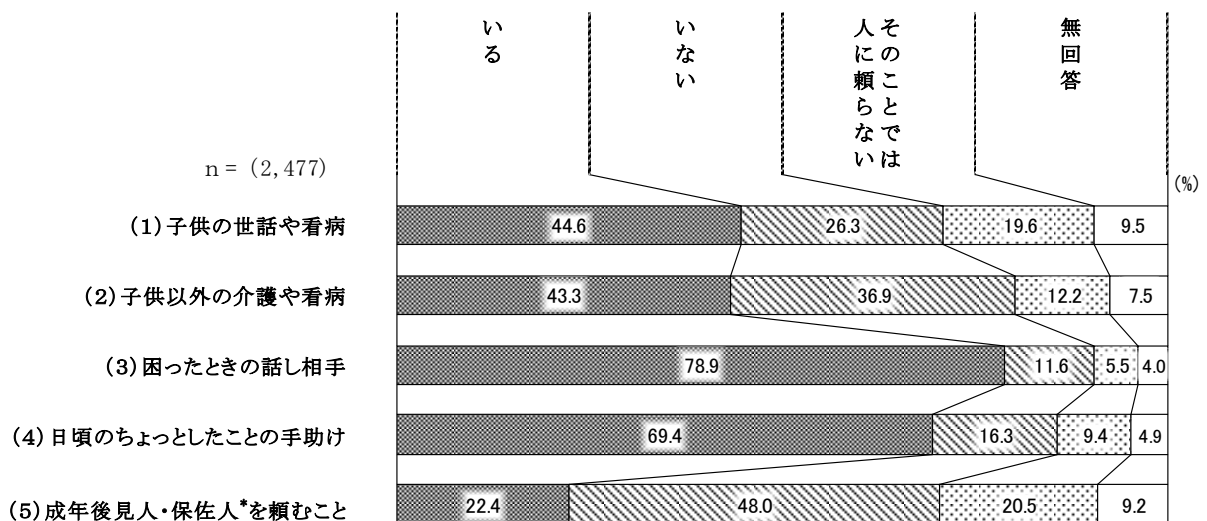
・「毎日」(78.5%)が8割弱と最も高い



2 あなたは次の(1)から(5)までの項目について頼れる人はいますか。あてはまるものを選んでください。

・「いる」は(3)困ったときの話し相手(78.9%)が8割弱と最も高い

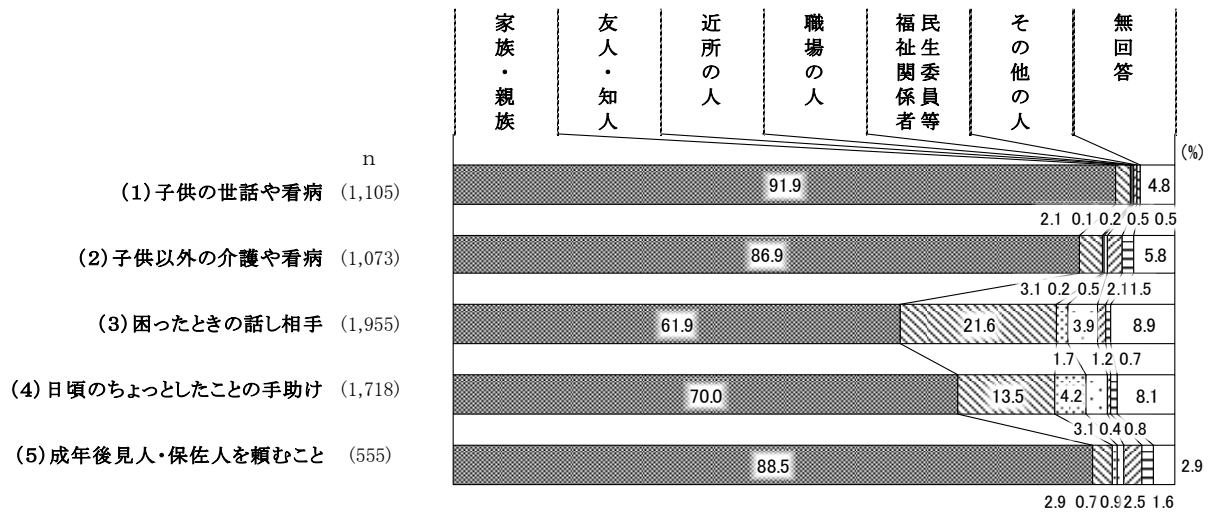
・「いない」は(5)成年後見人・保佐人を頼むこと(48.0%)が5割弱と最も高い



\*成年後見人・保佐人とは、認知症などの理由で判断能力が十分でない方の法律行為を保護し、支援するため、家庭裁判所によって選ばれた後見人のことをいいます。

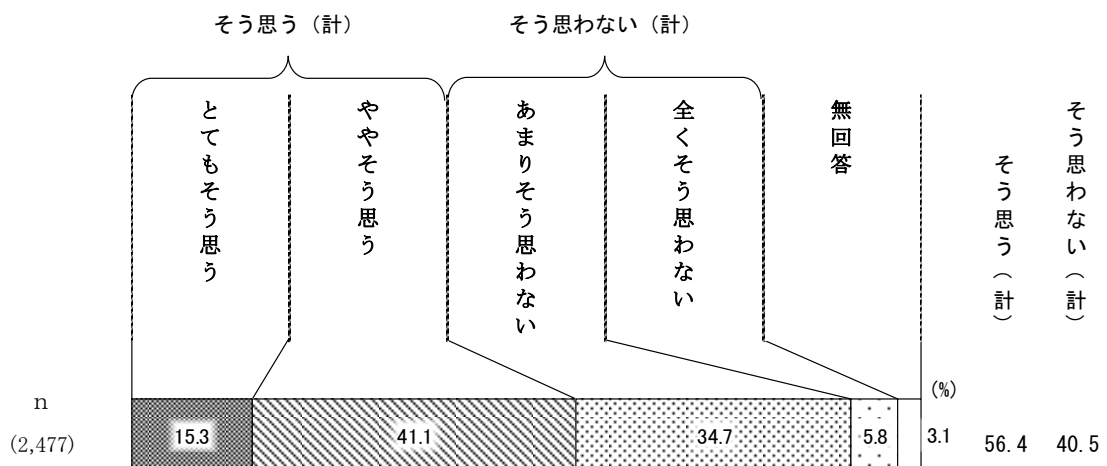
2-1 それは誰ですか。次の(1)から(5)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

- ・「家族・親族」は(1)子供の世話や看病(91.9%)が9割強と最も高い
- ・「友人・知人」は(3)困ったときの話し相手(21.6%)が2割強と最も高い



3 あなたは、長生きすることは良いことだと思いますか。あてはまるものを選んでください。

- ・「ややそう思う」(41.1%)が4割強と最も高く、『そう思う(計)』(56.4%)は5割台半ばを超えている





## Ⅱ 調査結果（単純集計結果）



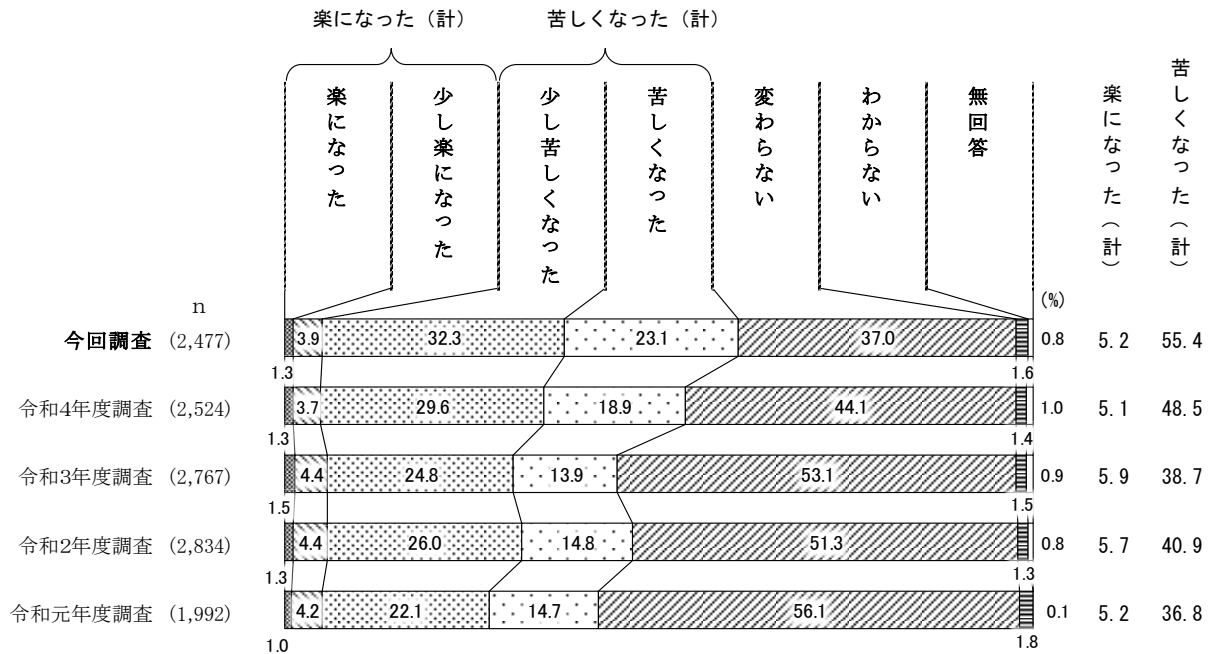


# 1. 生活意識

## (1) 昨年と比べた暮らし向き

◇『苦しくなった(計)』は55.4%、「変わらない」は37.0%、『楽になった(計)』は5.2%

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねします。  
お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

暮らし向きが「楽になった」(1.3%)と「少し楽になった」(3.9%)を合わせた『楽になった(計)』は5.2%となっている。一方で、「苦しくなった」(23.1%)と「少し苦しくなった」(32.3%)を合わせた『苦しくなった(計)』(55.4%)は5割台半ばとなっている。「変わらない」(37.0%)は3割台半ばを超えている。

### 【過去調査との比較】

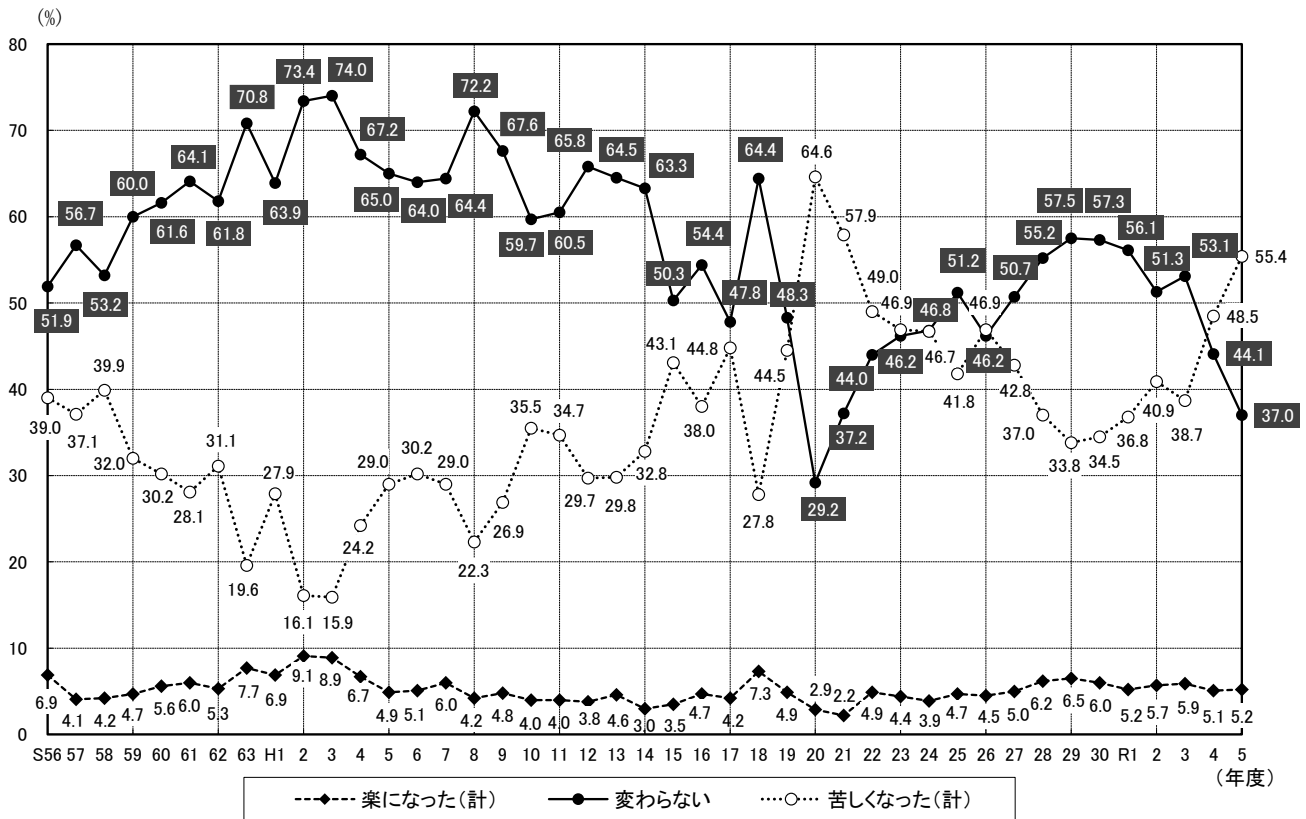
令和4年度調査と比べて、『苦しくなった(計)』が6.9ポイント増加している。一方で、「変わらない」は7.1ポイント減少している。

## 【経年比較】

この調査を開始した昭和56年度以降の推移をみると、『苦しくなった(計)』は、最も高かった平成20年度(64.6%)を境におおむね減少傾向が続き、平成30年度調査から再び増加傾向にあり、令和4年度から「変わらない」を上回っている。

『楽になった(計)』は平成2年度が9.1%で最も高く、平成21年度が2.2%で最も低くなっており、調査開始から42年間、この範囲内で推移している。

## ○昨年と比べた暮らし向き・昭和56年度以降の推移

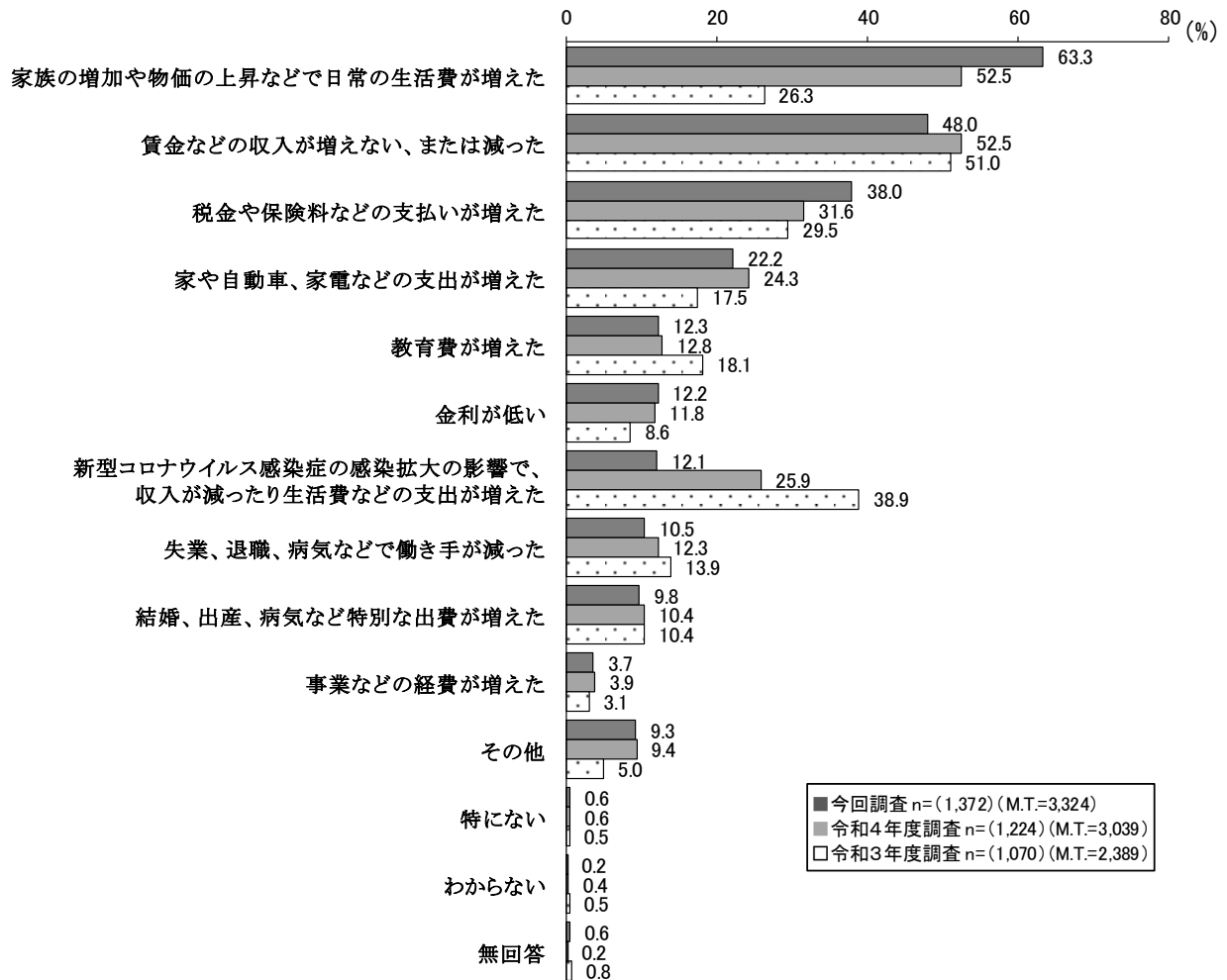


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(1-1) 暮らし向きが苦しくなった理由

◇「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(63.3%)が最も高い

(問1で「3. 少し苦しくなった」または「4. 苦しくなった」とお答えの方にお伺いします。)  
 問1-1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



暮らし向きが苦しくなった理由は、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(63.3%)が6割強と最も高く、次いで「賃金などの収入が増えない、または減った」(48.0%)が5割弱、「税金や保険料などの支払いが増えた」(38.0%)、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(22.2%)などとなっている。

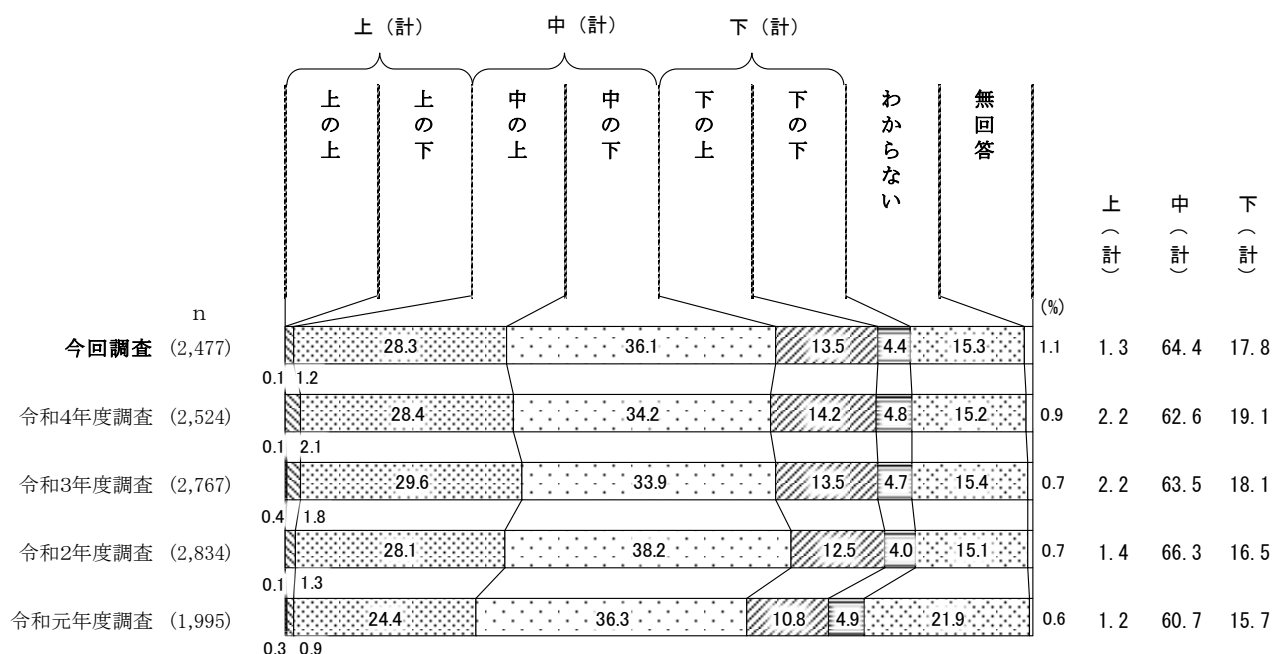
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(10.8ポイント増)、「税金や保険料などの支払いが増えた」(6.4ポイント増)などが増加し、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」(13.8ポイント減)などが減少している。

## (2) 生活程度

◇『中(計)』が64.4%、一方『下(計)』は17.8%

問2 お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、次の中のどれに属すると思いますか。  
(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

世間一般からみた生活程度は、「中の下」(36.1%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「中の上」(28.3%)となっている。両者を合わせた『中(計)』(64.4%)は6割台半ばとなっている。同様に、「下の上」(13.5%)と「下の下」(4.4%)を合わせた『下(計)』(17.8%)は1割台半ばを超え、「上の上」(0.1%)と「上の下」(1.2%)を合わせた『上(計)』は1.3%となっている。

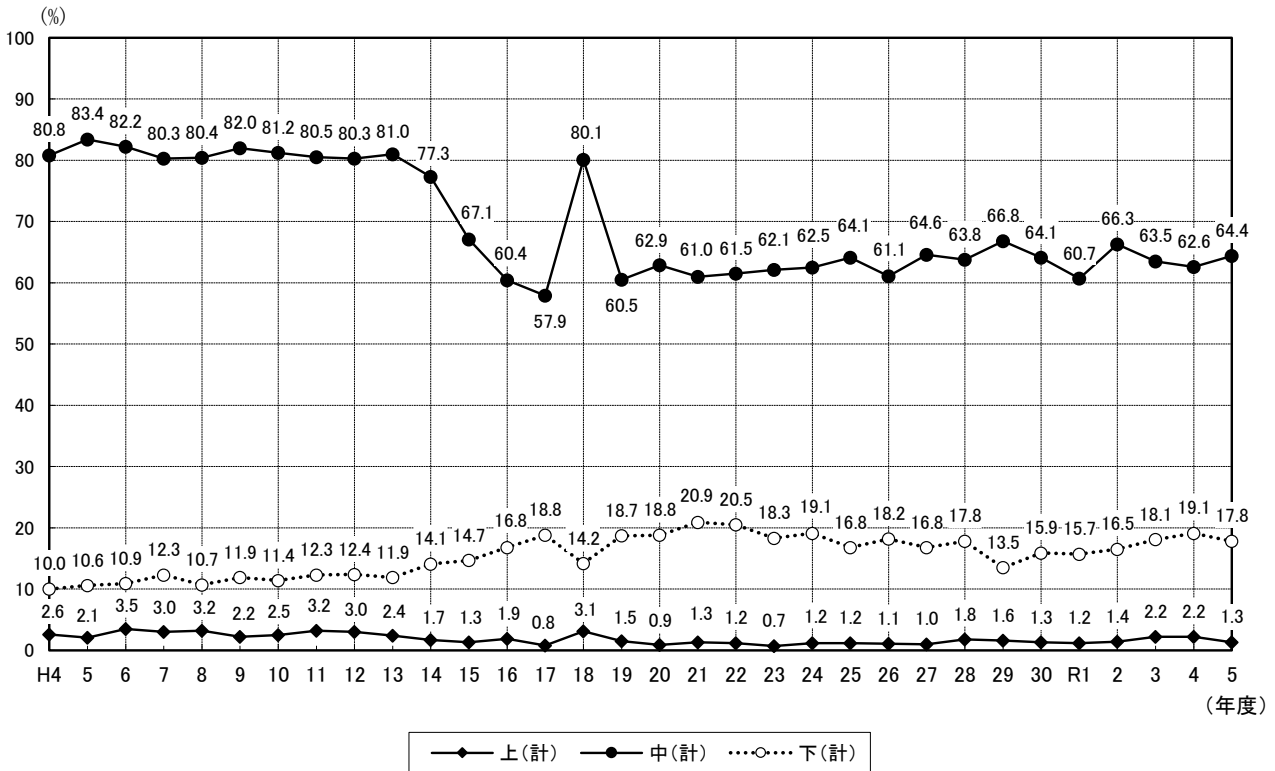
### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

## 【経年比較】

平成19年度以降、『中(計)』は6割台で推移しており、今回調査では前回調査から増加した。また、『下(計)』は平成29年度調査以降、おおむね増加傾向にあったが、今回調査では前回調査から減少した。

## ○生活程度・平成4年度以降の推移

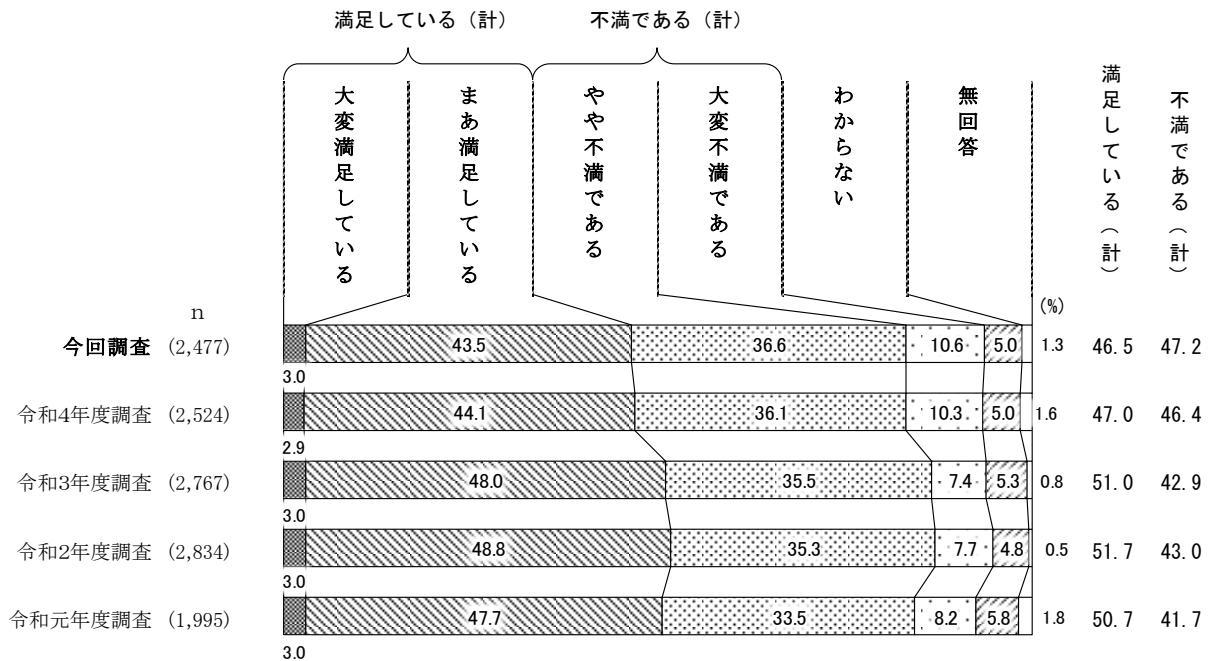


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

### (3) 生活全体の満足度

◇『満足している（計）』は46.5%、『不満である（計）』は47.2%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。  
(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」(43.5%)が4割強で最も高く、次いで「やや不満である」(36.6%)となっている。「大変満足している」(3.0%)と「まあ満足している」(43.5%)を合わせた『満足している(計)』(46.5%)は4割台半ばを超え、「大変不満である」(10.6%)と「やや不満である」(36.6%)を合わせた『不満である(計)』(47.2%)は4割台半ばを超えている。

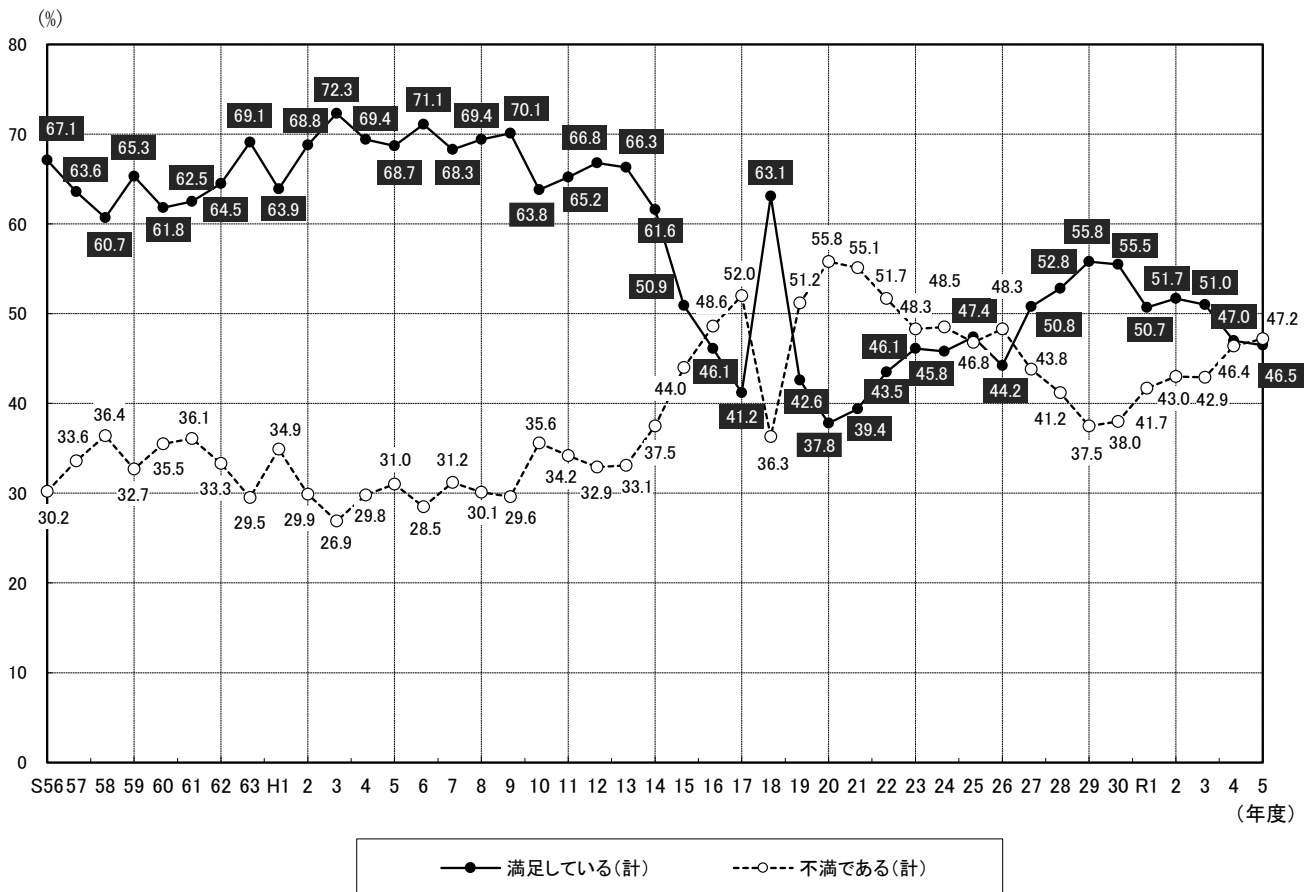
#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査までは、『満足している(計)』は『不満である(計)』よりも上回っていたが、今回調査では『不満である(計)』(47.2%)が『満足している(計)』(46.5%)をわずかに0.7ポイント上回った。

## 【経年比較】

昭和56年度以降の推移をみると、平成19年度以降『不満である(計)』の割合が『満足している(計)』をおおむね上回る傾向にあったが、『満足している(計)』の割合が平成27年度調査(50.8%)で5割を超えて逆転した。しかし今回調査は、再び『不満である(計)』(47.2%)が『満足している(計)』(46.5%)を上回る結果となった。

## ○生活全体の満足度・昭和56年度以降の推移

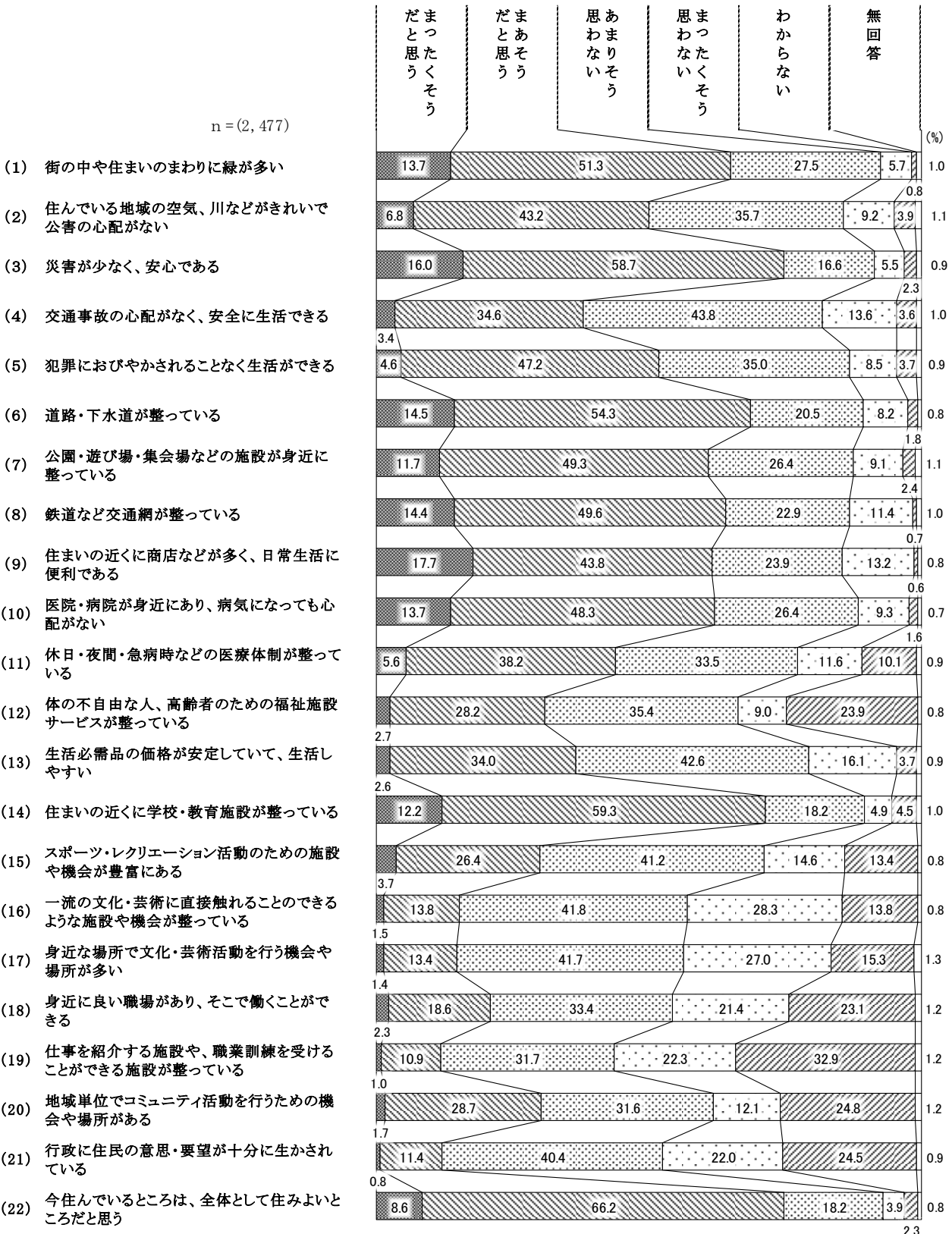


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

#### (4) 住みよさ

◇同意率が最も高いのは「災害が少なく、安心である」(74.7%)

問4 あなたは、日頃の生活の中で今お住まいの地域について、どのように感じていますか。  
 (1) から (22) までのそれぞれについて、そう思うものをお選びください。  
 (各項目それぞれ〇は1つずつ)





日ごろの生活の中で、今住んでいる地域の評価を22の項目（個別評価項目21、全体評価項目1）に分けて質問した。分析に当たっては、『そうだと思う（計）』（「まったくそうだと思う」＋「まあそうだと思う」）と『そう思わない（計）』（「まったくそう思わない」＋「あまりそう思わない」）の分類と、平均点（「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」に0の得点）の算出を行った。

## 【個別評価の21項目について】

### ①同意率・不同意率の比較

『そうだと思う（計）』（以下「同意率」という。）の高い項目

1位	災害が少なく、安心である	74.7%
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	71.4%
3位	道路・下水道が整っている	68.8%
4位	街の中や住まいのまわりに緑が多い	65.0%
5位	鉄道など交通網が整っている	63.9%

『そう思わない（計）』（以下「不同意率」という。）の高い項目

1位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	70.1%
2位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	68.7%
3位	行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	62.4%
4位	生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	58.7%
5位	交通事故の心配がなく、安全に生活できる	57.4%

### ②平均点の比較

平均点は、プラス評価が10項目で、マイナス評価が11項目となっている。

順位	プラス評価項目	平均点	順位	マイナス評価項目	平均点
1位	災害が少なく、安心である	0.64	11位	休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている	-0.07
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	0.56	12位	体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている	-0.20
3位	道路・下水道が整っている	0.47	13位	地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある	-0.24
4位	街の中や住まいのまわりに緑が多い	0.40	14位	交通事故の心配がなく、安全に生活できる	-0.30
5位	鉄道など交通網が整っている	0.33	15位	生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	-0.36
6位	医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない	0.31	16位	スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	-0.37
7位	公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	0.29	17位	身近に良い職場があり、そこで働くことができる	-0.54
	住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である	0.29	18位	仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けられる施設が整っている	-0.64
9位	犯罪におびやかされることなく生活ができる	0.05	19位	行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	-0.72
10位	住んでいる地域の空気、川などがきれい	0.03	20位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	-0.80
			21位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	-0.82

（注）平均点＝「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」を0とした。

□全体評価項目について

「今住んでいるところは全体として住みよいところだと思う」は同意率74.7%、平均点0.58点で、同意率は個別評価項目の「災害が少なく、安心である」と同率であり、それ以外のすべての項目を上回っている。

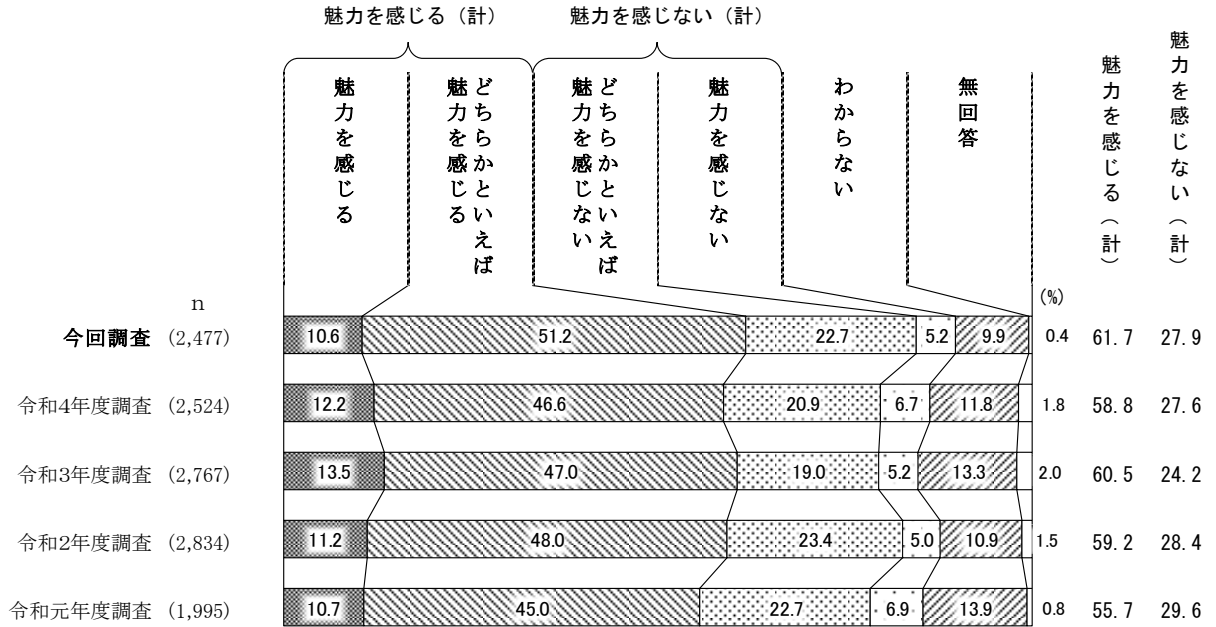
同意率の高い順

	同意率 (%)	不同意率 (%)	平均点
<b>【全体評価項目】</b> 今住んでいるところは、全体として住みよいところだと思う	74.7	22.1	0.58
<b>【個別評価21項目】</b> (3) 災害が少なく、安心である	74.7	22.1	0.64
(14) 住まいの近くに学校・教育施設が整っている	71.4	23.1	0.56
(6) 道路・下水道が整っている	68.8	28.6	0.47
(1) 街の中や住まいのまわりに緑が多い	65.0	33.2	0.40
(8) 鉄道など交通網が整っている	63.9	34.4	0.33
(10) 医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない	62.0	35.7	0.31
(9) 住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である	61.5	37.1	0.29
(7) 公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	61.0	35.4	0.29
(5) 犯罪におびやかされることなく生活ができる	51.9	43.5	0.05
(2) 住んでいる地域の空気、川などがきれいで公害の心配がない	50.0	44.9	0.03
(11) 休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている	43.8	45.1	-0.07
(4) 交通事故の心配がなく、安全に生活できる	38.0	57.4	-0.30
(13) 生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	36.6	58.7	-0.36
(12) 体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている	31.0	44.4	-0.20
(20) 地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある	30.3	43.7	-0.24
(15) スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	30.1	55.8	-0.37
(18) 身近に良い職場があり、そこで働くことができる	20.9	54.8	-0.54
(16) 一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	15.3	70.1	-0.82
(17) 身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	14.8	68.7	-0.80
(21) 行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	12.2	62.4	-0.72
(19) 仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けることができる施設が整っている	11.9	54.0	-0.64

(5) 埼玉県に魅力を感じるか

◇『魅力を感じる（計）』は61.7%、『魅力を感じない（計）』は27.9%

問5 あなたは、埼玉県に魅力を感じますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県に魅力を感じるかについては、「どちらかといえば魅力を感じる」(51.2%)が5割強と最も高く、「魅力を感じる」(10.6%)と合わせた『魅力を感じる(計)』(61.7%)は6割強となっている。一方で、「魅力を感じない」(5.2%)と「どちらかといえば魅力を感じない」(22.7%)を合わせた『魅力を感じない(計)』(27.9%)は2割台後半となっており、『魅力を感じる(計)』が『魅力を感じない(計)』よりも33.8ポイント上回っている。

【過去調査との比較】

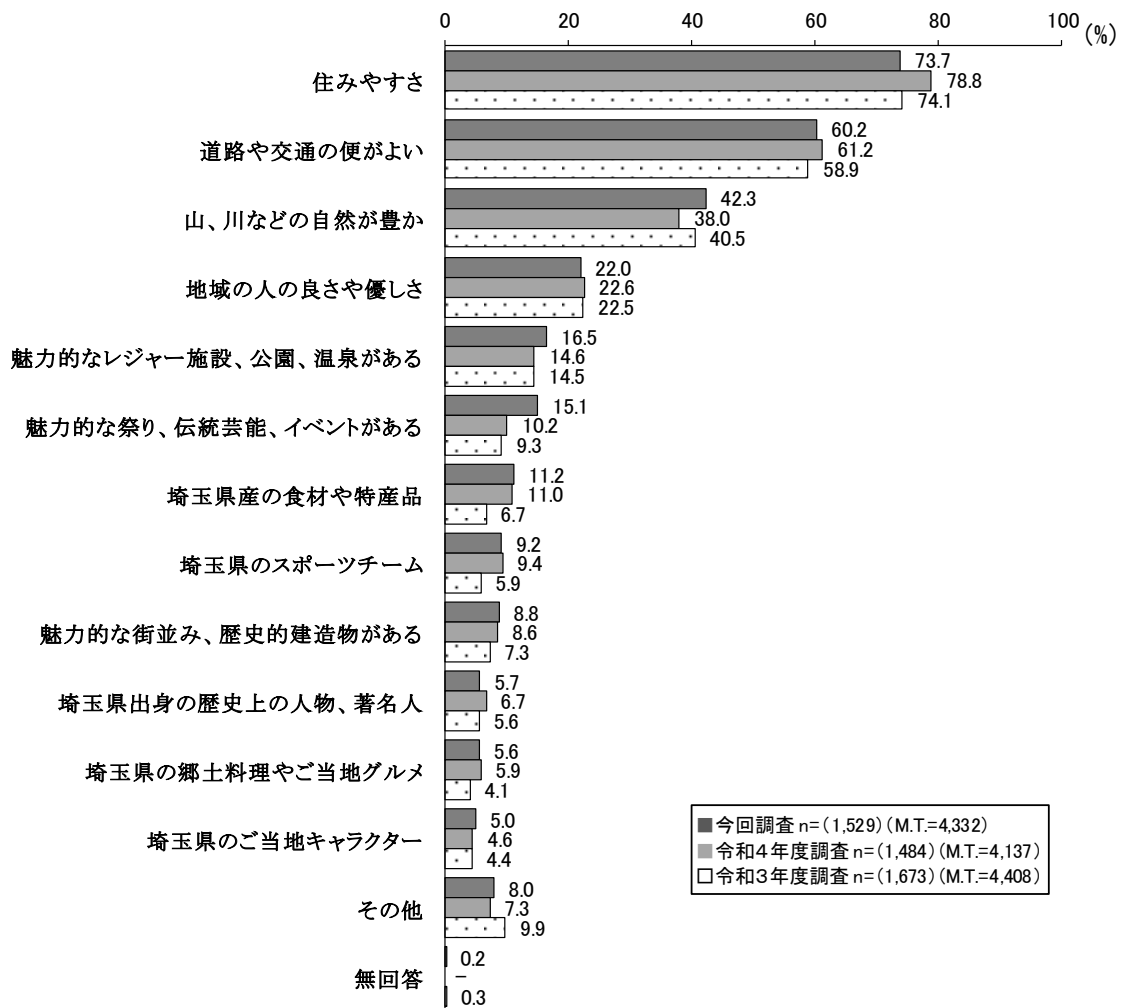
令和4年度調査と比べて、『魅力を感じる(計)』(61.7%)が2.9ポイント増加している。

(5-1) 埼玉県で魅力を感じるもの

◇「住みやすさ」が73.7%で第1位、次いで「道路や交通の便がよい」が60.2%

(問5で「1. 魅力を感じる」または「2. どちらかといえば魅力を感じる」とお答えの方にお伺いします。)

問5-1 あなたが埼玉県で魅力を感じるものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県で魅力を感じるものは、「住みやすさ」(73.7%)が7割強と最も高く、次いで「道路や交通の便がよい」(60.2%)、「山、川などの自然が豊か」(42.3%)、「地域の人の良さや優しさ」(22.0%)、「魅力的なレジャー施設、公園、温泉がある」(16.5%)、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」(15.1%) などとなっている。

【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」(4.9ポイント増)、「山、川などの自然が豊か」(4.3ポイント増)などが増加し、「住みやすさ」(5.1ポイント減)などが減少している。

## 2. 日常生活

### (1) 地域社会活動への参加経験

◇「ある」が35.2%、「ない」が63.5%

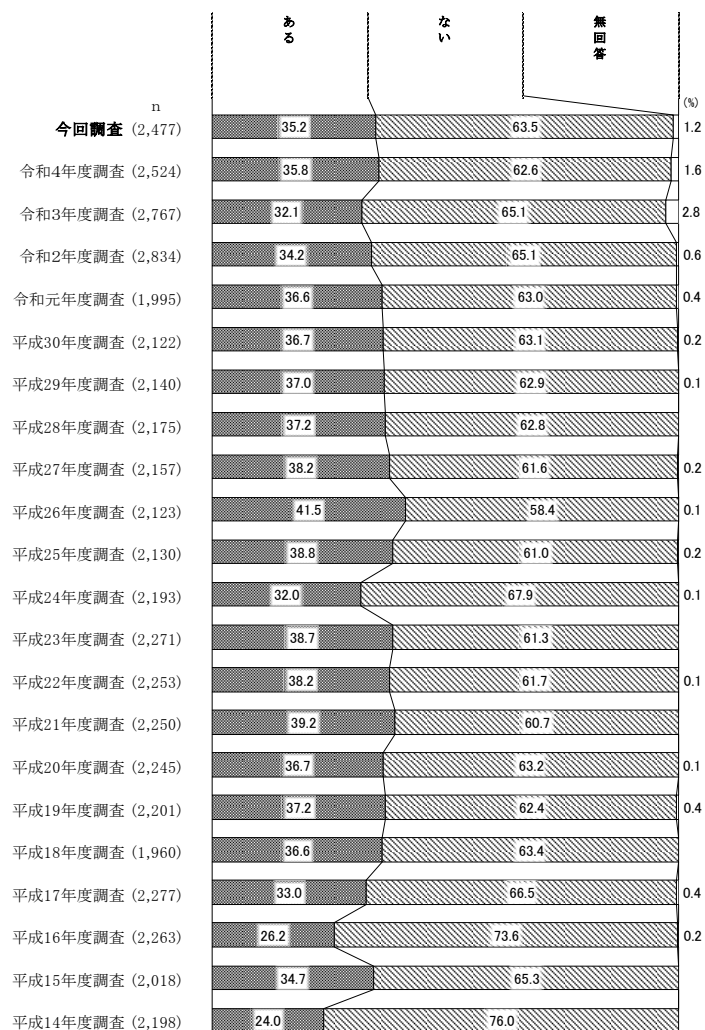
問6 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねします。

(1) あなたは、この1年間に、地域社会活動\*に参加したことがありますか。

(〇は1つだけ)

\*地域社会活動とは、例えば以下のような活動です。SNSやWeb会議システムを活用したオンラインでの参加も含まれます。

- 防犯パトロールや清掃活動等、町内会や自治会の活動
- SNSや地域新聞、掲示板等を活用した地域情報の発信活動
- 地域のイベント・祭事等への参加
- 子育てサロンや高齢者サロン等、地域サロンへの参加
- PTA活動や子供会の活動
- 趣味や経験を通じた地域のクラブ・サークル活動への参加
- 障がい者や高齢者のための活動
- 生涯学習や市(町)民大学への参加
- 青少年健全育成のための活動
- その他、地域活動やボランティア・NPO・寄付活動、地域とつながり交流する活動
- みどりや川の再生活動など環境保全の活動
- 子ども食堂やフードバンクへの寄付、募金などの活動



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間に地域社会活動に参加したことが「ある」(35.2%)は3割台半ばとなっている。

#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

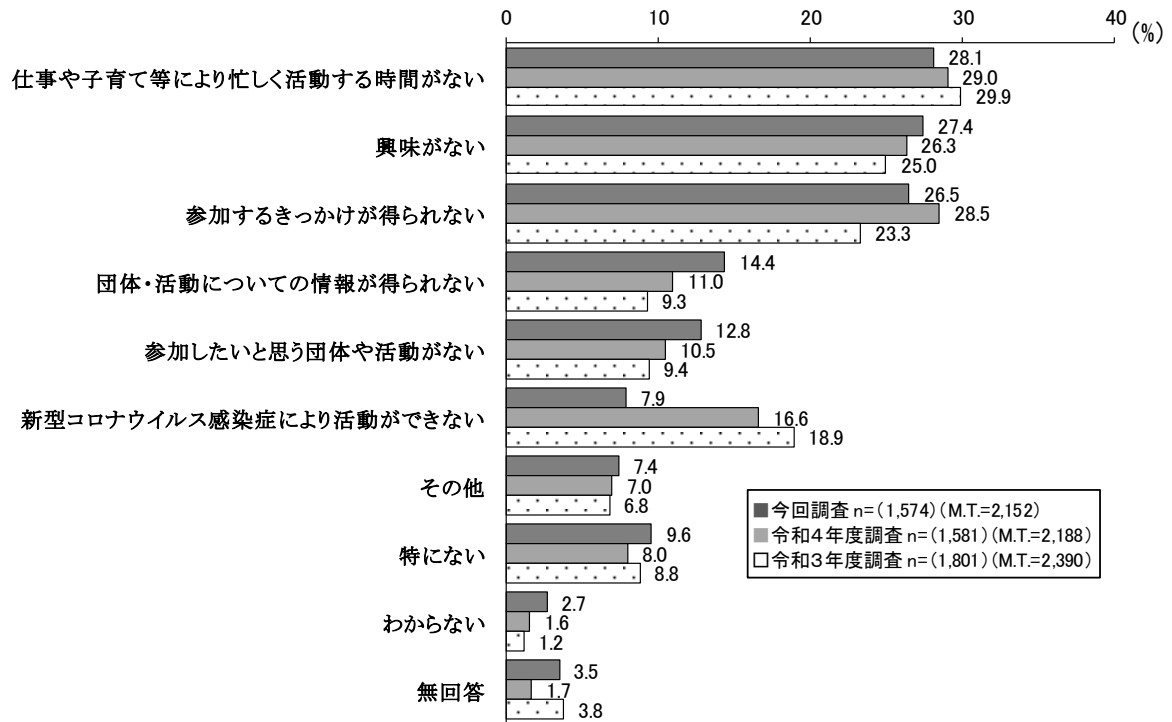
## (1-1) 地域社会活動への不参加の理由

◇「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が28.1%

(問6(1)で「2. ない」とお答えの方にお伺いします。)

問6(1)-1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

(〇は2つまで)



地域社会活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(28.1%)が3割弱で最も高く、次いで「興味がない」(27.4%)、「参加するきっかけが得られない」(26.5%)、「団体・活動についての情報が得られない」(14.4%)、「参加したいと思う団体や活動がない」(12.8%)などとなっている。

### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「団体・活動についての情報が得られない」(3.4ポイント増)、「参加したいと思う団体や活動がない」(2.3ポイント増)などが増加し、「新型コロナウイルス感染症により活動ができない」(8.7ポイント減)、「参加するきっかけが得られない」(2.0ポイント減)などが減少している。

## (2) 文化や芸術の活動の経験

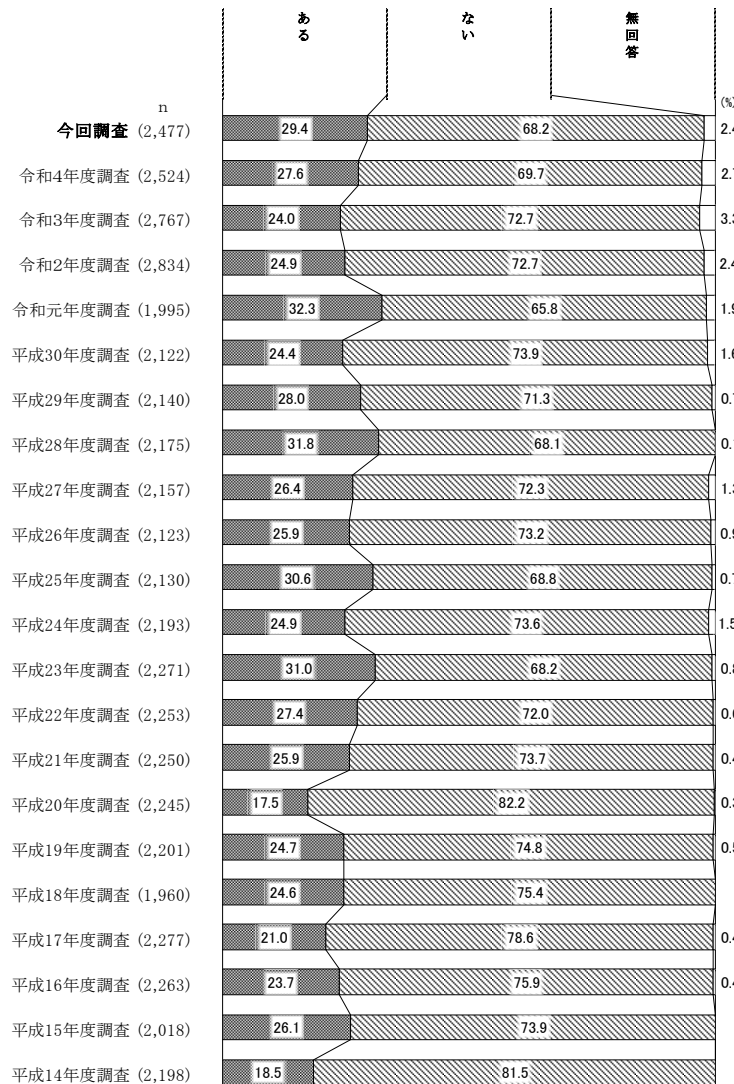
◇「ある」が29.4%、「ない」が68.2%

問6(2) あなたは、この1年間に、趣味や習い事、サークル活動、体験教室などで文化や芸術の活動\*を行なったことがありますか。(インターネット上で行う活動も含みます。)

(○は1つだけ)

\*例えば以下のような分野での活動です。

- ・音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など）
- ・美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）
- ・舞踊（バレエ、ダンス、よさこいなど）
- ・生活文化（書道、茶道、華道、盆栽など）
- ・伝統芸能（和太鼓、民謡、民舞、日本舞踊、獅子舞、歌舞伎、地域のお祭りなど）
- ・伝統工芸、文化財の継承・保存
- ・写真（風景、人物、花、動物、料理など。スマートフォンでの撮影も含む）
- ・映画・漫画・アニメ・CGなどのメディア芸術
- ・演劇（現代劇、ミュージカルなど）
- ・文芸（小説、詩、俳句、短歌など）
- ・演芸（落語、漫談、漫才など）
- ・国民娯楽（囲碁、将棋など）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間に文化や芸術の活動を行なったことが「ある」(29.4%)は約3割となっている。

### 【過去調査との比較】

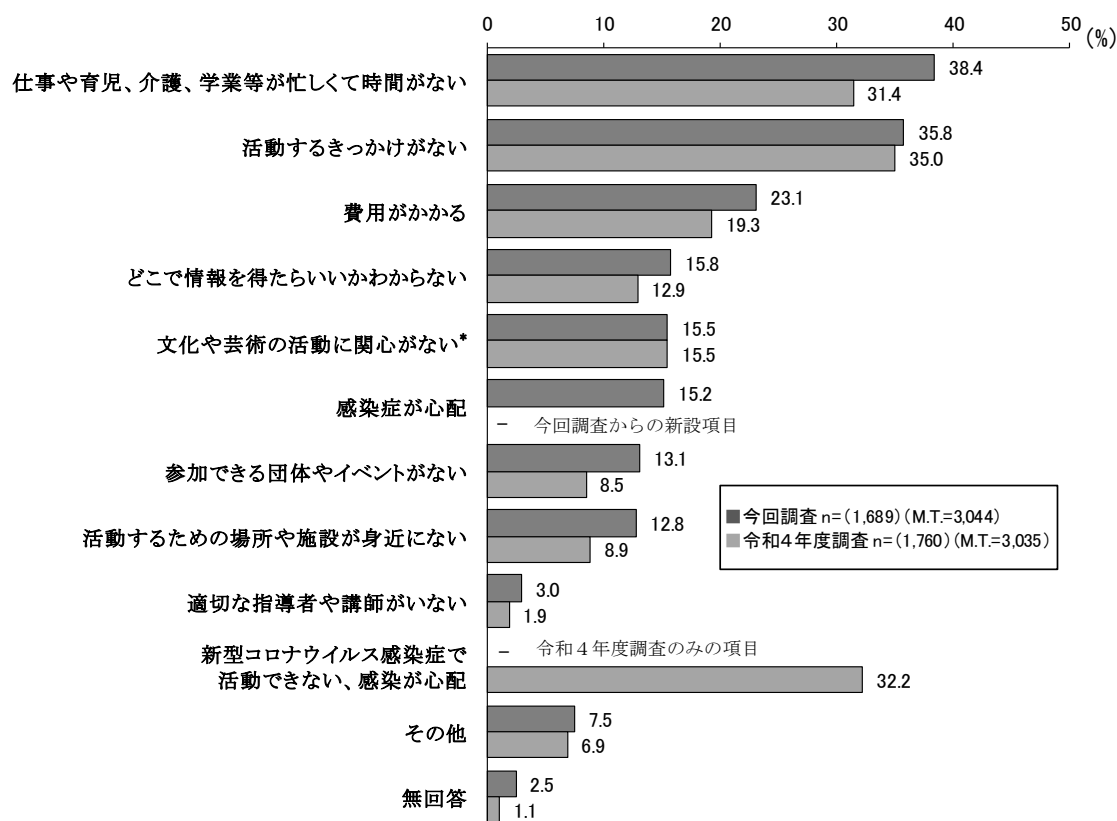
令和4年度調査と比べると、「ある」は1.8ポイントの増加となっている。

## (2-1) 文化や芸術の活動への不参加の理由

◇「仕事や育児、介護、学業等が忙しくて時間がない」が38.4%

(問6(2)で「2.ない」とお答えの方にお伺いします。)

問6(2)-1 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。  
(○はいくつでも)



\*令和4年度は「文化芸術活動に関心がない」

文化や芸術の活動への不参加の理由は、「仕事や育児、介護、学業等が忙しくて時間がない」(38.4%)が4割弱で最も高く、次いで「活動するきっかけがない」(35.8%)、「費用がかかる」(23.1%)、「どこで情報を得たらいいかわからない」(15.8%)、「文化や芸術の活動に関心がない」(15.5%)などとなっている。

### 【過去調査との比較】

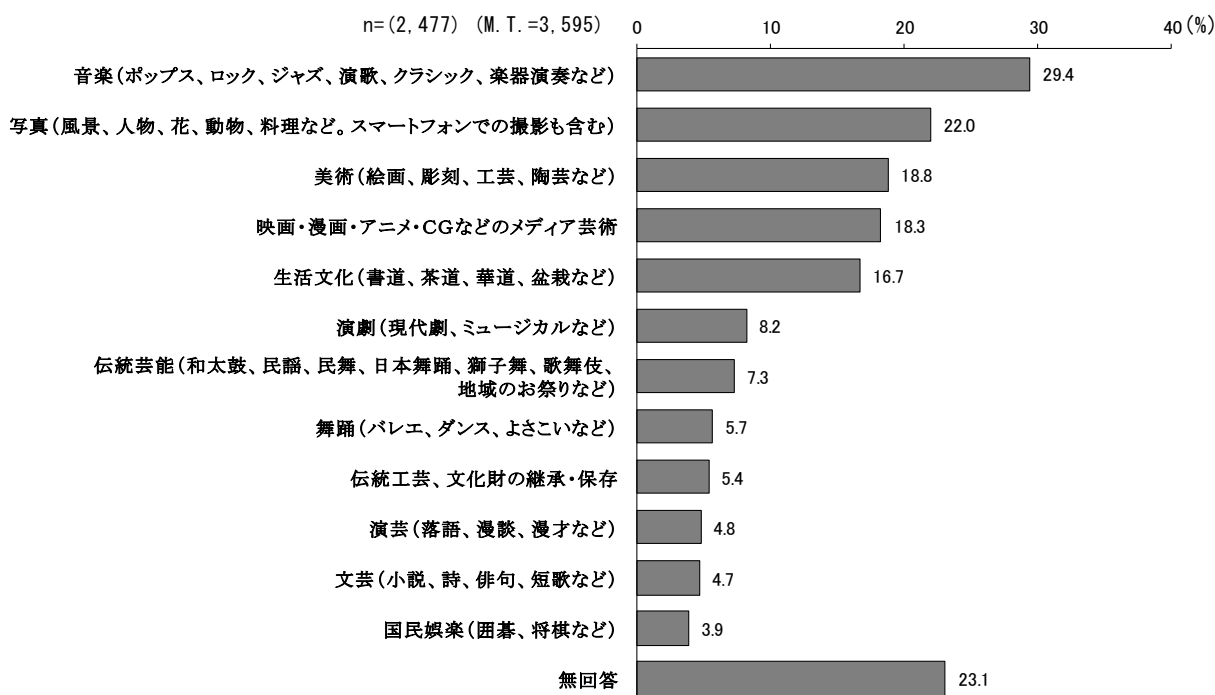
令和4年度調査と比べて、「文化や芸術の活動に関心がない」(15.5%)を除いたすべての項目で増加し、特に「仕事や育児、介護、学業等が忙しくて時間がない」(38.4%)が7.0ポイント増加している。



### (3) 今後、参加したい、取り組みたい文化や芸術の活動

◇「音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など）」が29.4%

問6 (3) 今後、参加したい、取り組みたい文化や芸術の活動はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

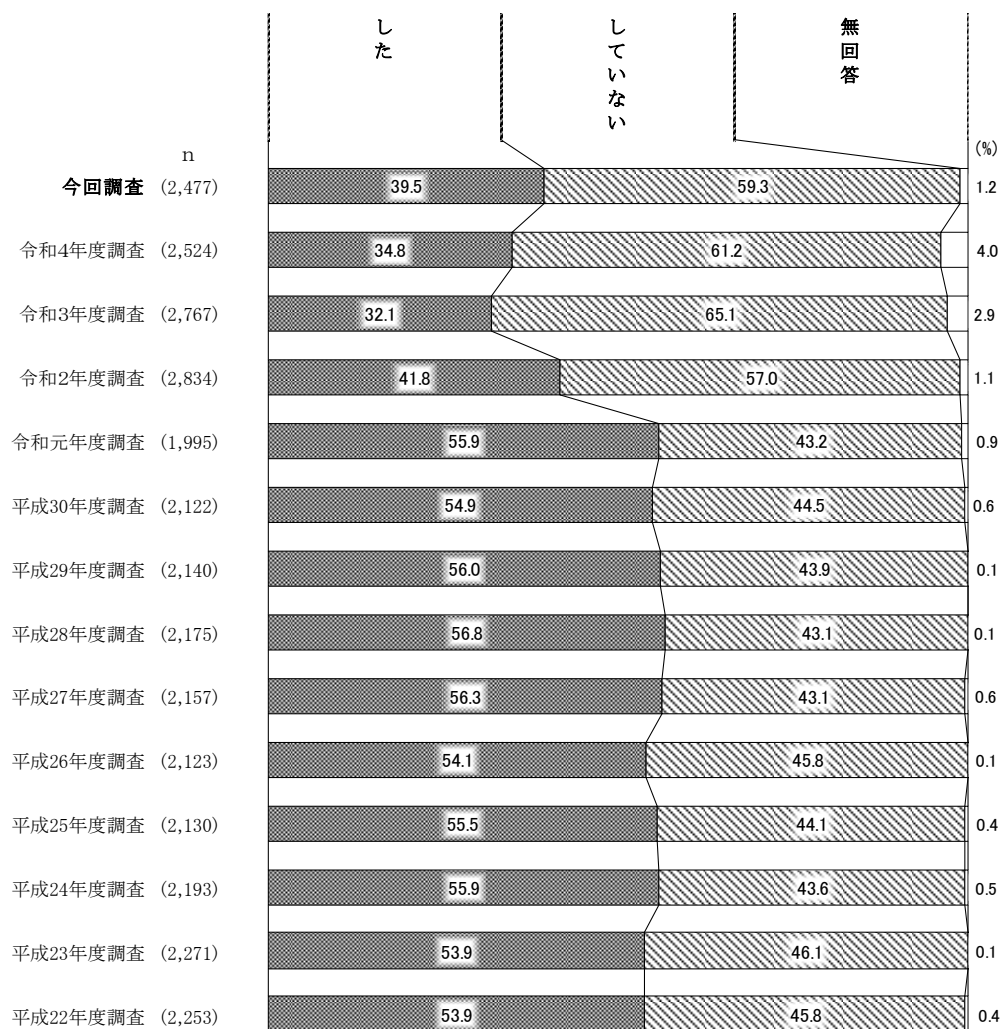


今後、参加したい、取り組みたい文化や芸術の活動では、「音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など）」(29.4%) が約3割と最も高く、次いで「写真（風景、人物、花、動物、料理など。スマートフォンでの撮影も含む）」(22.0%)、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」(18.8%)、「映画・漫画・アニメ・CGなどのメディア芸術」（18.3%)、「生活文化（書道、茶道、華道、盆栽など）」(16.7%) などとなっている。

#### (4) 文化や芸術の鑑賞

◇「した」が39.5%、「していない」が59.3%

問6(4) あなたは、この1年間に、文化や芸術を鑑賞しましたか。(○は1つだけ)



※令和4年度調査までは選択肢「ある」「ない」

※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間に、文化や芸術を鑑賞したかは、「した」(39.5%)は約4割となっており、「していない」(59.3%)を19.8ポイント下回っている。

#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「した」(39.5%)は4.7ポイント増加している。

## (5) スポーツ・レクリエーション活動の実施とその頻度

◇『週に1回程度以上（計）』は全体の56.2%

問7 埼玉県では、週に1回以上スポーツをすることを推奨しています。

あなたは、この1年間に、散歩やウォーキング、軽い体操や日常生活の中で意識的に体を動かすことなどをはじめ、スポーツ・レクリエーション活動\*をしましたか。

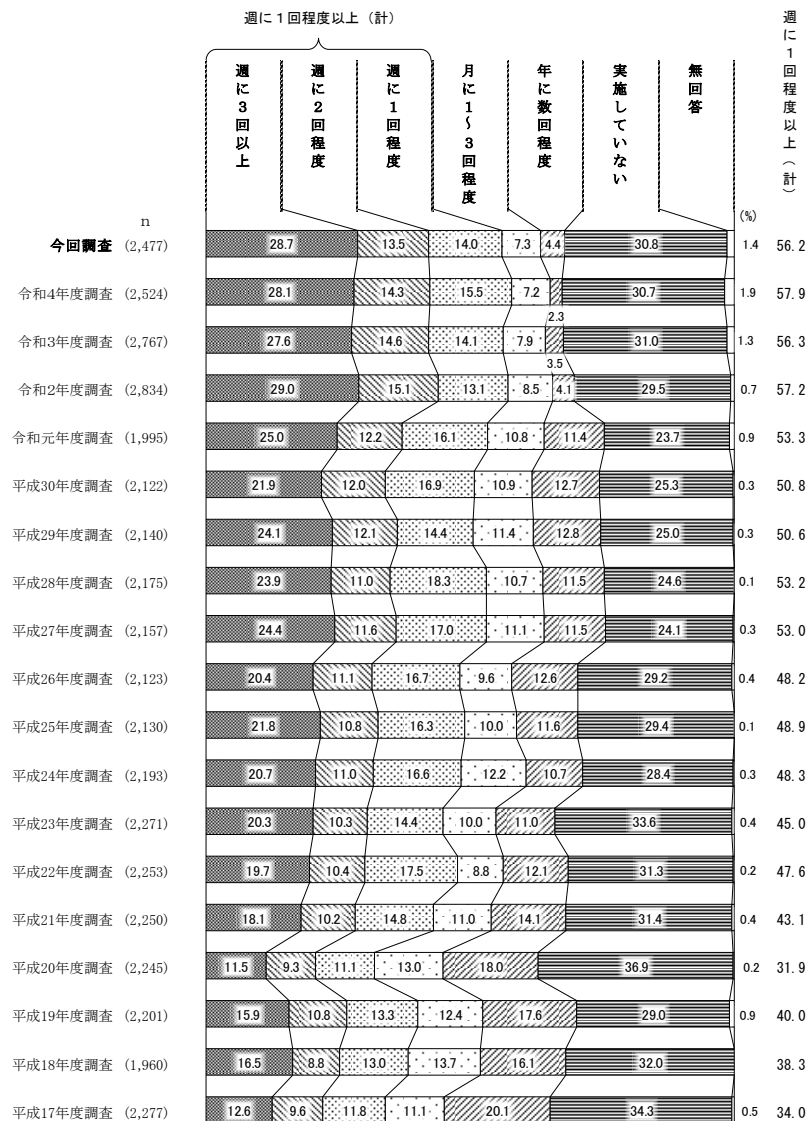
(○は1つだけ)

問7(1)-1 (問7で「1. した」場合に) それはどのくらいの頻度でしましたか。

(○は1つだけ)

\*スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

散歩・ウォーキング(ぶらぶら歩き、一駅歩きを含む)、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすこと、階段昇降、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操・ラジオ体操を含む)、ヨガ・バレエ、登山(トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、トレーニング(筋力・その他運動器具を使った運動)、釣り、自転車・サイクリング、ゲートボール、ダンス(フォークダンス、民謡踊りを含む)、バーチャルスポーツ(体の動きを伴うコンピューターゲーム) など



※選択肢「月に1〜3回程度」は、平成22年度から平成26年度調査までは「月に1〜2回程度」としていた。  
 平成24年度調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。  
 令和2年度調査からは「実施していない」は問7の「していない」を問7-1に組み込んだものである。  
 ※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施機会は、「実施していない」(30.8%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで「週に3回以上」(28.7%)となっており、「週に2回程度」(13.5%)、「週に1回程度」(14.0%)を合わせた『週に1回程度以上(計)』(56.2%)は5割台半ばを超えている。

#### 【過去調査との比較】

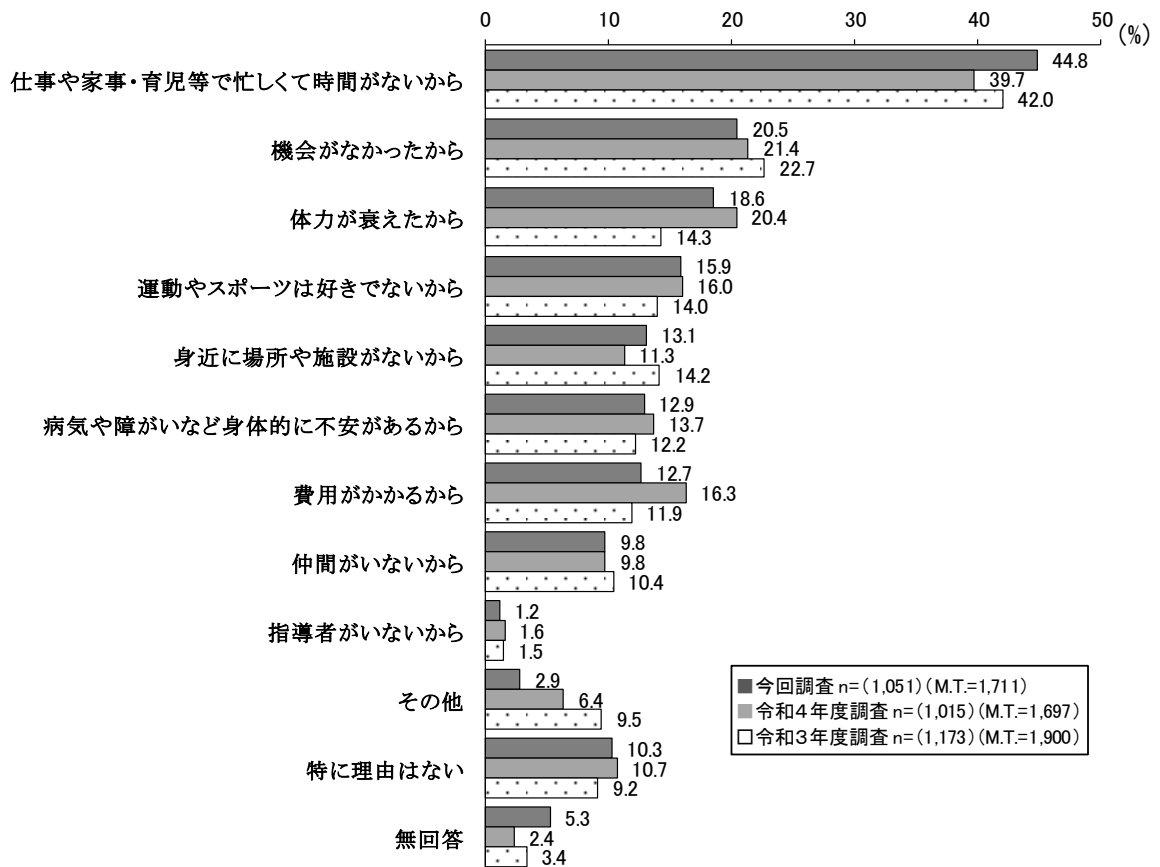
令和4年度調査と比べて、『週に1回程度以上(計)』の割合に特に大きな差は見られない。

(5-1) スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由

◇「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が44.8%

(問7で「2. していない」とお答えの方、または問7-1で「4. 月に1~3回程度」もしくは「5. 年に数回程度」とお答えの方にお伺いします。)

問7(1)-2 週に1回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



週に1回以上スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(44.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで「機会がなかったから」(20.5%)が2割を超えて続き、以下「体力が衰えたから」(18.6%)、「運動やスポーツは好きでないから」(15.9%)、「身近に場所や施設がないから」(13.1%)などとなっている。

【過去調査との比較】

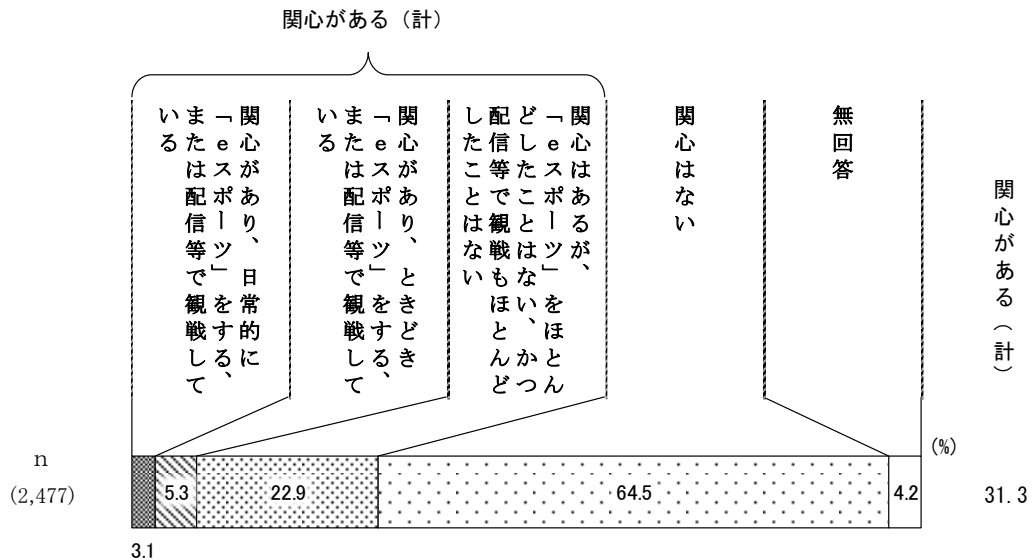
令和4年度調査と比べると、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(44.8%)が5.1ポイント増加している。

## (6) eスポーツへの関心

◇『関心がある（計）』は全体の31.3%

問7（2） あなたは、「eスポーツ\*」に関心がありますか。（○は1つだけ）

\*「eスポーツ(esports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

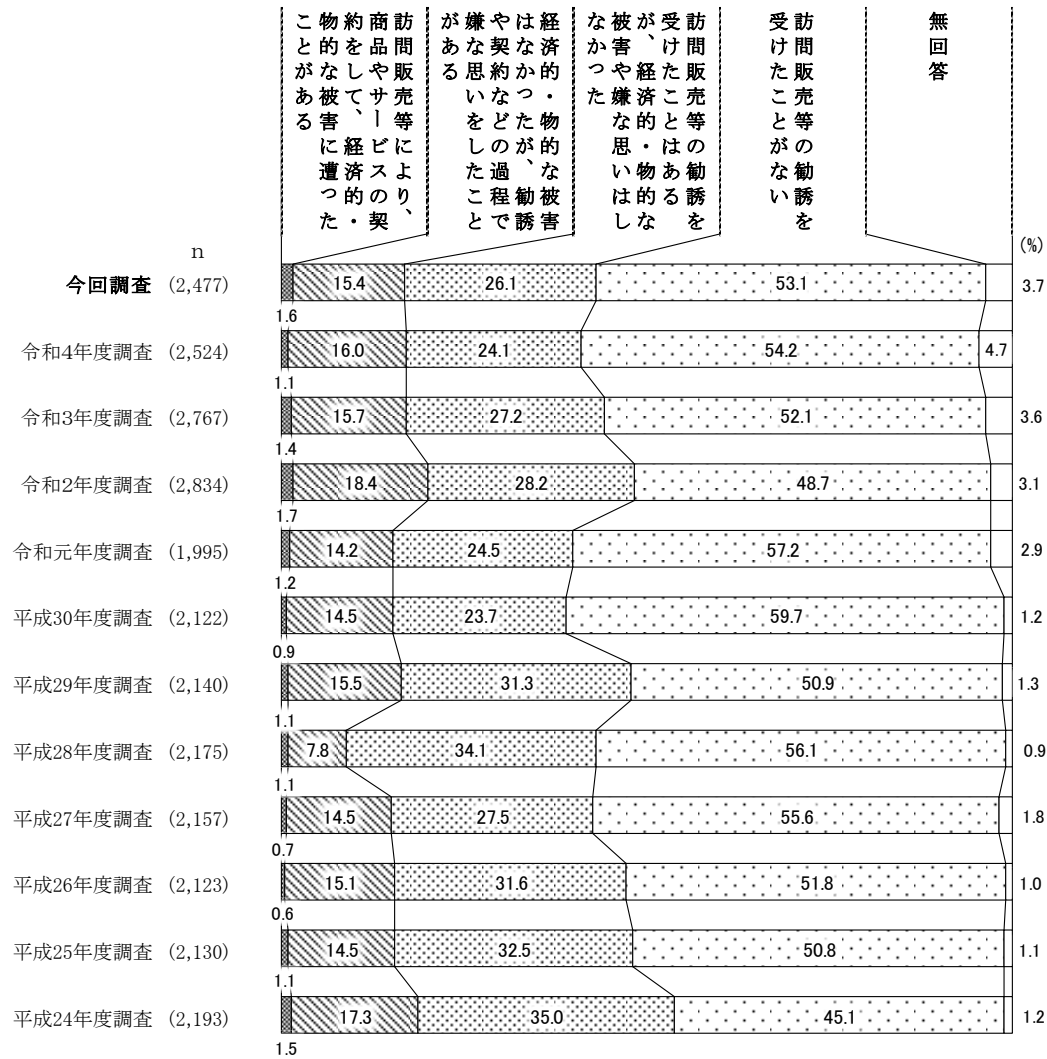


eスポーツへの関心は、「関心はない」（64.5%）が6割台半ばと最も高くなっている。関心がある中では、「関心はあるが、「eスポーツ」をほとんどしたことはない、かつ配信等で観戦もほとんどしたことはない」（22.9%）が2割強と最も高く、「関心があり、日常的に「eスポーツ」をする、または配信等で観戦している」（3.1%）、「関心があり、ときどき「eスポーツ」をする、または配信等で観戦している」（5.3%）を合わせた『関心がある（計）』（31.3%）は3割強となっている。

(7-1) 訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害

◇「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が53.1%

問8 消費生活についておたずねします。  
 (1) あなたは、この1年間に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭った、または嫌な思いをしたことがありますか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」(53.1%)が5割強で最も高くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」(26.1%)が2割台半ばを超えて最も高くなっており、次いで、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」(15.4%)、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」(1.6%)となっている。

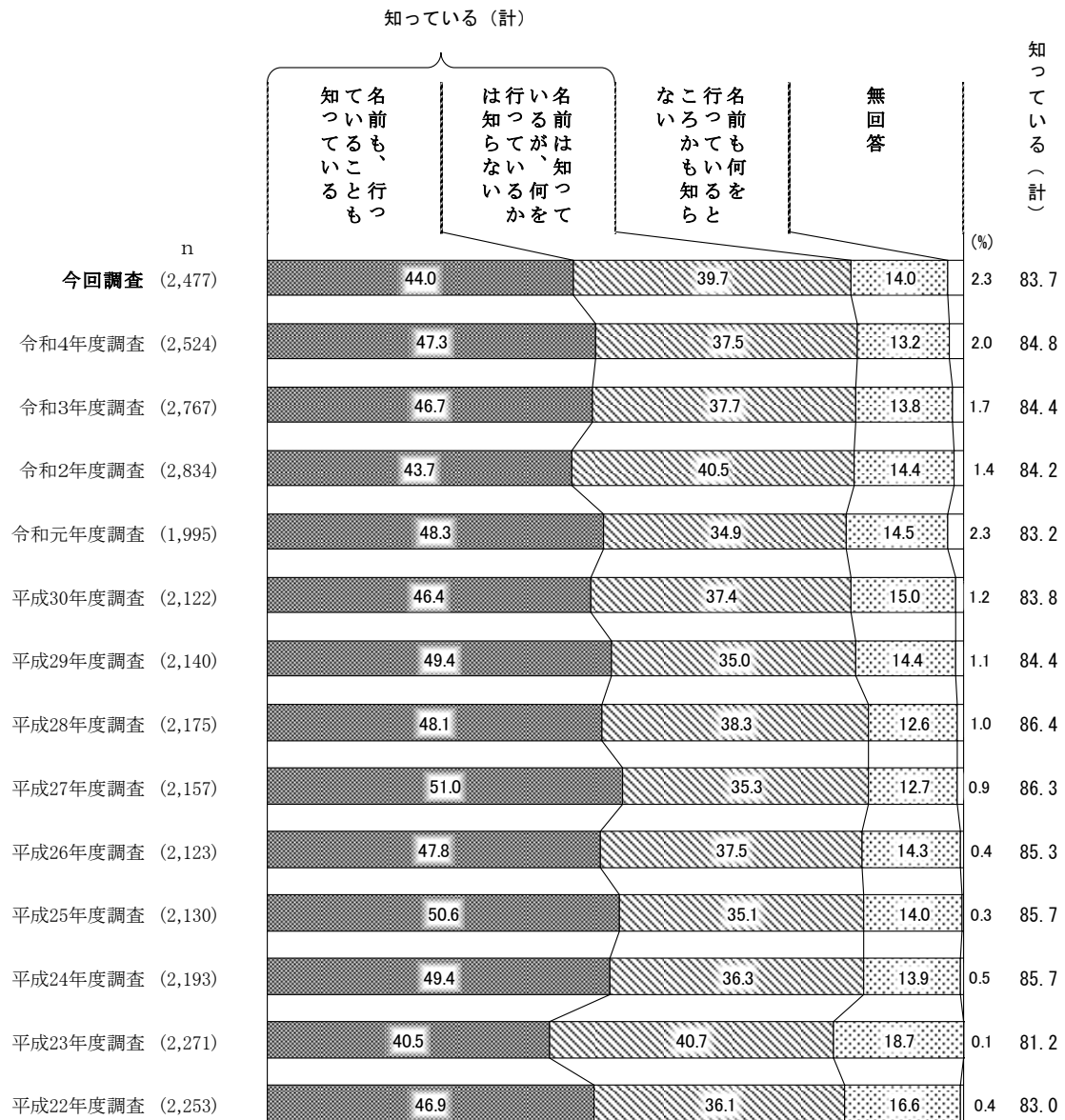
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」(26.1%)が2.0ポイント増加している。

## (7-2) 消費生活センターの認知度

◇『知っている（計）』が83.7%

問8（2） あなたは、契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター（または消費生活相談窓口）を知っていますか。（〇は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

消費生活センター（または消費生活相談窓口）の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」（44.0%）が4割台半ばと最も高くなっている。次いで「名前は知っているが、何を行っているかは知らない」（39.7%）となっており、これらを合わせた『知っている（計）』（83.7%）は8割強を占めている。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」（14.0%）は1割台半ばとなっている。

### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、『知っている（計）』の割合に大きな差はないが、「名前も、行っていることも知っている」は3.3ポイント減少した。

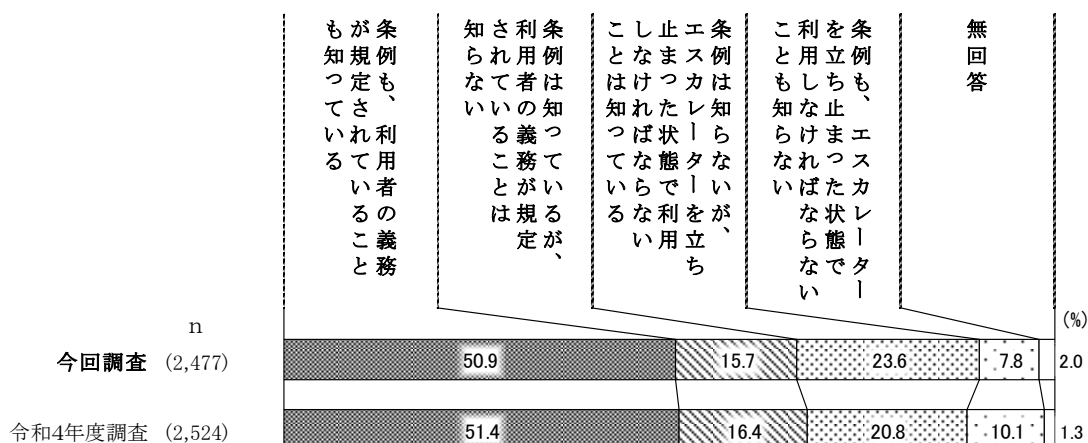


(8-1) 「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」の認知度

◇「条例も、利用者の義務が規定されていることも知っている」が50.9%

問9 エスカレーターの利用についておたずねします。

(1) あなたは、「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例（以下「条例」という。）」で、エスカレーターの利用者の義務として「立ち止まった状態で利用しなければならない」と規定していることを知っていますか。（〇は1つだけ）



「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」の認知度は、「条例も、利用者の義務が規定されていることも知っている」（50.9%）が5割を超えて最も高く、次いで「条例は知らないが、エスカレーターを立ち止まった状態で利用しなければならないことは知っている」（23.6%）、「条例は知っているが、利用者の義務が規定されていることは知らない」（15.7%）、「条例も、エスカレーターを立ち止まった状態で利用しなければならないことも知らない」（7.8%）となっている。

【過去調査との比較】

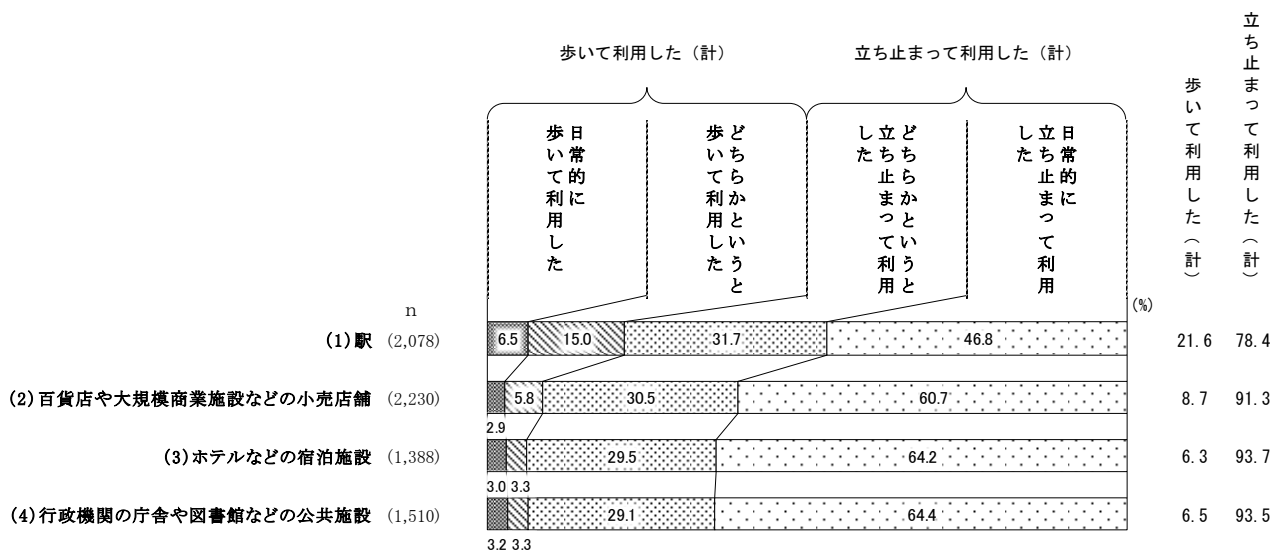
令和4年度調査と比べて、「条例は知らないが、エスカレーターを立ち止まった状態で利用しなければならないことは知っている」（23.6%）が2.8ポイント増加し、「条例も、エスカレーターを立ち止まった状態で利用しなければならないことも知らない」（7.8%）が2.3ポイント減少している。

## (8-2) エスカレーターの利用実態

◇駅での利用は、『歩いて利用した(計)』が21.6%、『立ち止まって利用した(計)』が78.4%

問9(2) あなたは、この1年間に、エスカレーターを利用する際、歩いて利用しましたか。それとも立ち止まって利用しましたか。エスカレーターが設置されている次の(1)から(4)までの施設それぞれについて、近いものを選んでください。  
(各施設それぞれ〇は1つずつ)

※本設問は、任意設問のため、「利用していない」と「無回答」を除いたものをn数(回答者)として、利用形態を比較した。

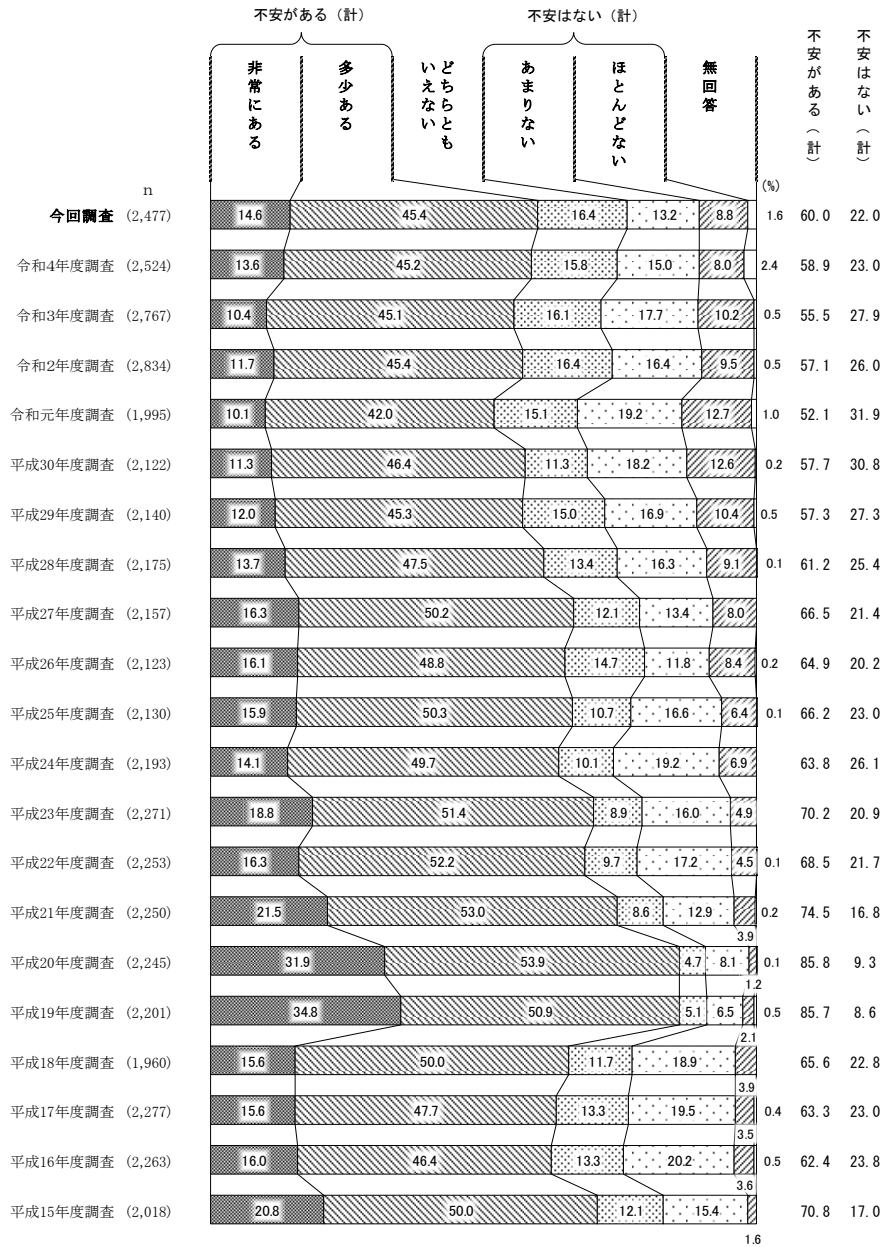


『立ち止まって利用した(計)』は(3)ホテルなどの宿泊施設(93.7%)で9割強と最も高くなっている。次いで、(4)行政機関の庁舎や図書館などの公共施設(93.5%)、(2)百貨店や大規模商業施設などの小売店舗(91.3%)となっており、(1)駅(78.4%)が8割弱で最も低くなっている。

## (9) 食品の安全性に対する意識

◇『不安がある（計）』が60.0%

問10 食品の安全性についておたずねします。  
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

食品の安全性について、不安が「多少ある」（45.4%）が4割台半ばと最も高く、これに「非常にある」（14.6%）を合わせた『不安がある（計）』（60.0%）は6割となっている。一方で、不安が「ほとんどない」（8.8%）と「あまりない」（13.2%）を合わせた『不安はない（計）』（22.0%）は2割強となっている。

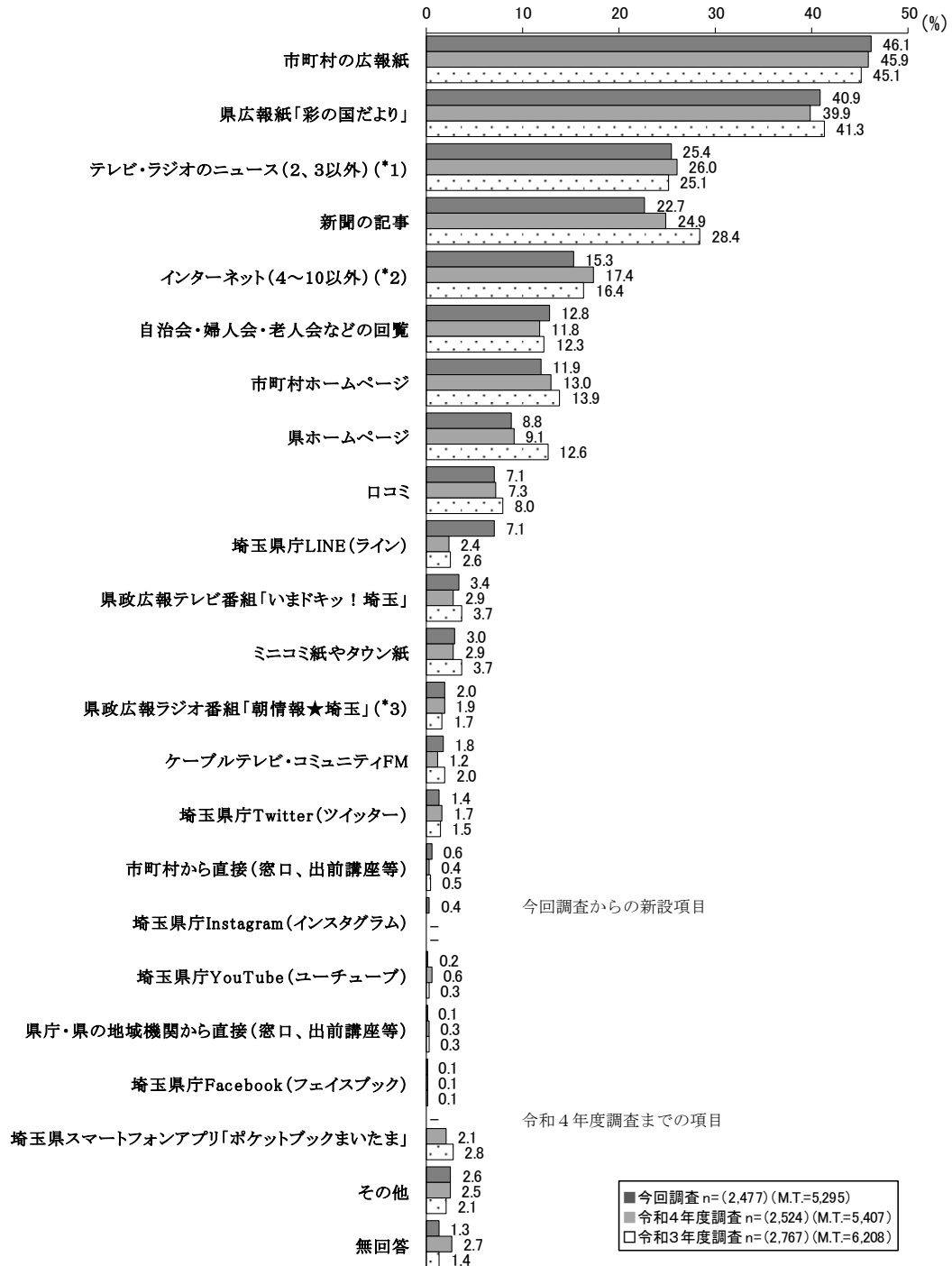
### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

# (10) 埼玉県に関する情報の入手先

◇市町村の広報紙が46.1%

問11 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



\*1 テレビ・ラジオのニュース(2、3以外)は、「2. 県政広報テレビ番組『いまドキッ!埼玉』(テレビ埼玉/土曜朝8:30~9:00)」、「3. 県政広報ラジオ番組『朝情報★埼玉』(FM NACK5/月~金曜朝8:15~8:25)」を除くテレビ・ラジオのニュースを指す。  
 \*2 インターネット(4~10以外)は、「4. 県ホームページ」、「5. 埼玉県庁LINE(ライン)」、「6. 埼玉県庁Twitter(ツイッター)」、「7. 埼玉県庁Facebook(フェイスブック)」、「8. 埼玉県庁YouTube(ユーチューブ)」、「9. 埼玉県庁Instagram(インスタグラム)」、「10. 市町村ホームページ」を除くインターネットを指す。  
 \*3 番組変更に伴い、令和2年度から「県政広報ラジオ番組『FM NACK5 モーニングスクエア』」を「県政広報ラジオ番組『朝情報★埼玉』」へ変更した

埼玉県に関する情報の入手先は、「市町村の広報紙」（46.1％）が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「県広報紙『彩の国だより』（40.9％）、「テレビ・ラジオのニュース（2、3以外）」（25.4％）、「新聞の記事」（22.7％）、「インターネット（4～10以外）」（15.3％）、「自治会・婦人会・老人会などの回覧」（12.8％）、「市町村ホームページ」（11.9％）などとなっている。

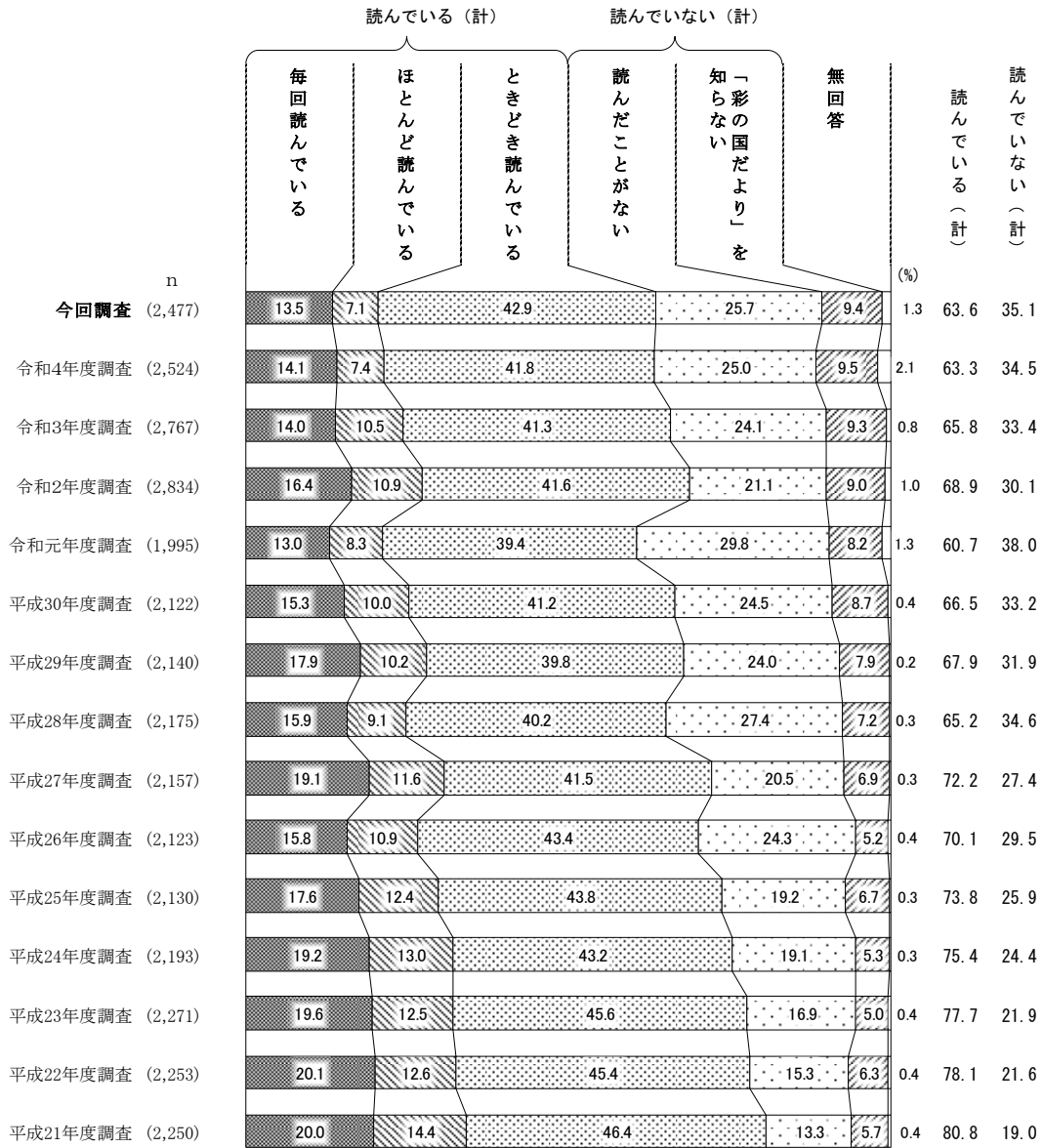
#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「埼玉県庁LINE」が4.7ポイント増加している。

(11-1) 県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

◇『読んでいる(計)』が63.6%

問12 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。  
 (1) あなたは、県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」(42.9%)が4割強と最も高く、これに「毎回読んでいる」(13.5%)と「ほとんど読んでいる」(7.1%)を合わせた『読んでいる(計)』(63.6%)は6割強と高くなっている。一方で、「読んだことがない」(25.7%)と「『彩の国だより』を知らない」(9.4%)を合わせた『読んでいない(計)』(35.1%)は3割台半ばとなっている。

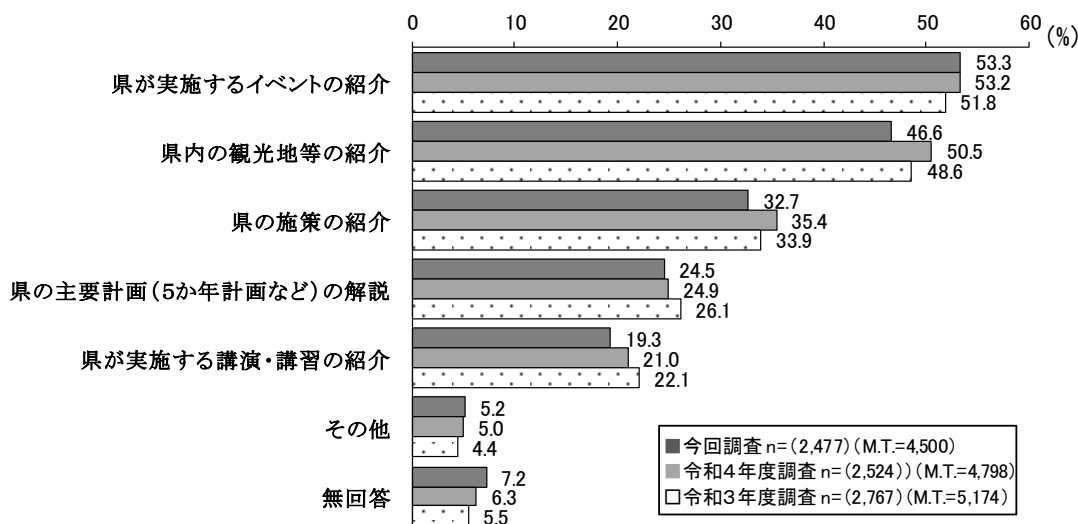
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

(11-2) 県広報紙「彩の国だより」に期待する記事

◇「県が実施するイベントの紹介」が53.3%と最も高い

問12(2) あなたは、「彩の国だより」にどのような記事を期待しますか。  
(〇はいくつでも)



県広報紙「彩の国だより」に期待する記事は、「県が実施するイベントの紹介」(53.3%)が5割強で最も高く、次いで「県内の観光地等の紹介」(46.6%)が4割台半ばを超えて続き、以下「県の施策の紹介」(32.7%)、「県の主要計画(5か年計画など)の解説」(24.5%)、「県が実施する講演・講習の紹介」(19.3%)の順となっている。

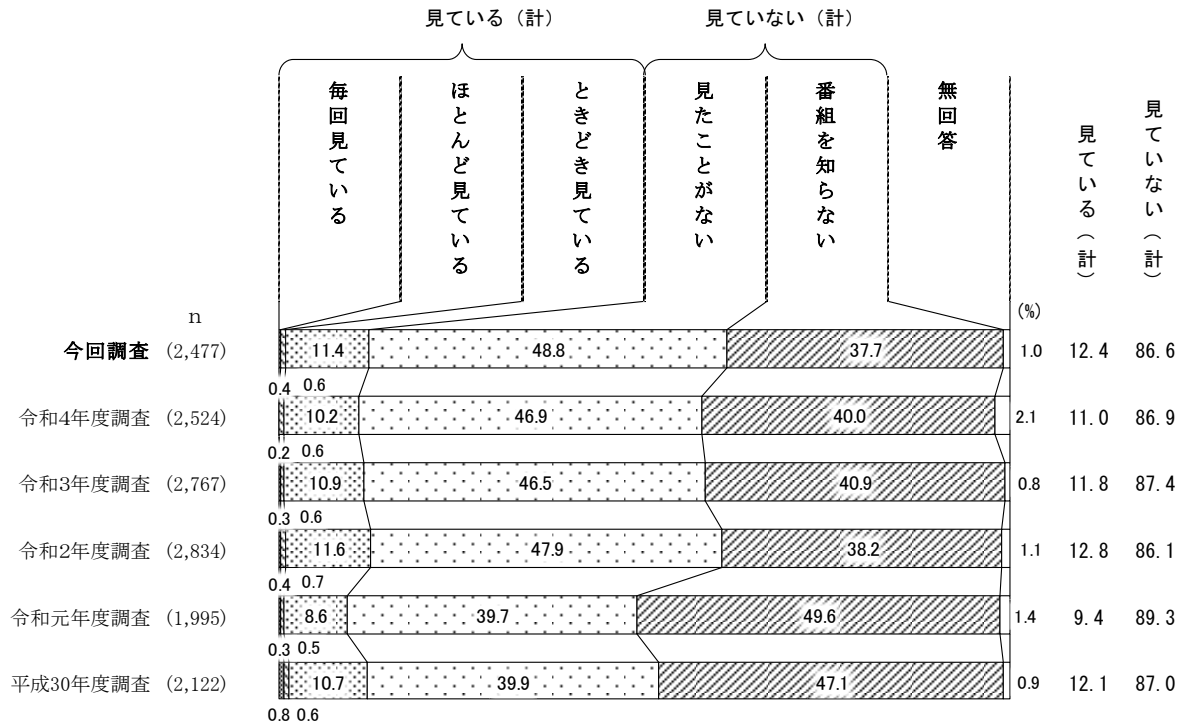
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、ほぼすべての項目で減少しており、特に「県内の観光地等の紹介」(46.6%)は3.9ポイント減少している。

(11-3) 県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況

◇『見ている（計）』は12.4%、『見ていない（計）』は86.6%

問12(3) あなたは、県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉（テレビ埼玉/土曜朝8:30～9:00）」を見たことがありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況は、「見たことがない」（48.8%）が5割弱と最も高く、これに「番組を知らない」（37.7%）を合わせた『見ていない（計）』（86.6%）は8割台半ばを超えている。一方で、「毎回見ている」（0.4%）、「ほとんど見ている」（0.6%）、「ときどき見ている」（11.4%）を合わせた『見ている（計）』（12.4%）は1割強となっている。

【過去調査との比較】

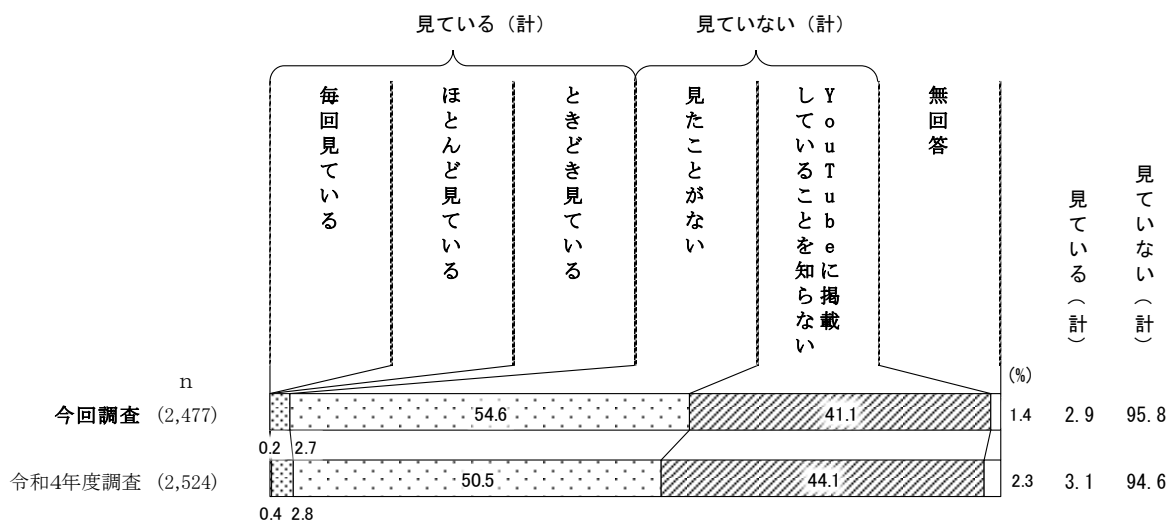
令和4年度調査と比べて、『見ている（計）』（12.4%）は1.4ポイント増加している。



(11-4) 県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」のYouTube動画の視聴状況

◇『見ている（計）』は2.9%、『見ていない（計）』は95.8%

問12(4) 県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉（テレビ埼玉/土曜朝8:30～9:00）」は、放送後、埼玉県庁YouTubeに掲載しています。  
あなたは、番組のYouTube動画を見たことがありますか。（○は1つだけ）



県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」のYouTube動画の視聴状況は、「見たことがない」(54.6%)が5割台半ばと最も高く、これに「YouTubeに掲載していることを知らない」(41.1%)を合わせた『見ていない(計)』(95.8%)は9割台半ばとなっている。一方で、「ほとんど見ている」(0.2%)、「ときどき見ている」(2.7%)を合わせた『見ている(計)』は2.9%となっている。

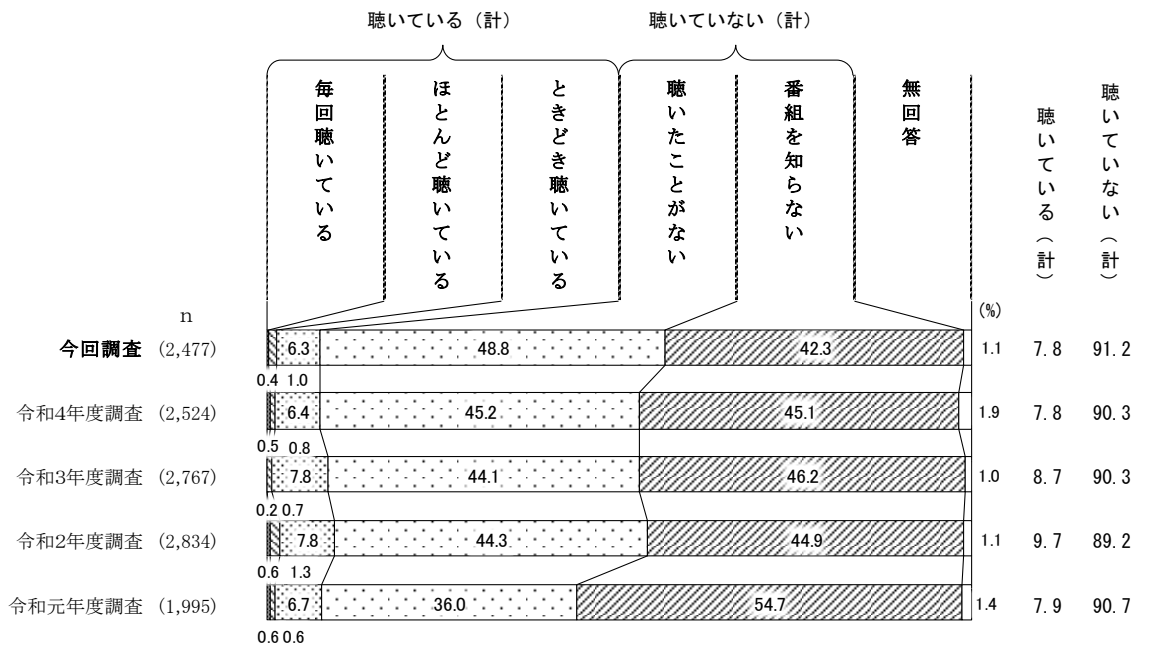
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、『見ていない(計)』(95.8%)は1.2ポイント増加している。

(11-5) 県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況

◇『聴いている（計）』は7.8%、『聴いていない（計）』は91.2%

問12(5) あなたは、県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉（FM NACK5/月～金曜朝8:15～8:25）」を聴いたことがありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況は、「聴いたことがない」(48.8%)が5割弱と最も高く、これに「番組を知らない」(42.3%)を合わせた『聴いていない(計)』(91.2%)は9割強となっている。一方で、「毎回聴いている」(0.4%)、「ほとんど聴いている」(1.0%)、「ときどき聴いている」(6.3%)を合わせた『聴いている(計)』(7.8%)は1割未満となっている。

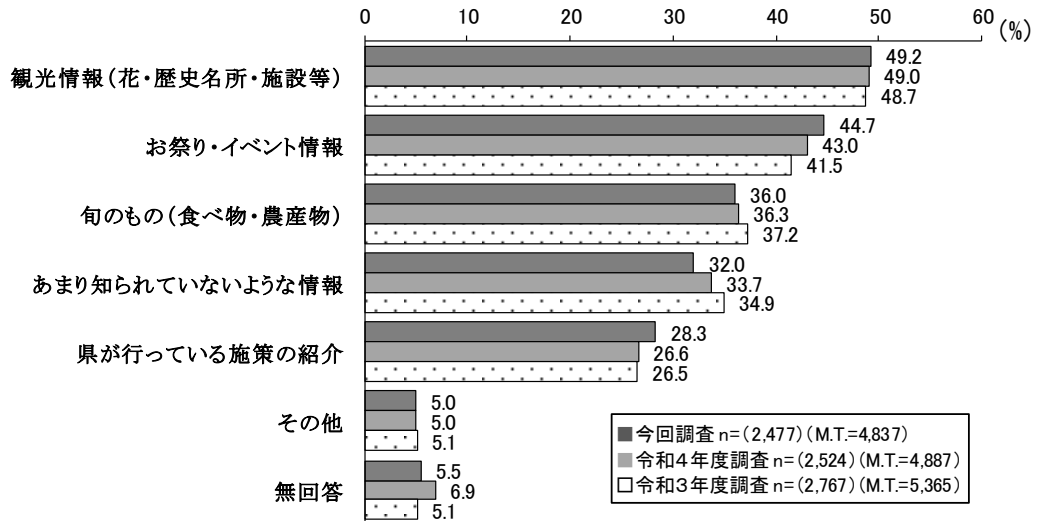
【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べると、回答分布に大きな差はみられない。

(11-6) 県の広報テレビ・ラジオ番組の内容への要望

◇「観光情報」が49.2%で第1位、次いで「お祭り・イベント情報」が44.7%

問12(6) あなたは、県の広報テレビ・ラジオ番組で、どのような内容を見たり聴いたりしたいと思いますか。(〇はいくつでも)



県の広報テレビ・ラジオ番組に求める内容では、「観光情報（花・歴史名所・施設等）」（49.2%）が約5割で最も高く、次いで「お祭り・イベント情報」（44.7%）、「旬のもの（食べ物・農産物）」（36.0%）、「あまり知られていないような情報」（32.0%）、「県が行っている施策の紹介」（28.3%）の順となっている。

【過去調査との比較】

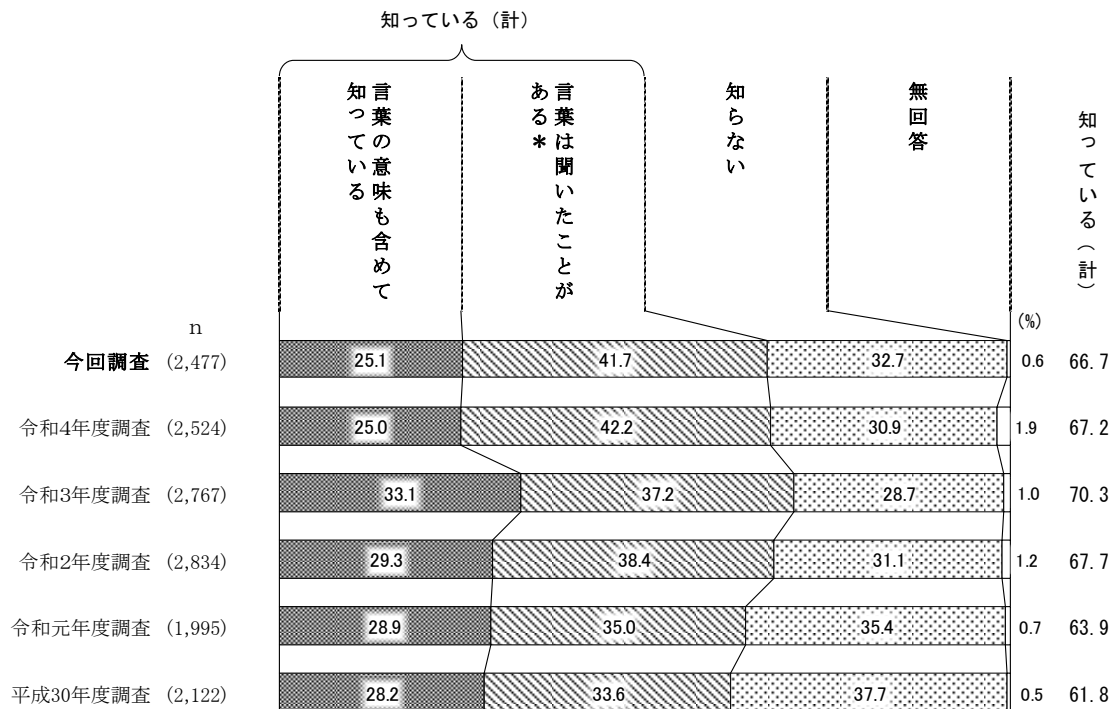
令和4年度調査と比べて、「お祭り・イベント情報」（44.7%）と「県が行っている施策の紹介」（28.3%）が各1.7ポイント増加し、「あまり知られていないような情報」（32.0%）が1.7ポイント減少している。

## (12-1) 生物多様性の認知度

◇『知っている（計）』が66.7%

問13 現在、「生物多様性」の保全という、地球上の様々な生物やそれらが生息・生育できる環境を守る取組が進められています。また、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきたアライグマやカミツキガメなど種々の「外来生物」により、地域固有の生物の生態系や自然環境に影響を与える問題が起きています。

(1) あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意  
\*令和3年度調査までは「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」

「生物多様性」という言葉の認知度は、「言葉は聞いたことがある」（41.7%）が4割強と最も高く、これに「言葉の意味も含めて知っている」（25.1%）を合わせた『知っている（計）』（66.7%）は6割台半ばを超えている。一方で、「知らない」（32.7%）は3割強となっている。

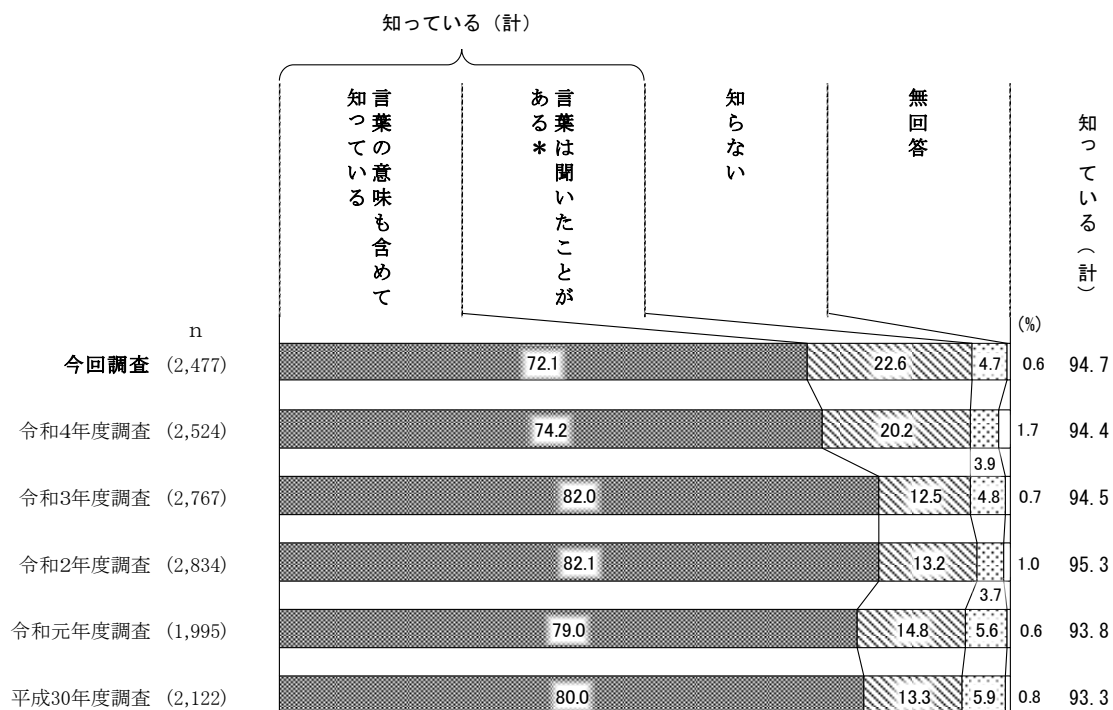
### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

## (12-2) 外来生物の認知度

◇『知っている（計）』が94.7%

問13（2） あなたは、「外来生物」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意  
\*令和3年度調査までは「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」

「外来生物」という言葉の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」（72.1%）が7割強と最も高く、これに「言葉は聞いたことがある」（22.6%）を合わせた『知っている（計）』（94.7%）は9割台半ばとなっている。

### 【過去調査との比較】

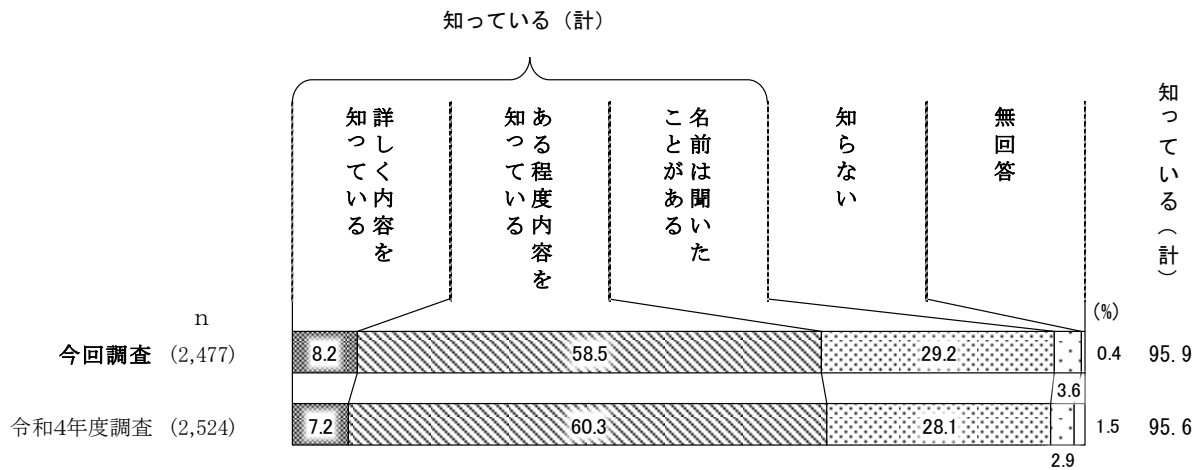
令和4年度調査と比べて、『知っている（計）』（94.7%）が0.3ポイント増加している。

### (13-1) 光化学スモッグの認知度

◇『知っている（計）』が95.9%

問14 気温が高く日差しが強い日に「光化学スモッグ」という現象が発生することがあります。光化学スモッグに触れると、喉が痛い、目がチカチカするなどの健康被害を引き起こすおそれがあります。光化学スモッグの発生を抑制するためには、原因物質の1つである「揮発性有機化合物（VOC）」の削減が必要です。

(1) あなたは「光化学スモッグ」について知っていますか。(〇は1つだけ)



「光化学スモッグ」という言葉の認知度は、「ある程度内容を知っている」(58.5%)が6割弱と最も高く、これに「詳しく内容を知っている」(8.2%)と「名前は聞いたことがある」(29.2%)を合わせた『知っている（計）』(95.9%)は9割台半ばとなっている。

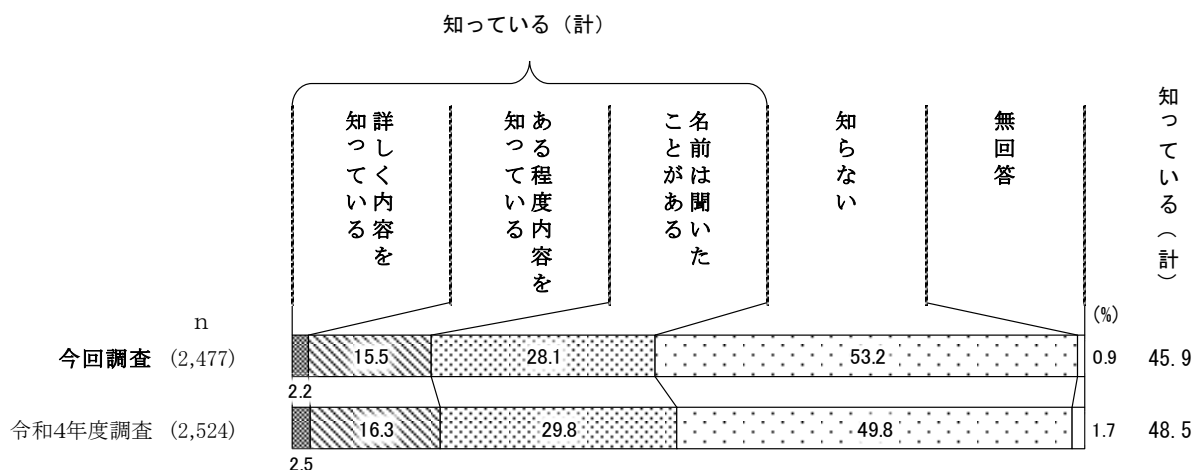
#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、『知っている（計）』(95.9%)が0.3ポイント増加している。

## (13-2) 揮発性有機化合物（VOC）の認知度

◇『知っている（計）』が45.9%

問14（2） あなたは、「揮発性有機化合物（VOC）」について知っていますか。  
（○は1つだけ）



「揮発性有機化合物（VOC）」という言葉の認知度は、「知らない」（53.2%）が5割強と最も高くなっている。一方で、「詳しく内容を知っている」（2.2%）と「ある程度内容を知っている」（15.5%）と「名前は聞いたことがある」（28.1%）を合わせた『知っている（計）』（45.9%）は4割台半ばとなっている。

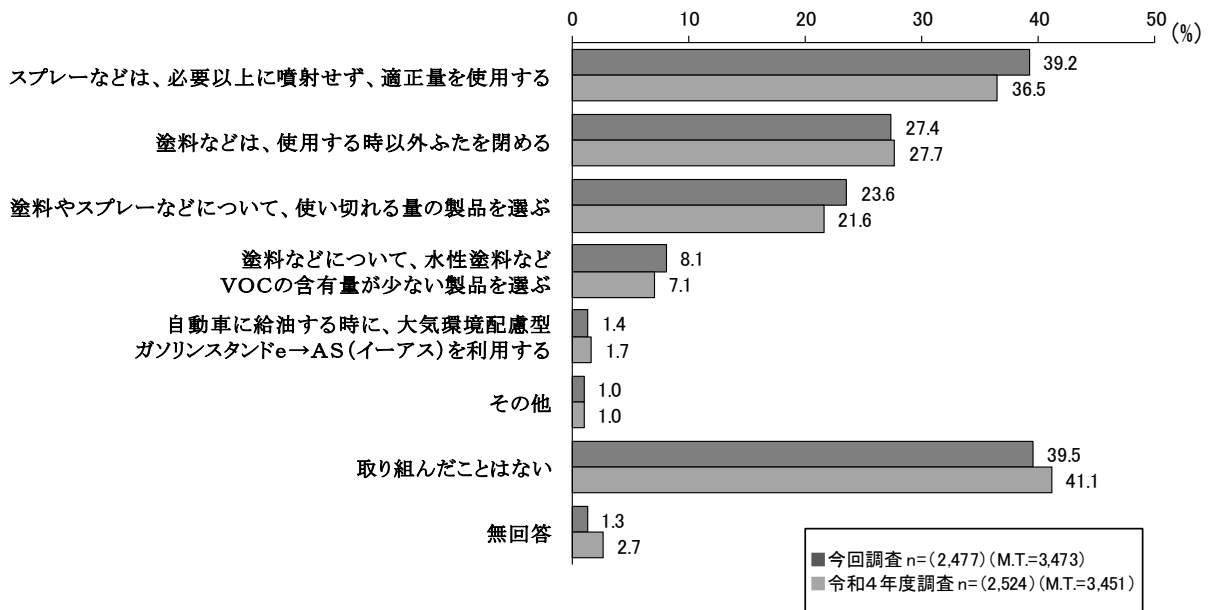
### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、『知っている（計）』（45.9%）は2.6ポイント減少している。

### (13-3) VOC削減の取組状況

◇「スプレーなどは、必要以上に噴射せず、適正量を使用する」が39.2%

問14(3) VOCは、シンナーのように常温で蒸発しやすい有機化合物の総称で、スプレー、塗料、接着剤、芳香剤、防虫剤、化粧品、ガソリンなど、多くの身近な製品に含まれています。この1年間に、家庭でのVOC削減に取り組んだことはありますか。次の中から取り組んだことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



VOC削減の取組状況は、「スプレーなどは、必要以上に噴射せず、適正量を使用する」(39.2%)が約4割と最も高く、次いで「塗料などは、使用する時以外ふたを閉める」(27.4%)、「塗料やスプレーなどについて、使い切れる量の製品を選ぶ」(23.6%)、「塗料などについて、水性塗料などVOCの含有量が少ない製品を選ぶ」(8.1%)、「自動車に給油する時に、大気環境配慮型ガソリンスタンドe→AS(イーアス)を利用する」(1.4%)と続いている。一方で、「取り組んだことはない」(39.5%)が約4割となっている。

#### 【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べて、「スプレーなどは、必要以上に噴射せず、適正量を使用する」(39.2%)は2.7ポイント増加している。

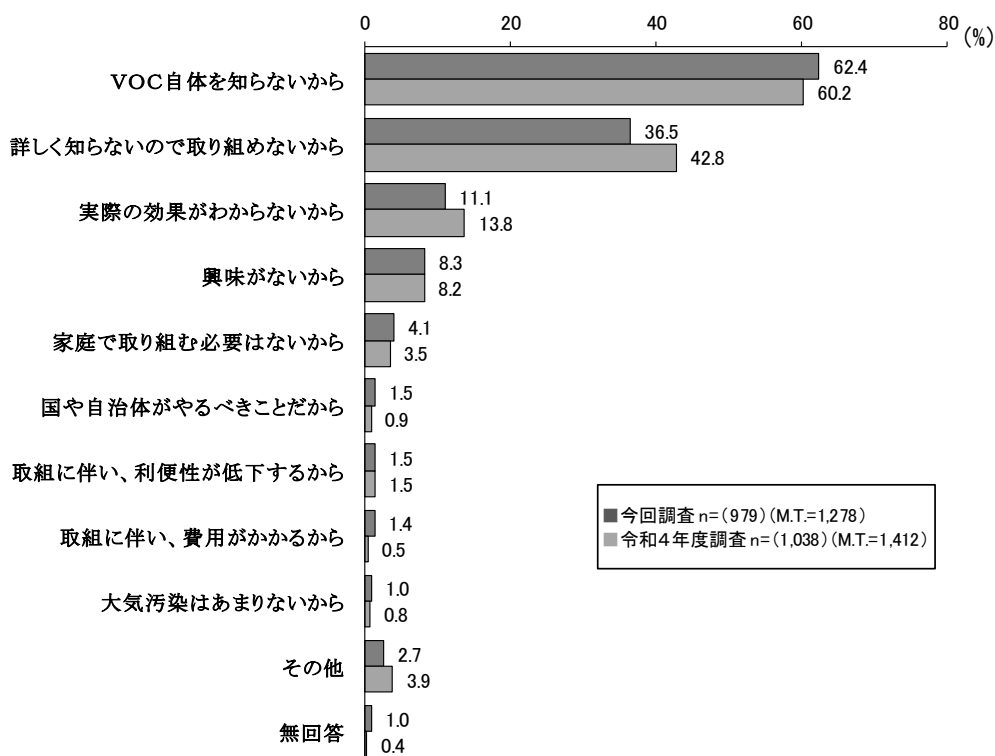


### (13-3-1) VOC削減に取り組んでいない理由

◇「VOC自体を知らないから」が62.4%

(問14(3)で「7. 取り組んだことはない」とお答えの方にお伺いします。)

問14(3)-1 家庭でのVOC削減に取り組んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



VOC削減に取り組んでいない理由は、「VOC自体を知らないから」(62.4%)が6割強と最も高く、次いで「詳しく知らないので取り組めないから」(36.5%)が3割台半ばを超え、「実際の効果がわからないから」(11.1%)、「興味がないから」(8.3%)などとなっている。

#### 【過去調査との比較】

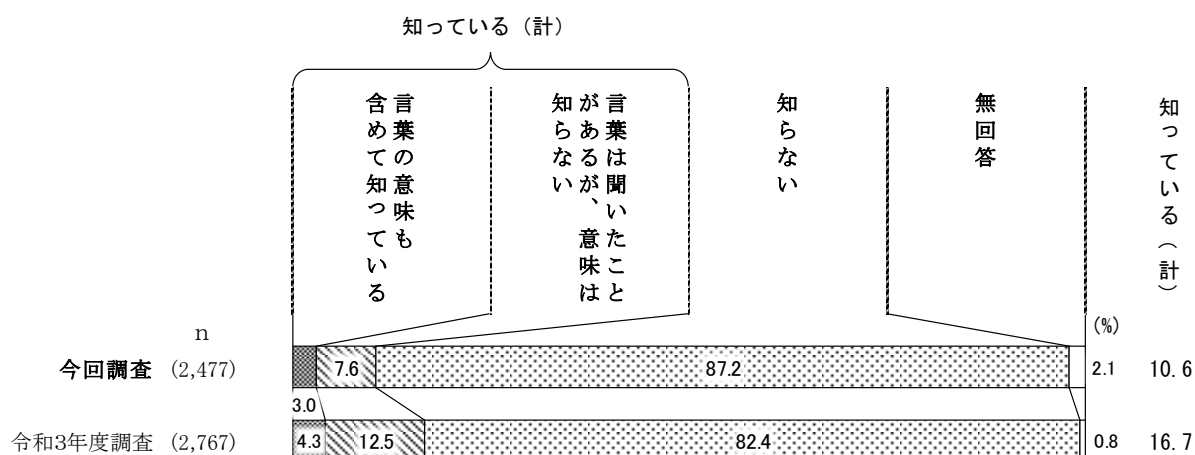
令和4年度調査と比べて、「詳しく知らないので取り組めないから」(36.5%)は6.3ポイント減少している。

## (14-1) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

◇『知っている（計）』が10.6%

問15 「アドバンス・ケア・プランニング」（ACP、愛称：人生会議）についておたずねします。

(1) あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、愛称：人生会議）について、知っていますか。（〇は1つだけ）



アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」が3.0%で、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（7.6%）を合わせた『知っている（計）』（10.6%）は1割を超えている。一方で、「知らない」（87.2%）は8割台半ばを超えている。

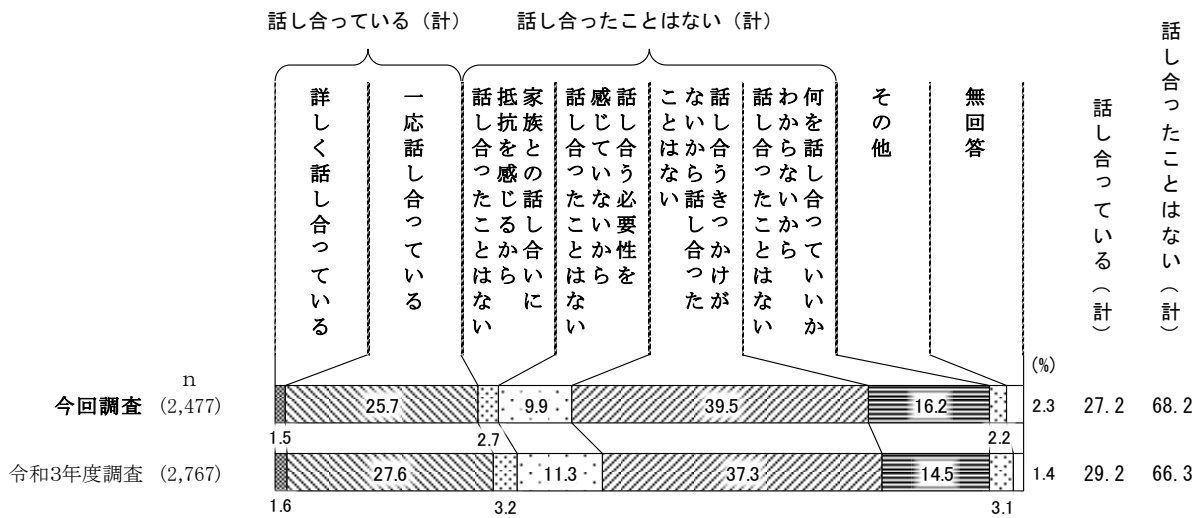
### 【過去調査との比較】

令和3年度調査と比べて、『知っている（計）』（10.6%）は6.1ポイント減少している。

(14-2) 人生の最終段階において受たい医療・ケアについて家族や医療介護関係者と話し合った経験

◇『話し合っている(計)』が27.2%

問15(2) あなたは人生の最終段階において、受たい医療・ケアや受けたくない医療・ケアについて、御家族や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。  
(〇は1つだけ)



人生の最終段階において、受たい医療・ケアや受けたくない医療・ケアについて、御家族や医療介護関係者と話し合った経験は、「詳しく話し合っている」が1.5%となっており、「一応話し合っている」(25.7%)を合わせた『話し合っている(計)』(27.2%)は2割台半ばを超えている。一方で、『話し合ったことはない(計)』(68.2%)は7割弱となっており、そのうち、「話し合うきっかけがないから話し合ったことはない」(39.5%)が約4割と最も高くなっている。

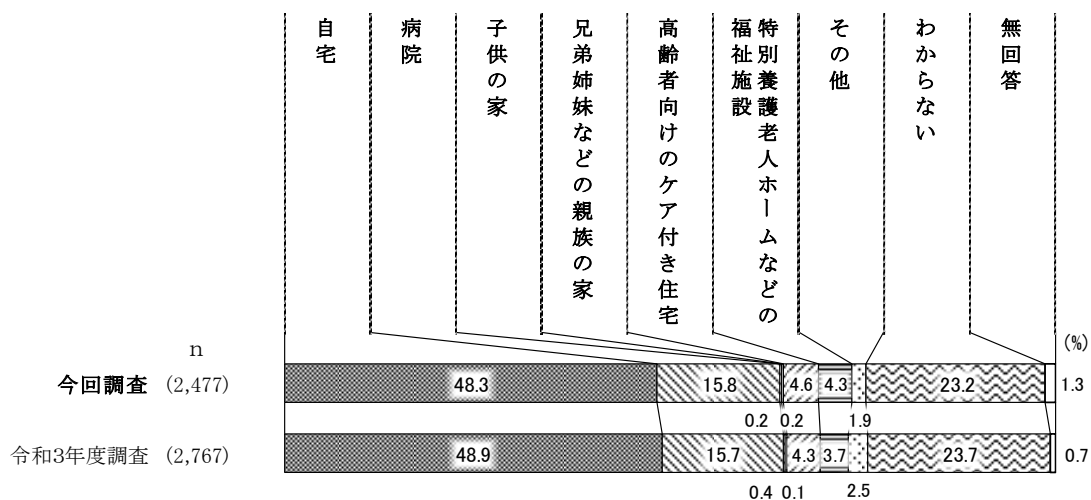
【過去調査との比較】

令和3年度調査と比べて、『話し合っている(計)』(27.2%)は2.0ポイント減少している。

### (14-3) 人生の最期を迎えたい場所

◇「自宅」が48.3%

問15(3) あなたが人生の最期を迎えたい場所はどこですか。(〇は1つだけ)



人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」(48.3%)が5割弱と最も高く、次いで「病院」(15.8%)が1割台半ばとなっている。一方で、「わからない」(23.2%)が2割強となっている。

#### 【過去調査との比較】

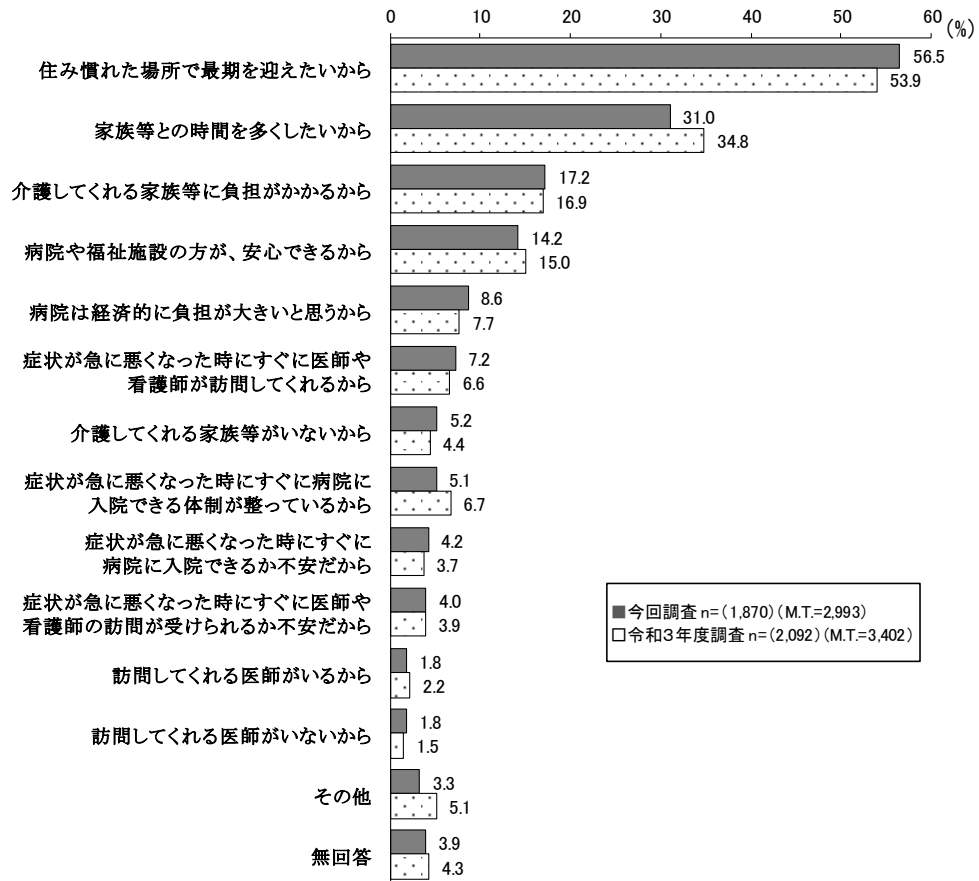
令和3年度調査と比べて、回答分布に大きな差はみられない。

(14-4) 人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由

◇「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」が56.5%

問15(4) 問15(3)について、その場所を選んだ理由は何ですか。お考えに近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

<全体>



人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由は、「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」(56.5%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「家族等との時間を多くしたいから」(31.0%)、「介護してくれる家族等に負担がかかるから」(17.2%)、「病院や福祉施設の方が、安心できるから」(14.2%)などとなっている。

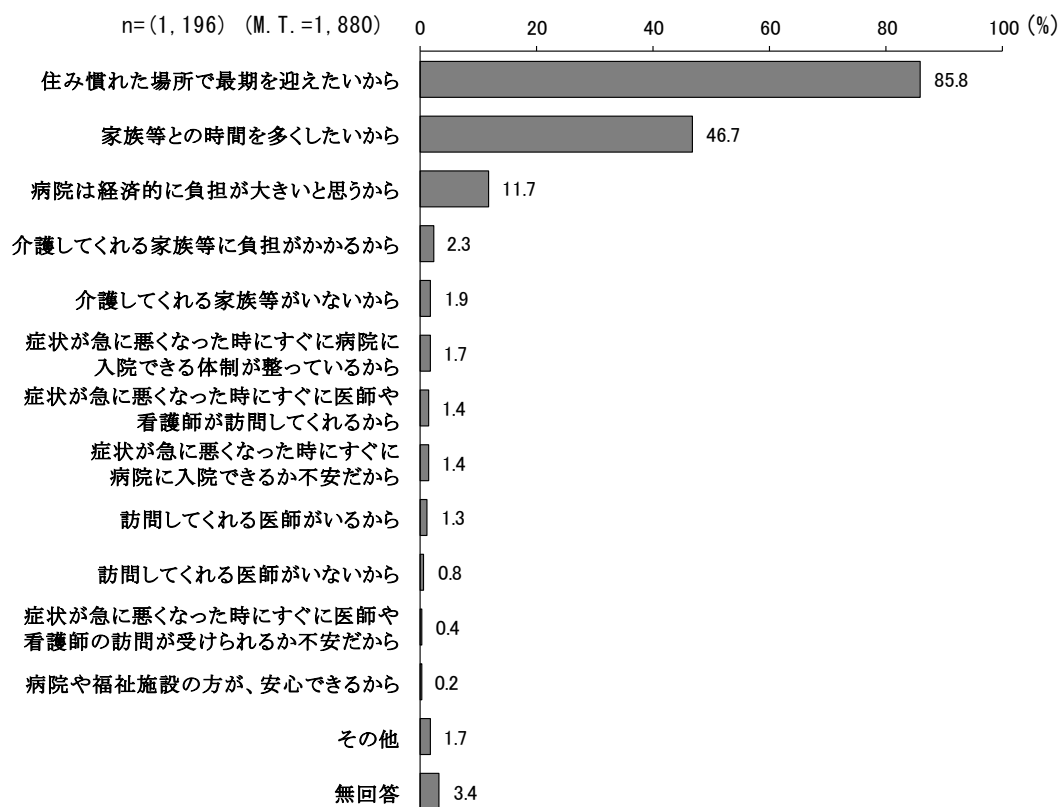
【過去調査との比較】

令和3年度調査と比べて、「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」(56.5%)が2.6ポイント増加し、「家族等との時間を多くしたいから」(31.0%)が3.8ポイント減少している。

※本設問は、実際には、問15(3)で回答いただいた場所について、その場所を選ばれた理由を伺っている。したがって、回答割合の多かった「自宅」、「病院」、「高齢者向けのケア付き住宅」の3つのそれぞれの場所ごとに選ばれた理由を次ページ以降にまとめた。

## ○人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由・人生の最期を迎えたい場所別

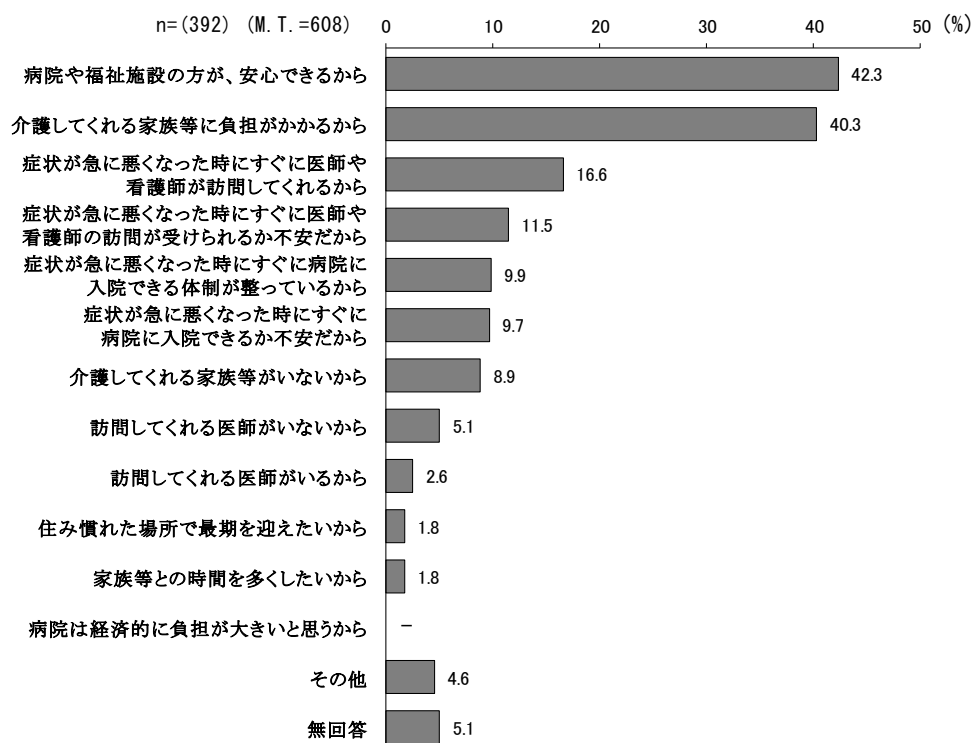
### ① 自宅



人生の最期を迎えたい場所として「自宅」を選んだ理由は、「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」(85.8%)が8割台半ばと最も高く、次いで「家族等との時間を多くしたいから」(46.7%)、「病院は経済的に負担が大きいと思うから」(11.7%)などとなっている。

## ○人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由・人生の最期を迎えたい場所別

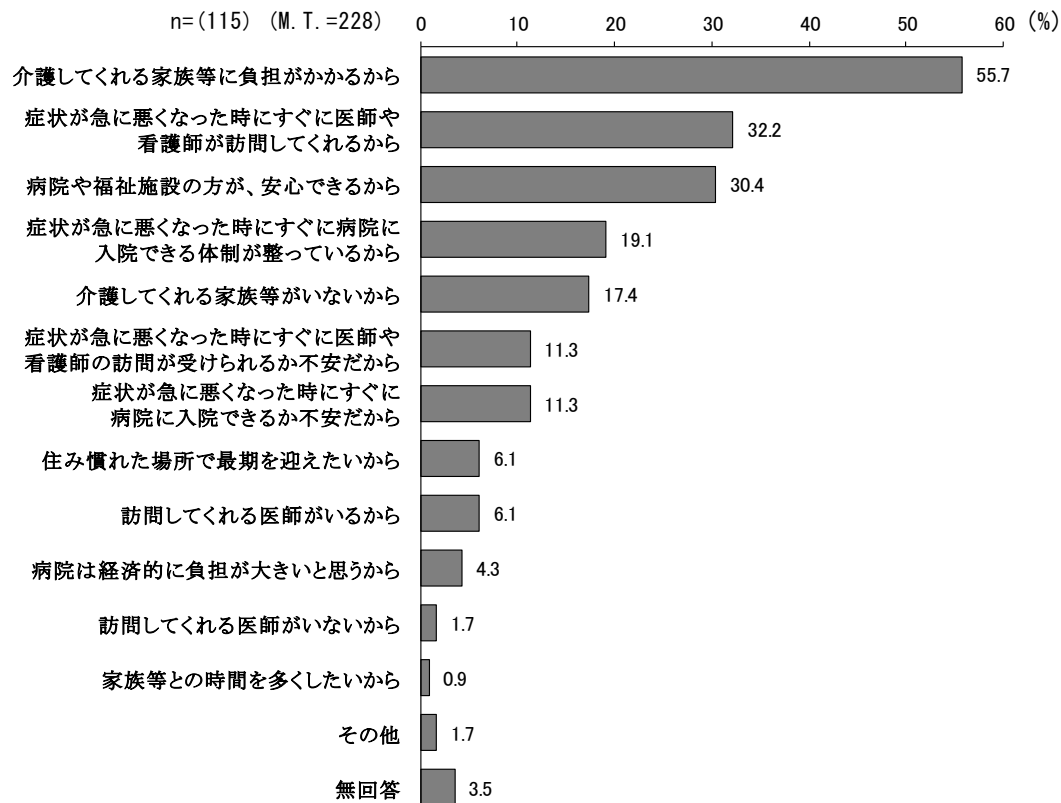
### ② 病院



人生の最期を迎えたい場所として「病院」を選んだ理由は、「病院や福祉施設の方が、安心できるから」（42.3%）が4割強と最も高く、次いで「介護してくれる家族等に負担がかかるから」（40.3%）、「症状が急に悪くなった時にすぐに医師や看護師が訪問してくれるから」（16.6%）、「症状が急に悪くなった時にすぐに医師や看護師の訪問が受けられるか不安だから」（11.5%）などとなっている。

○人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由・人生の最期を迎えたい場所別

③高齢者向けのケア付き住宅



人生の最期を迎えたい場所として「高齢者向けのケア付き住宅」を選んだ理由は、「介護してくれる家族等に負担がかかるから」(55.7%)が5割台半ばと最も高く、次いで「症状が急に悪くなった時にすぐに医師や看護師が訪問してくれるから」(32.2%)、「病院や福祉施設の方が、安心できるから」(30.4%)、「症状が急に悪くなった時にすぐに病院に入院できる体制が整っているから」(19.1%)などとなっている。



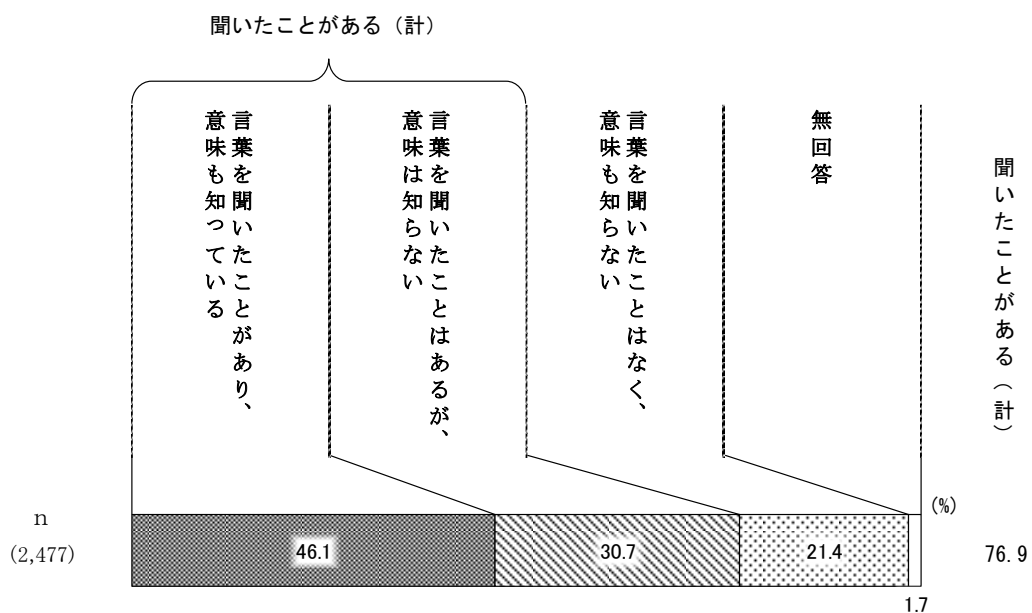
### (15-1) 性的指向の認知度

◇『聞いたことがある(計)』が76.9%

問16 次に、性の多様性についておたずねします。

(1) あなたは、「性的指向\*」という言葉を知っていますか。また、意味を知っていますか。(○は1つだけ)

\*「性的指向」とは、自己の恋愛又は性的な関心の対象となる性別についての指向のことです。



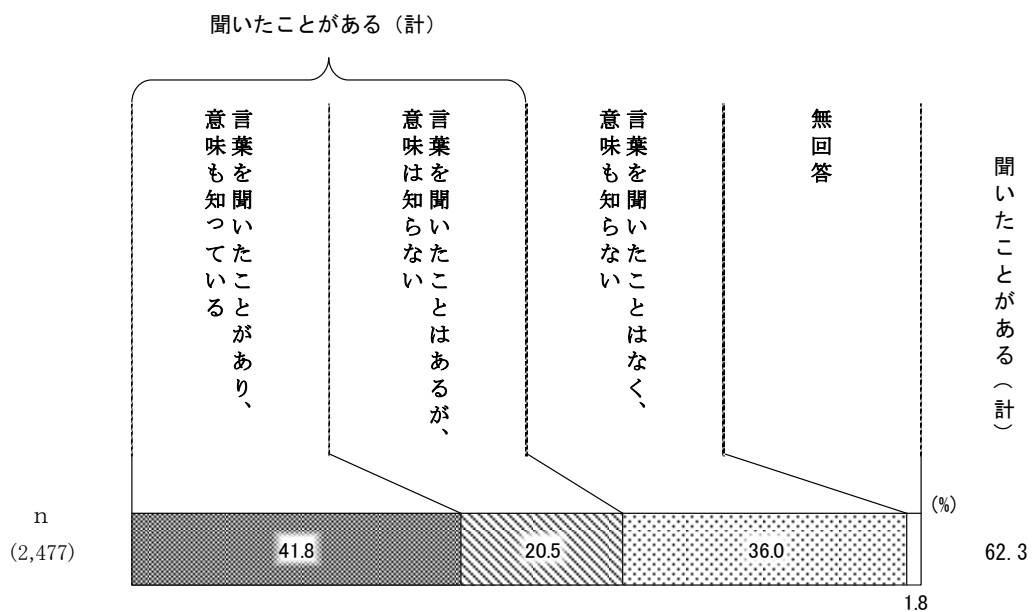
「性的指向」という言葉の認知度は、「言葉を知っている」(46.1%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(30.7%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(76.9%)は7割台半ばを超えている。一方で、「言葉は聞いたことはなく、意味も知らない」(21.4%)は2割強となっている。

## (15-2) 性自認の認知度

◇『聞いたことがある(計)』が62.3%

問16(2) あなたは、「性自認\*」という言葉を知っていますか。また、意味を知っていますか。(○は1つだけ)

\*「性自認」とは、自己の性別についての認識のことです。

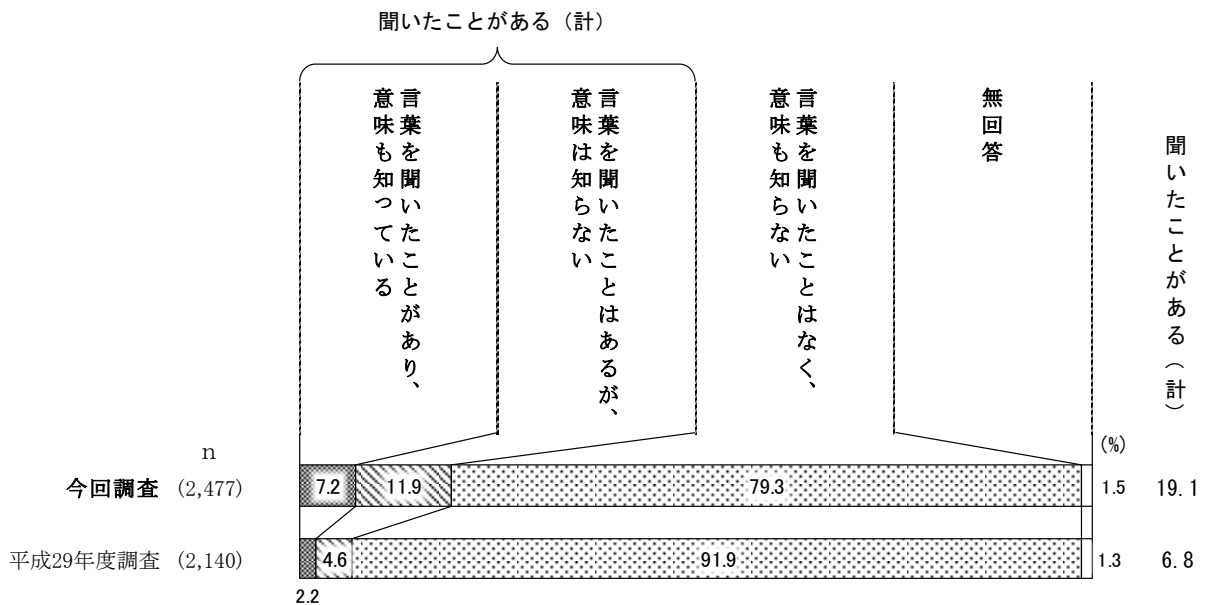


「性自認」という言葉の認知度は、「言葉を聞いたことがあり、意味も知っている」(41.8%)が4割強と最も高く、これに「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(20.5%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(62.3%)は6割強となっている。一方で、「言葉を聞いたことはなく、意味も知らない」(36.0%)は3割台半ばを超えている。

### (15-3) アライ (ALL Y) の認知度

◇『聞いたことがある (計)』が 19.1%

問16(3) あなたは、「アライ (ALL Y) \*」という言葉を知っていますか。また、意味を知っていますか。(〇は1つだけ)  
 \*「アライ (ALL Y)」とは、LGBTQを理解し、支援している人、または支援したいと思う人のことです。



※平成29年度調査は「言葉は知っているし、意味も知っている」  
 「言葉は知っているが、意味は知らなかった」  
 「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」

「アライ (ALL Y)」という言葉の認知度は、「言葉を聞いたことがあり、意味も知っている」が7.2%となっており、これに「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(11.9%)を合わせた『聞いたことがある (計)』(19.1%)は約2割となっている。一方で、「言葉を聞いたことはなく、意味も知らない」(79.3%)は約8割となっている。

#### 【過去調査との比較】

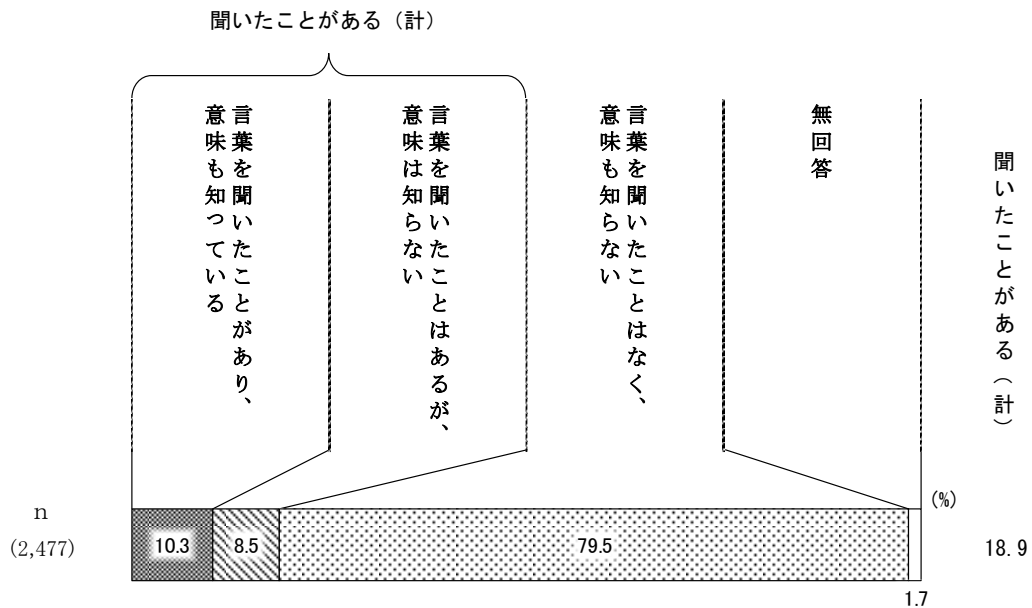
平成29年度調査と比べて、『聞いたことがある (計)』(19.1%)が12.3ポイント増加している。

#### (15-4) アウティングの認知度

◇『聞いたことがある(計)』が18.9%

問16(4) あなたは、「アウティング\*」という言葉を知っていますか。また、意味を知っていますか。(○は1つだけ)

\*「アウティング」とは、性的指向又は性自認に関して、本人の意に反して本人が秘密にしていることを明かすことです。

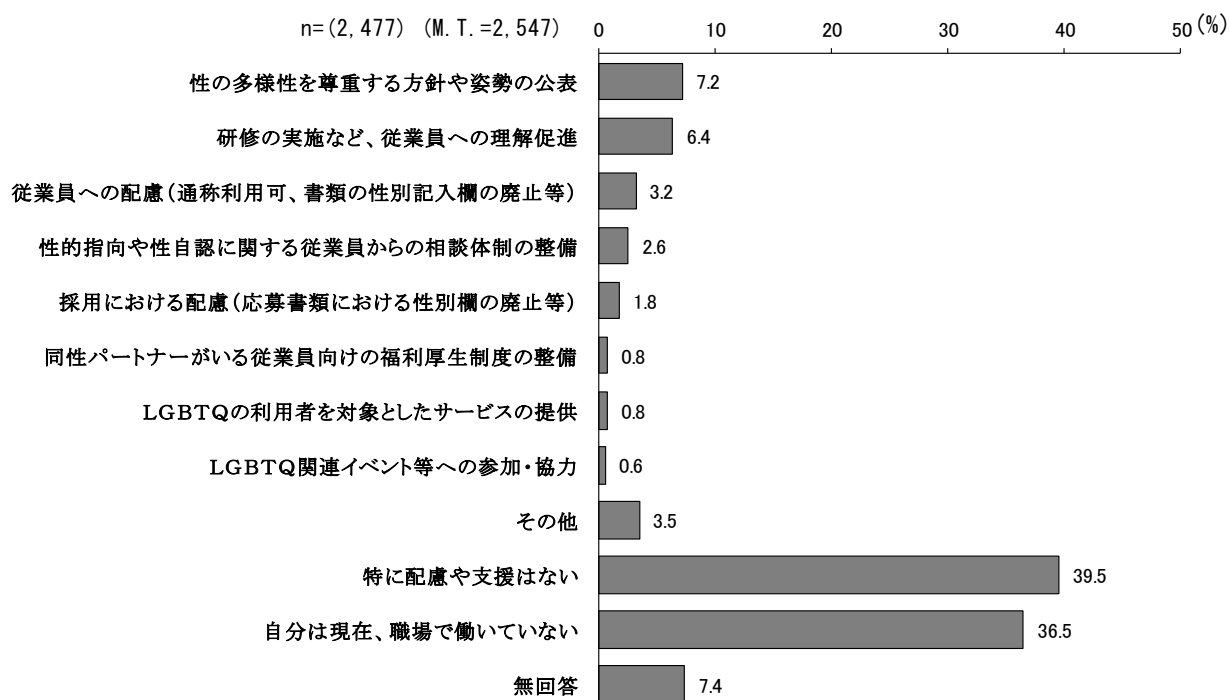


「アウティング」という言葉の認知度は、「言葉を知っている」が10.3%となっており、これに「言葉は知らない」(8.5%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(18.9%)は2割弱となっている。一方で、「言葉を知りません、意味も知らない」(79.5%)は約8割となっている。

### (15-5) 職場での性の多様性に対する配慮や支援

◇「特に配慮や支援はない」が39.5%

問16(5) あなたの職場では、性の多様性に対する配慮や支援はありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

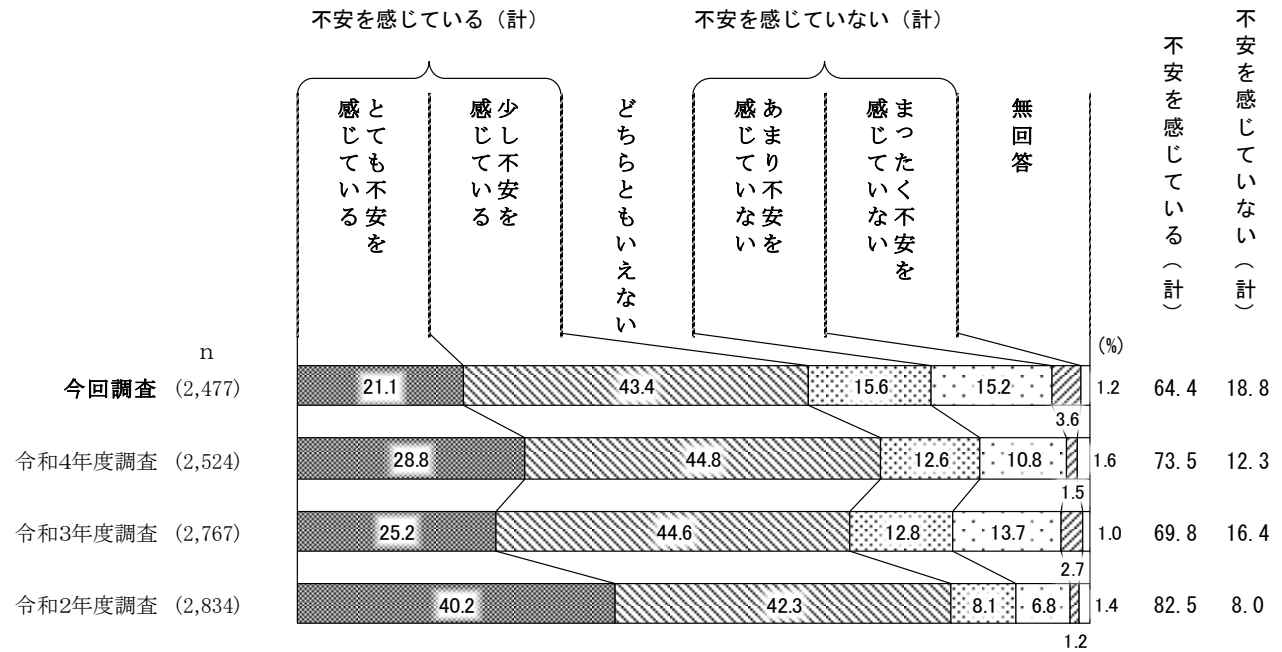


職場での性の多様性に対する配慮や支援は、「性の多様性を尊重する方針や姿勢の公表」が7.2%と最も高く、次いで「研修の実施など、従業員への理解促進」(6.4%)、「従業員への配慮(通称利用可、書類の性別記入欄の廃止等)」(3.2%) などとなっている。一方で、「特に配慮や支援はない」(39.5%) が約4割となっている。

(16-1) 新型コロナウイルス感染症の感染への不安

◇『不安を感じている(計)』は64.4%

問17 新型コロナウイルス感染症についておたずねします。  
 (1) あなたは、御自分が新型コロナウイルス感染症に感染することについて不安を感じていますか。(○は1つだけ)



新型コロナウイルス感染症に感染することへの不安は、「少し不安を感じている」(43.4%)が4割強と最も高く、これに「とても不安を感じている」(21.1%)を合わせた『不安を感じている(計)』(64.4%)は6割台半ばとなっている。一方で、「あまり不安を感じていない」(15.2%)と「まったく不安を感じていない」(3.6%)を合わせた『不安を感じていない(計)』(18.8%)は2割弱となっている。また、「どちらともいえない」(15.6%)は1割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

令和4年度調査と比べると、『不安を感じている(計)』は9.1ポイント減少し、『不安を感じていない(計)』は6.5ポイント増加している。

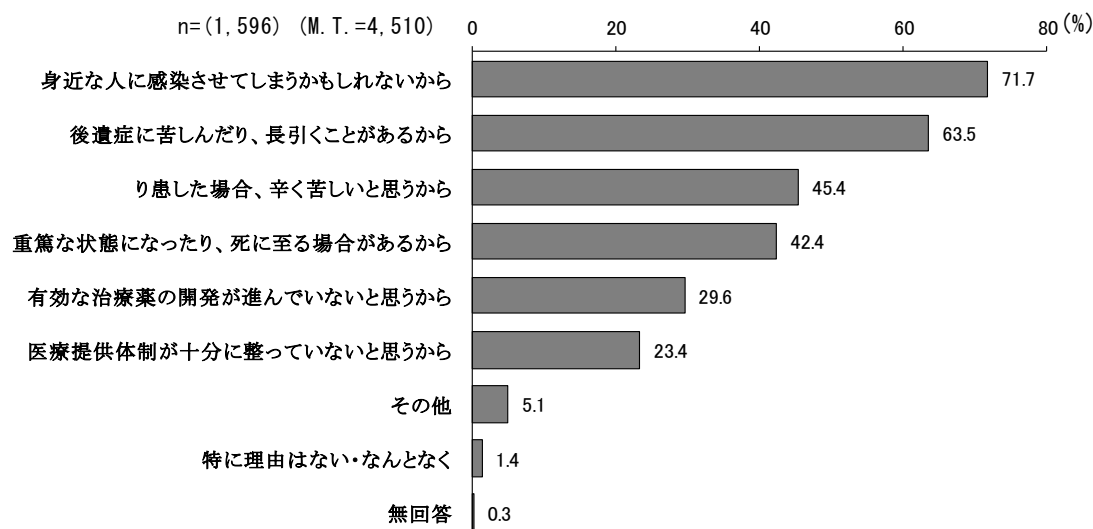
### (16-1-1) 不安を感じる理由

◇「身近な人に感染させてしまうかもしれないから」が71.7%

(問17(1)で「1. とても不安を感じている」または「2. 少し不安を感じている」とお答えの方にお伺いします。)

問17(1)-1 あなたが感染することに不安を感じている理由は何ですか。

(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症に感染の不安を感じる理由は、「身近な人に感染させてしまうかもしれないから」(71.7%)が7割強と最も高く、次いで「後遺症に苦しんだり、長引くことがあるから」(63.5%)、「り患した場合、辛く苦しいと思うから」(45.4%)、「重篤な状態になったり、死に至る場合があるから」(42.4%)、「有効な治療薬の開発が進んでいないと思うから」(29.6%) などとなっている。

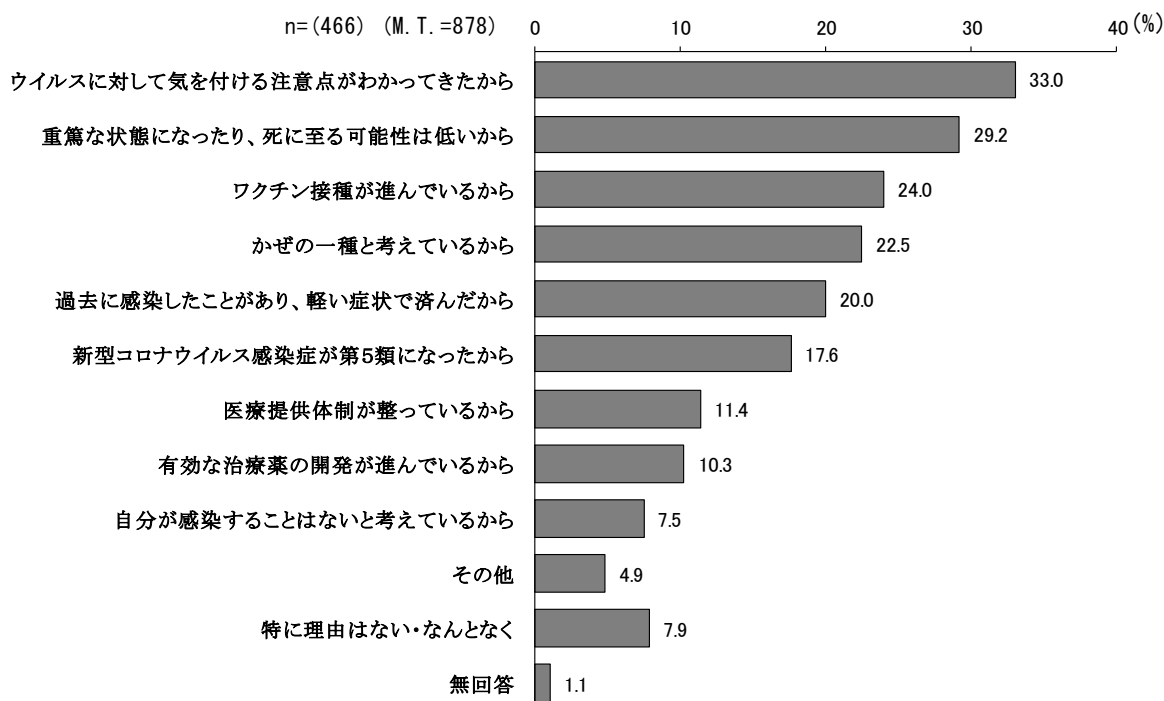
## (16-1-2) 不安を感じない理由

◇「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」が33.0%

(問17(1)で「4. あまり不安を感じていない」または「5. まったく不安を感じていない」とお答えの方にお伺いします。)

問17(1)-2 あなたが感染することに不安を感じていない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症に感染の不安を感じていない理由は、「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」(33.0%)が3割強と最も高く、次いで「重篤な状態になったり、死に至る可能性は低いから」(29.2%)、「ワクチン接種が進んでいるから」(24.0%)、「かぜの一種と考えているから」(22.5%)、「過去に感染したことがあり、軽い症状で済んだから」(20.0%)などとなっている。



### 3. 県政への要望について

◇「災害から県民をまもる」が23.2%

問18 埼玉県政への要望についておたずねします。

県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

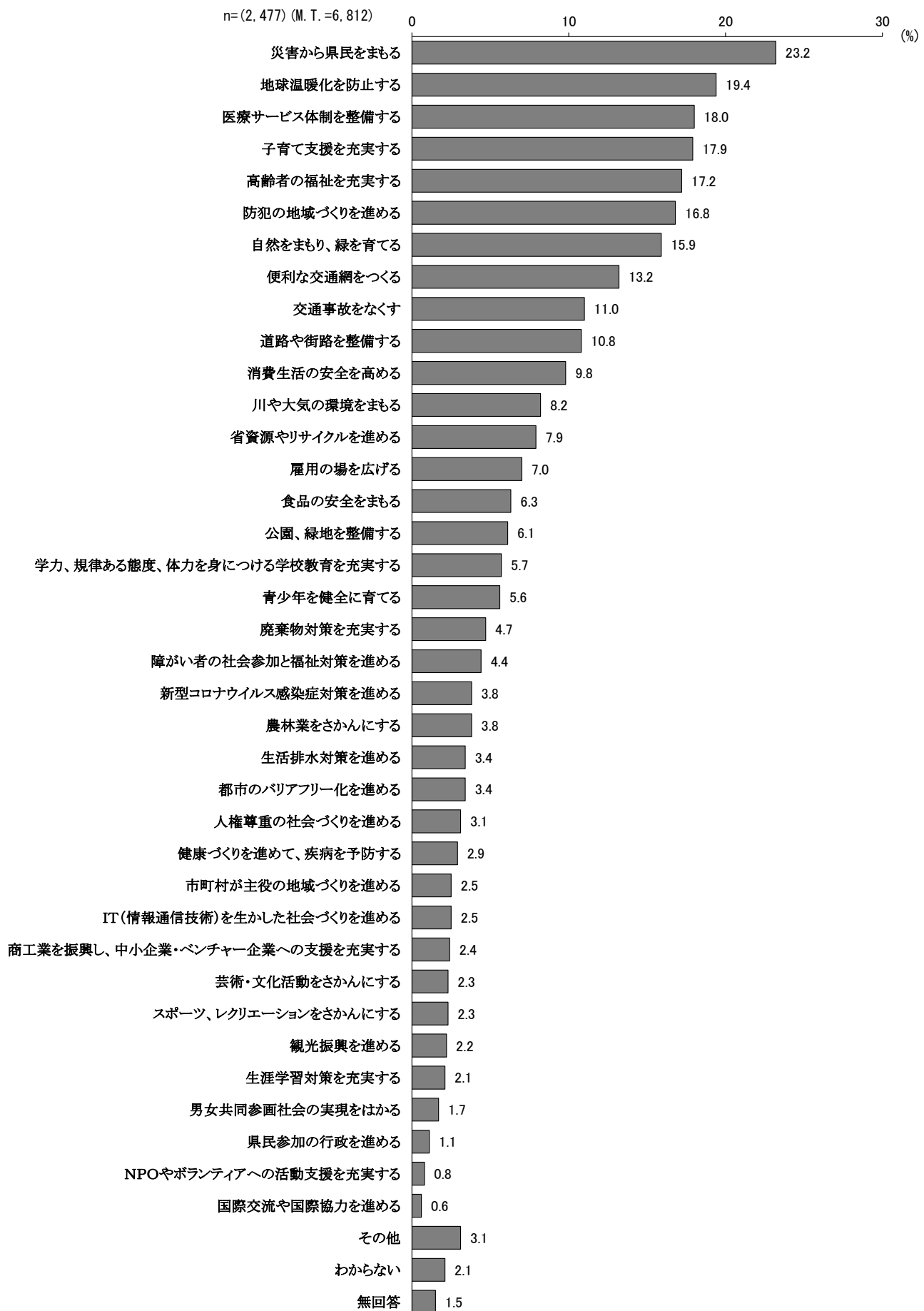
	今 回	前回（令和4年度調査）		増減差
1位 災害から県民をまもる	23.2%	25.6%	(1位)	△ 2.4
2位 地球温暖化を防止する	19.4	17.6	(4位)	1.8
3位 医療サービス体制を整備する	18.0	19.7	(2位)	△ 1.7
4位 子育て支援を充実する	17.9	17.2	(5位)	0.7
5位 高齢者の福祉を充実する	17.2	17.8	(3位)	△ 0.6
6位 防犯の地域づくりを進める	16.8	12.9	(8位)	3.9
7位 自然をまもり、緑を育てる	15.9	15.8	(6位)	0.1
8位 便利な交通網をつくる	13.2	12.2	(9位)	1.0
9位 交通事故をなくす	11.0	10.3	(11位)	0.7
10位 道路や街路を整備する	10.8	10.4	(10位)	0.4

#### 【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の令和4年度調査を比べると、1位の「災害から県民をまもる」と10位の「道路や街路を整備する」は順位の変化がない。2位の「地球温暖化を防止する」は順位を2つ上げ、3位の「医療サービス体制を整備する」は順位を1つ下げている。また、4位の「子育て支援を充実する」と8位の「便利な交通網をつくる」は順位を1つ上げ、6位の「防犯の地域づくりを進める」と9位の「交通事故をなくす」は順位を2つ上げている。一方で、5位の「高齢者の福祉を充実する」は順位を2つ下げ、7位の「自然をまもり、緑を育てる」は順位を1つ下げている。

前回調査との増減をみると、「災害から県民をまもる」(2.4ポイント減)、「医療サービス体制を整備する」(1.7ポイント減)、「高齢者の福祉を充実する」(0.6ポイント減)が減少し、他の項目は増加している。

## ○「県政」への要望について



### 【令和元年度以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、1位の「災害から県民をまもる」(3位→2位→2位→1位→1位)、10位の「道路や街路を整備する」(7位→9位→9位→10位→10位)は前回順位を維持している。2位の「地球温暖化を防止する」(9位→4位→5位→4位→2位)、6位の「防犯の地域づくりを進める」(5位→8位→8位→8位→6位)、9位の「交通事故をなくす」(6位→12位→10位→11位→9位)は前回から順位を2つ上げた。3位の「医療サービス体制を整備する」(2位→3位→3位→2位→3位)、7位の「自然をまもり、緑を育てる」(10位→6位→7位→6位→7位)は前回から順位を1つ下げた。4位の「子育て支援を充実する」(4位→6位→6位→5位→4位)、8位の「便利な交通網をつくる」(8位→9位→11位→9位→8位)は前回から順位を1つ上げた。5位の「高齢者の福祉を充実する」(1位→5位→4位→3位→5位)は前回から順位を2つ下げた。

順位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 26.8%	災害から県民をまもる 25.6%	災害から県民をまもる 23.2%
2	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%	災害から県民をまもる 25.0%	医療サービス体制を整備する 19.7%	地球温暖化を防止する 19.4%
3	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%	医療サービス体制を整備する 19.8%	高齢者の福祉を充実する 17.8%	医療サービス体制を整備する 18.0%
4	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%	高齢者の福祉を充実する 15.6%	地球温暖化を防止する 17.6%	子育て支援を充実する 17.9%
5	防犯の地域づくりを進める 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 14.9%	子育て支援を充実する 17.2%	高齢者の福祉を充実する 17.2%
6	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 12.9%	子育て支援を充実する 14.3%	自然をまもり、緑を育てる 15.8%	防犯の地域づくりを進める 16.8%
7	道路や街路を整備する 13.4%	子育て支援を充実する 12.9%	自然をまもり、緑を育てる 13.8%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 15.6%	自然をまもり、緑を育てる 15.9%
8	便利な交通網をつくる 12.9%	防犯の地域づくりを進める 11.8%	防犯の地域づくりを進める 13.0%	防犯の地域づくりを進める 12.9%	便利な交通網をつくる 13.2%
9	地球温暖化を防止する 12.7%	道路や街路を整備する 11.8%	道路や街路を整備する 11.8%	便利な交通網をつくる 12.2%	交通事故をなくす 11.0%
10	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 10.0%	交通事故をなくす 11.7%	道路や街路を整備する 10.4%	道路や街路を整備する 10.8%

### 【上位4位の10年間の推移】

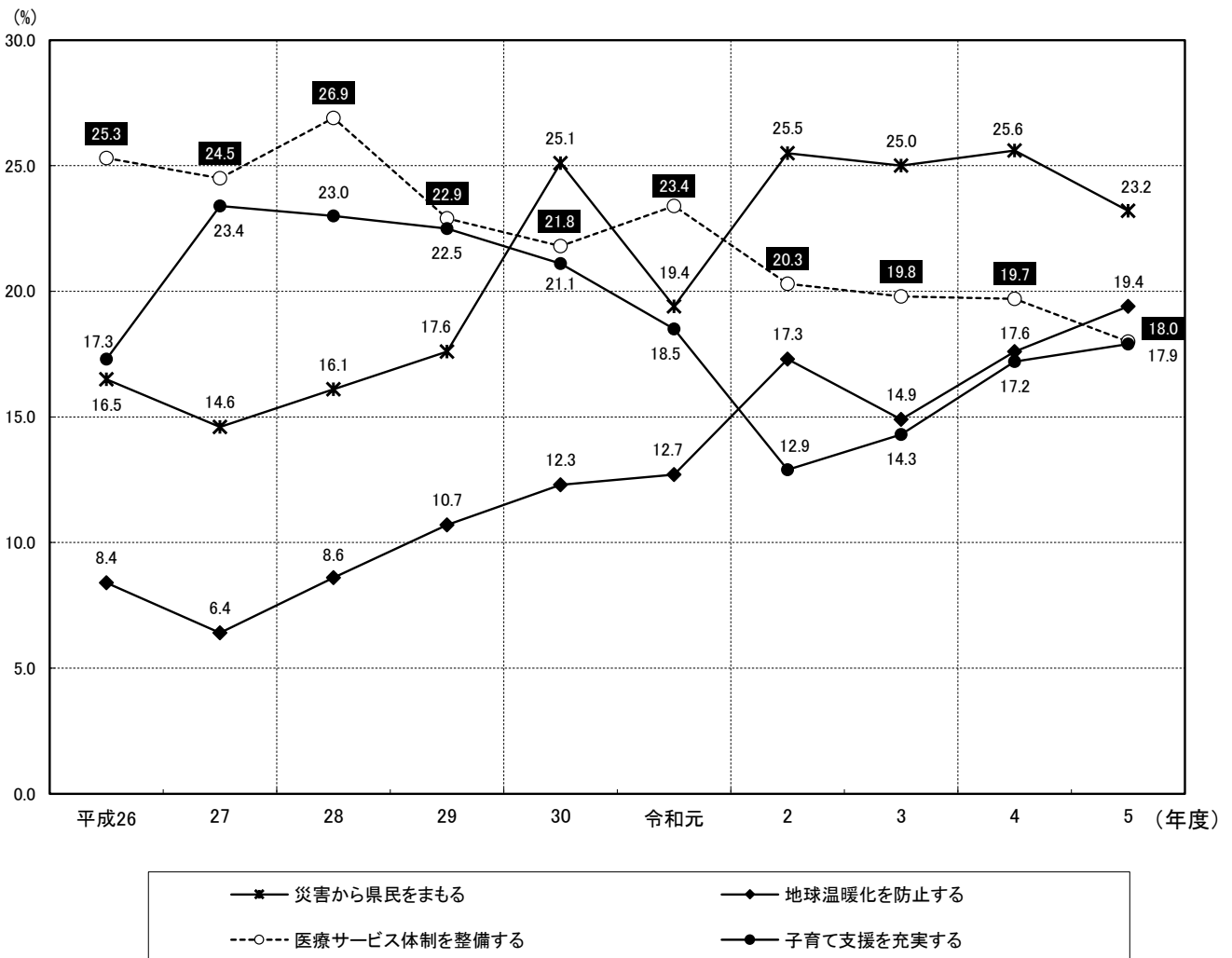
今回調査で上位となった「災害から県民をまもる」、「地球温暖化を防止する」、「医療サービス体制を整備する」、「子育て支援を充実する」の4項目について、平成26年度以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、1位の「災害から県民をまもる」は平成29年度までは1割台で推移していたが、平成30年度（25.1%）の2割台半ばまで増加した。令和元年度（19.4%）に1割台後半に減少したが、令和2年度（25.5%）から再び2割台半ばで推移し、今回調査（23.2%）で2割台前半に減少している。

2位の「地球温暖化を防止する」は、平成26年度以降1割未満で推移してきたが、平成29年度（10.7%）からおおむね増加傾向にあり、今回調査（19.4%）では約2割まで増加した。

3位の「医療サービス体制を整備する」は平成28年度（26.9%）に2割台半ばを超えたが、その後は2割台前半で推移し、令和3年度（19.8%）から2割を下回って推移している。

4位の「子育て支援を充実する」は、平成27年度（23.4%）の2割台前半から令和2年度（12.9%）で1割台前半まで減少していたが、令和4年度（17.2%）から1割台後半まで増加して推移している。



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

# 県政への要望 10年間の推移（平成26年度～令和5年度）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%
2	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%
3	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%
4	防犯の地域づくりを進める 16.7%	防犯の地域づくりを進める 17.4%	防犯の地域づくりを進める 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%
5	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりを進める 14.7%	防犯の地域づくりを進める 14.7%
6	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%
7	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%
8	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%
9	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%
10	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%
11	道路や街路を整備する 11.1%	交通事故をなくす 10.5%	交通事故をなくす 9.9%	雇用の場を広げる 10.8%	食品の安全をまもる 11.9%
12	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.8%	地球温暖化を防止する 10.7%	雇用の場を広げる 8.6%
13	川や大気環境をまもる 8.7%	青少年を健全に育てる 7.9%	地球温暖化を防止する 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.2%	川や大気環境をまもる 8.4%
14	地球温暖化を防止する 8.4%	川や大気環境をまもる 6.6%	川や大気環境をまもる 8.0%	川や大気環境をまもる 8.0%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%
15	青少年を健全に育てる 7.3%	地球温暖化を防止する／ 6.4%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 6.8%	青少年を健全に育てる 6.7%
16	省資源やリサイクルを進める 6.6%	公園、緑地を整備する 6.4%	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.8%	省資源やリサイクルを進める／ 5.6%
17	消費生活の安全を高める 6.5%	消費生活の安全を高める 6.3%	省資源やリサイクルを進める／ 5.2%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 5.5%	消費生活の安全を高める／ 5.6%
18	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 5.9%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 5.6%	消費生活の安全を高める 5.2%	消費生活の安全を高める 5.2%	公園、緑地を整備する 5.6%
19	公園、緑地を整備する 5.2%	省資源やリサイクルを進める 5.1%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.8%	省資源やリサイクルを進める／ 4.6%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 4.7%
20	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 4.3%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 4.7%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.6%	廃棄物対策を充実する／ 4.1%
21	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 3.5%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 3.7%	廃棄物対策を充実する／ 3.4%	都市のバリアフリー化を進める 4.3%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.1%
22	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 3.1%	都市のバリアフリー化を進める 3.4%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 3.4%	廃棄物対策を充実する 3.5%	都市のバリアフリー化を進める 3.5%
23	廃棄物対策を充実する 3.0%	生活排水対策を進める 3.2%	都市のバリアフリー化を進める 3.3%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 3.3%	観光振興を進める／ 3.0%
24	都市のバリアフリー化を進める／ 2.9%	廃棄物対策を充実する 3.1%	生活排水対策を進める／ 3.1%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.9%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 3.0%
25	市町村が主役の地域づくりを進める 2.9%	市町村が主役の地域づくりを 進める／ 2.8%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 3.1%	生活排水対策を進める 2.8%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.7%
26	生活排水対策を進める 2.8%	芸術・文化活動をさかんにする／ 2.6%	生涯学習対策を充実する／ 2.3%	市町村が主役の地域づくりを 進める／ 2.5%	生活排水対策を進める 2.5%
27	人権尊重の社会づくりを進める／ 2.4%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.6%	芸術・文化活動をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりを進める 2.6%	農林業をさかんにする 2.3%
28	芸術・文化活動をさかんにする 2.4%	農林業をさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりを進める 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする 2.5%	IT（情報通信技術）を生かした 社会づくりを進める 2.2%
29	農林業をさかんにする 2.1%	生涯学習対策を充実する 2.1%	市町村が主役の地域づくりを 進める 2.1%	観光振興を進める 2.4%	人権尊重の社会づくりを進める／ 2.0%
30	県民参加の行政を進める 1.7%	観光振興を進める 2.0%	農林業をさかんにする／ 1.9%	農林業をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.0%
31	観光振興を進める／ 1.6%	人権尊重の社会づくりを進める 1.6%	観光振興を進める 1.8%	生涯学習対策を充実する 1.8%	市町村が主役の地域づくりを 進める 1.9%
32	生涯学習対策を充実する 1.6%	男女共同参画社会の 実現をはかる／ 1.0%	IT（情報通信技術）を生かした 社会づくりを進める 1.1%	IT（情報通信技術）を生かした 社会づくりを進める 1.6%	生涯学習対策を充実する 1.6%
33	男女共同参画社会の 実現をはかる／ 1.2%	県民参加の行政を進める 1.0%	県民参加の行政を進める／ 0.9%	国際交流や国際協力を進める 1.2%	国際交流や国際協力を進める 1.4%
34	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.2%	IT（情報通信技術）を生かした 社会づくりを進める／ 0.9%	国際交流や国際協力を進める 0.9%	県民参加の行政を進める 1.1%	男女共同参画社会の 実現をはかる 1.1%
35	IT（情報通信技術）を生かした 社会づくりを進める／ 0.8%	国際交流や国際協力を進める 0.9%	男女共同参画社会の 実現をはかる 0.8%	男女共同参画社会の 実現をはかる 0.7%	県民参加の行政を進める 0.8%
36	国際交流や国際協力を進める 0.8%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.8%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.6%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.5%

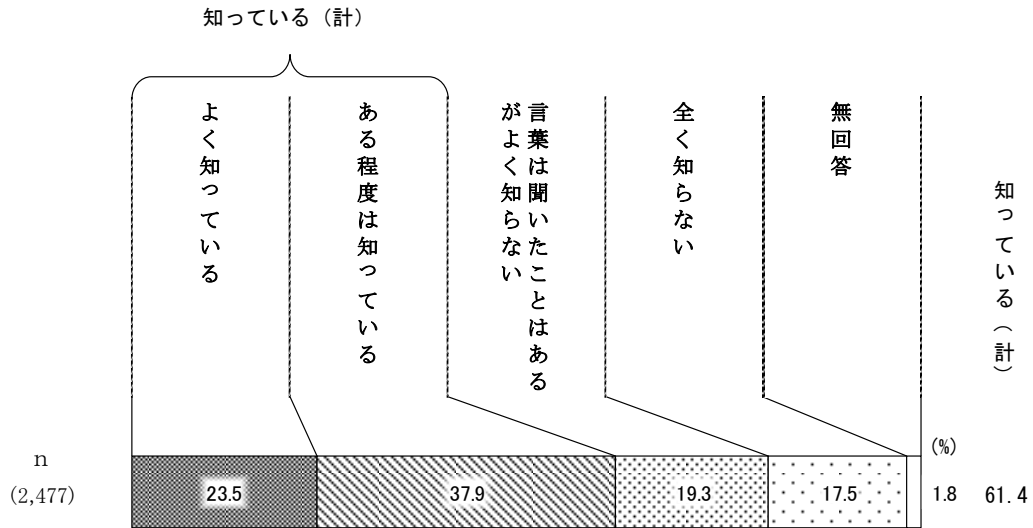
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 26.8%	災害から県民をまもる 25.6%	災害から県民をまもる 23.2%
2	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%	災害から県民をまもる 25.0%	医療サービス体制を整備する 19.7%	地球温暖化を防止する 19.4%
3	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%	医療サービス体制を整備する 19.8%	高齢者の福祉を充実する 17.8%	医療サービス体制を整備する 18.0%
4	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%	高齢者の福祉を充実する 15.6%	地球温暖化を防止する 17.6%	子育て支援を充実する 17.9%
5	防犯の地域づくりを進める 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 14.9%	子育て支援を充実する 17.2%	高齢者の福祉を充実する 17.2%
6	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる/ 子育て支援を充実する	子育て支援を充実する 14.3%	自然をまもり、緑を育てる 15.8%	防犯の地域づくりを進める 16.8%
7	道路や街路を整備する 13.4%	子育て支援を充実する 12.9%	自然をまもり、緑を育てる 13.8%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 15.6%	自然をまもり、緑を育てる 15.9%
8	便利な交通網をつくる 12.9%	防犯の地域づくりを進める 11.8%	防犯の地域づくりを進める 13.0%	防犯の地域づくりを進める 12.9%	便利な交通網をつくる 13.2%
9	地球温暖化を防止する 12.7%	道路や街路を整備する/ 便利な交通網をつくる	道路や街路を整備する 11.8%	便利な交通網をつくる 12.2%	交通事故をなくす 11.0%
10	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 10.0%	交通事故をなくす 11.7%	道路や街路を整備する 10.4%	道路や街路を整備する 10.8%
11	雇用の場を広げる 9.6%	川や大気環境をまもる 9.1%	便利な交通網をつくる 11.2%	交通事故をなくす 10.3%	消費生活の安全を高める 9.8%
12	食品の安全をまもる 9.3%	交通事故をなくす 8.8%	省資源やリサイクルを進める 7.8%	省資源やリサイクルを進める 8.7%	川や大気環境をまもる 8.2%
13	省資源やリサイクルを進める 8.4%	省資源やリサイクルを進める 7.7%	雇用の場を広げる 7.0%	雇用の場を広げる 8.3%	省資源やリサイクルを進める 7.9%
14	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.1%	雇用の場を広げる 7.2%	川や大気環境をまもる 6.9%	川や大気環境をまもる 7.3%	雇用の場を広げる 7.0%
15	川や大気環境をまもる 7.9%	公園、緑地を整備する 6.0%	公園、緑地を整備する 5.7%	消費生活の安全を高める 6.9%	食品の安全をまもる 6.3%
16	青少年を健全に育てる 7.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 5.1%	消費生活の安全を高める 5.1%	公園、緑地を整備する 6.0%	公園、緑地を整備する 6.1%
17	公園、緑地を整備する 5.6%	消費生活の安全を高める 4.8%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 4.9%	食品の安全をまもる 5.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 5.7%
18	消費生活の安全を高める 5.5%	青少年を健全に育てる 4.6%	IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める 4.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する/ 青少年を健全に育てる	青少年を健全に育てる 5.6%
19	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 4.9%	食品の安全をまもる 4.2%	青少年を健全に育てる/ 食品の安全をまもる	青少年を健全に育てる 5.1%	廃棄物対策を充実する 4.7%
20	廃棄物対策を充実する 4.7%	廃棄物対策を充実する 4.1%	食品の安全をまもる 4.3%	廃棄物対策を充実する 4.9%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 4.4%
21	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 3.5%	廃棄物対策を充実する 4.1%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める/ 農林業をさかんにする	新型コロナウイルス感染症対策を進める/ 農林業をさかんにする
22	健康づくりを進めて、疾病を予防する 3.4%	IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める 3.7%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 3.7%	農林業をさかんにする 3.9%	農林業をさかんにする 3.8%
23	都市のバリアフリー化を進める 3.1%	農林業をさかんにする/ 芸術・文化活動をさかんにする	健康づくりを進めて、疾病を予防する/ 都市のバリアフリー化を進める	IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める 3.8%	生活排水対策を進める/ 都市のバリアフリー化を進める
24	生活排水対策を進める 3.0%	芸術・文化活動をさかんにする 2.8%	都市のバリアフリー化を進める 3.4%	人権尊重の社会づくりを進める 2.9%	都市のバリアフリー化を進める 3.4%
25	観光振興を進める 2.9%	人権尊重の社会づくりを進める 2.6%	芸術・文化活動をさかんにする 3.2%	健康づくりを進めて、疾病を予防する/ 観光振興を進める/ 芸術・文化活動をさかんにする	人権尊重の社会づくりを進める 3.1%
26	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%	生活排水対策を進める/ 健康づくりを進めて、疾病を予防する	人権尊重の社会づくりを進める 2.9%	芸術・文化活動をさかんにする/ 観光振興を進める/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする	健康づくりを進めて、疾病を予防する 2.9%
27	人権尊重の社会づくりを進める 2.5%	健康づくりを進めて、疾病を予防する 2.4%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.9%	観光振興を進める/ 人権尊重の社会づくりを進める	市町村が主役の地域づくりを進める/ IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める
28	市町村が主役の地域づくりを進める 2.1%	都市のバリアフリー化を進める/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する	生活排水対策を進める 2.6%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.8%	IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める 2.5%
29	農林業をさかんにする 2.0%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.3%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.5%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする/ 都市のバリアフリー化を進める	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.4%
30	IT（情報通信技術）を生かした社会づくりを進める/ 生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする	市町村が主役の地域づくりを進める/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする	市町村が主役の地域づくりを進める 2.3%	都市のバリアフリー化を進める 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする
31	生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.9%	農林業をさかんにする/ 観光振興を進める	生涯学習対策を充実する 2.4%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.3%
32	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%	観光振興を進める 1.8%	観光振興を進める 2.1%	生活排水対策を進める 2.3%	観光振興を進める 2.2%
33	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる/ 県民参加の行政を進める	生涯学習対策を充実する 1.4%	市町村が主役の地域づくりを進める 2.1%	生涯学習対策を充実する 2.1%
34	国際交流や国際協力を進める 1.0%	県民参加の行政を進める 1.0%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.2%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.7%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.7%
35	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	生涯学習対策を充実する 0.9%	県民参加の行政を進める/ 国際交流や国際協力を進める	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.0%	県民参加の行政を進める 1.1%
36	県民参加の行政を進める 0.6%	国際交流や国際協力を進める 0.8%	国際交流や国際協力を進める/ NPOやボランティアへの活動支援を充実する	国際交流や国際協力を進める 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%
37	— —	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.9%	県民参加の行政を進める 0.6%	国際交流や国際協力を進める 0.6%

#### 4. ケアラー・ヤングケアラーの認知度等について

##### (1) ケアラーの認知度

◇『知っている（計）』は61.4%

問19 あなたは、「ケアラー」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）

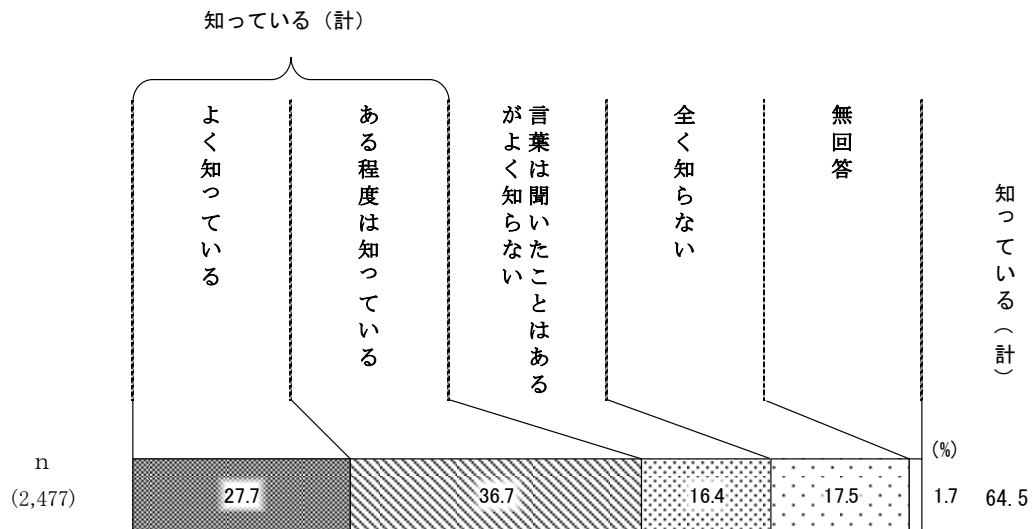


「ケアラー」という言葉の認知度は、「ある程度は知っている」（37.9%）が3割台半ばを超えて最も高くなっており、これに「よく知っている」（23.5%）を合わせた『知っている（計）』（61.4%）は6割強となっている。一方で、「全く知らない」（17.5%）は1割台半ばを超えている。

## (2) ヤングケアラーの認知度

◇『知っている (計)』が 64.5%

問20 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)



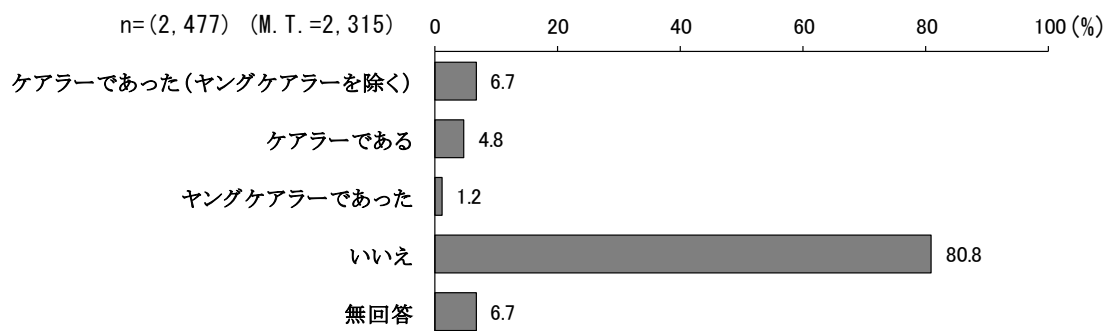
「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、「ある程度は知っている」(36.7%) が3割台半ばを超えて最も高くなっており、これに「よく知っている」(27.7%) 合わせた『知っている (計)』(64.5%) は6割台半ばとなっている。一方で、「全く知らない」(17.5%) は1割台半ばを超えている。



### (3) ケアラー状況

◇「ケアラーであった（ヤングケアラーを除く）」が 6.7%

問21 あなたご自身は、現在ケアラーですか。または、過去にそのような経験がありますか。  
(〇はいくつでも)

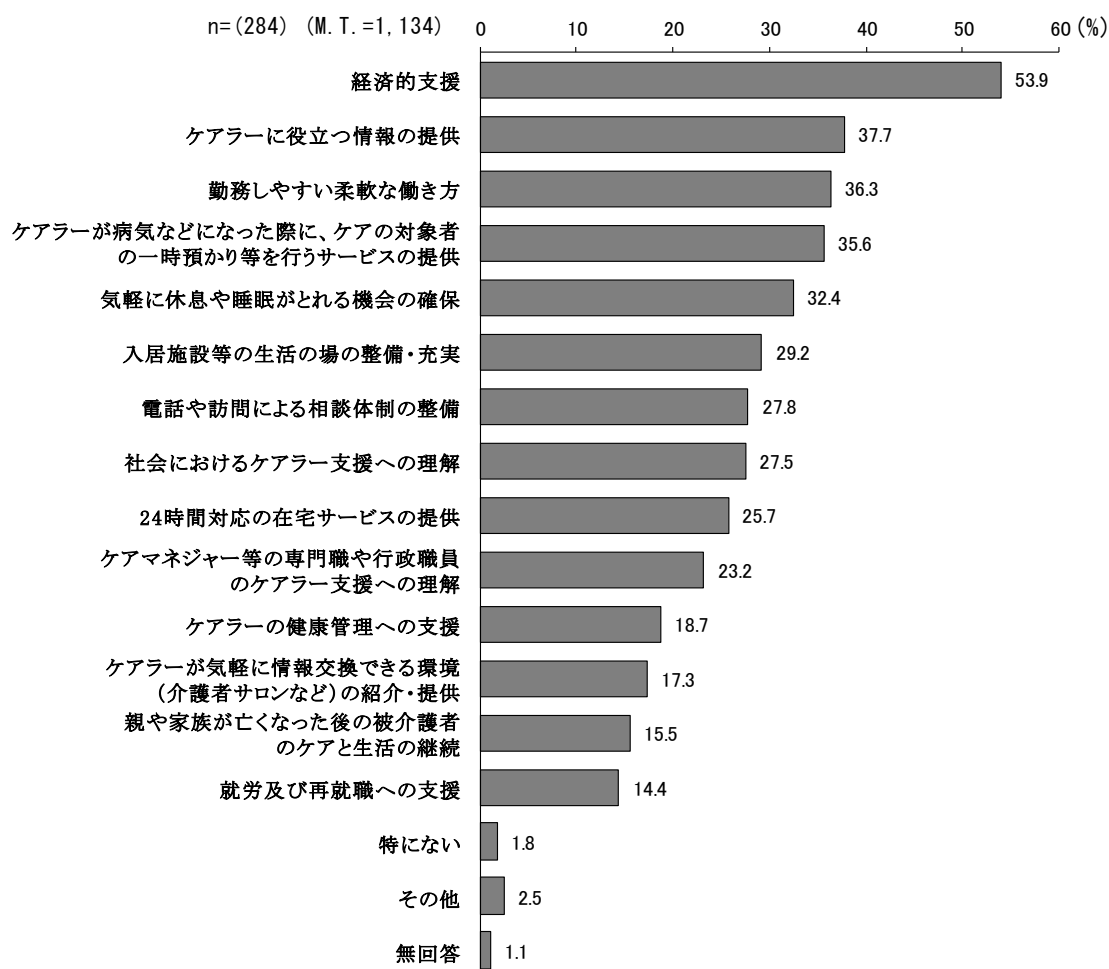


自身の状況は、「ケアラーであった（ヤングケアラーを除く）」が 6.7%で最も高く、次いで「ケアラーである」（4.8%）、「ヤングケアラーであった」（1.2%）となっている。一方で、ケアラー経験のない「いいえ」（80.8%）は 8 割を超えている。

### (3-1) ケアラーに必要な支援

◇「経済的支援」が53.9%

(問21で「1. ケアラーである」または「2. ケアラーであった」とお答えの方にお伺いします。)  
問21-1 ケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。(〇はいくつでも)

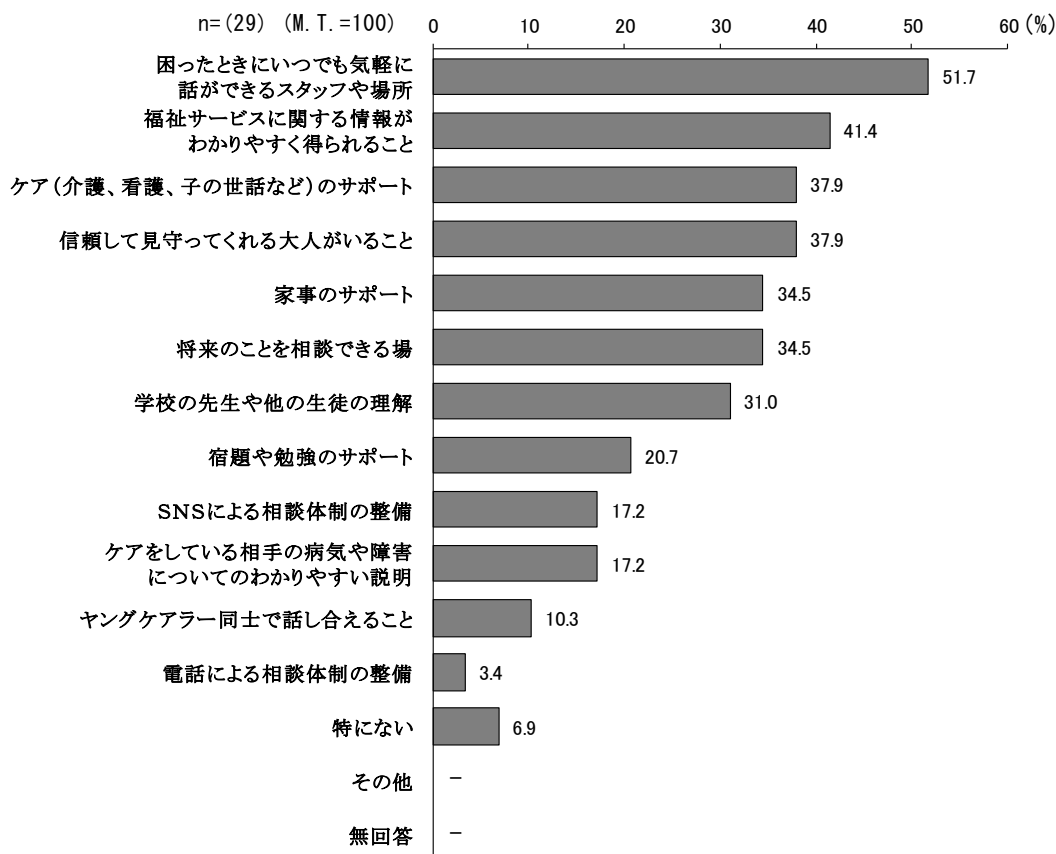


ケアラーに必要な支援は、「経済的支援」(53.9%)が5割強と最も高く、次いで「ケアラーに役立つ情報の提供」(37.7%)、「勤務しやすい柔軟な働き方」(36.3%)、「ケアラーが病気などになった際に、ケアの対象者の一時預かり等を行うサービスの提供」(35.6%)、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」(32.4%)などとなっている。

### (3-2) ヤングケアラーに必要な支援

◇「困ったときにいつでも気軽に話ができるスタッフや場所」が51.7%

(前ページ問21で「3. ヤングケアラーであった」とお答えの方にお伺いします。)  
 問21-2 ヤングケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。(〇はいくつでも)



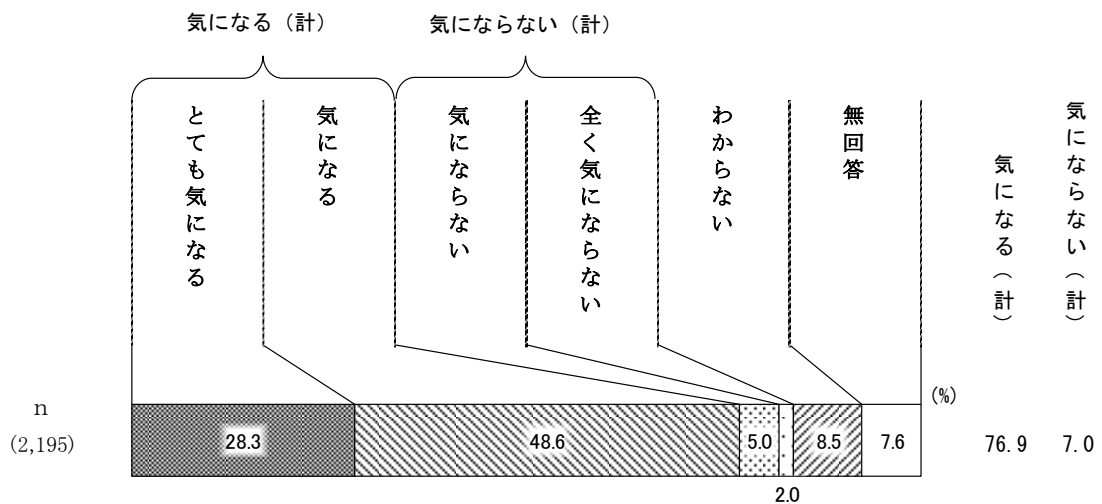
ヤングケアラーに必要な支援は、「困ったときにいつでも気軽に話ができるスタッフや場所」(51.7%)が5割強と最も高く、次いで「福祉サービスに関する情報がわかりやすく得られること」(41.4%)、「ケア(介護、看護、子の世話など)のサポート」と「信頼して見守ってくれる大人がいること」(各37.9%)、「家事のサポート」と「将来のことを相談できる場」(各34.5%)などとなっている。

(4) 親や家族などの介護、看護等への関心

◇『気になる(計)』が76.9%

(前ページ問21で「1. ケアラーである」とお答えの方以外にお伺いします。)

問22 (将来のことも含め) 親や家族などの介護、看護等のことが気になりますか。  
(〇は1つだけ)

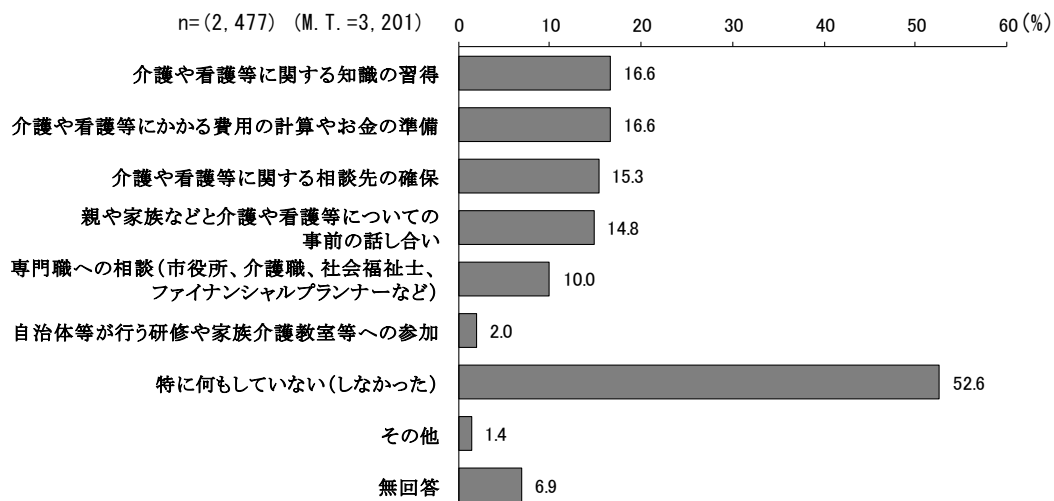


親や家族などの介護、看護等への関心は、「気になる」(48.6%)が5割弱と最も高く、「とても気になる」(28.3%)と合わせた『気になる(計)』(76.9%)は7割台半ばを超えている。一方で、「全く気にならない」(2.0%)と「気にならない」(5.0%)を合わせた『気にならない(計)』は7.0%となっている。

## (5) 親や家族などの介護、看護等の備え

◇「介護や看護等に関する知識の習得」と「介護や看護等にかかる費用の計算やお金の準備」が16.6%

問23 親や家族などの介護、看護等の備えとして何かしていることはありますか。  
(ケアラー経験者の方はしておいて良かったことはありますか。)(〇はいくつでも)

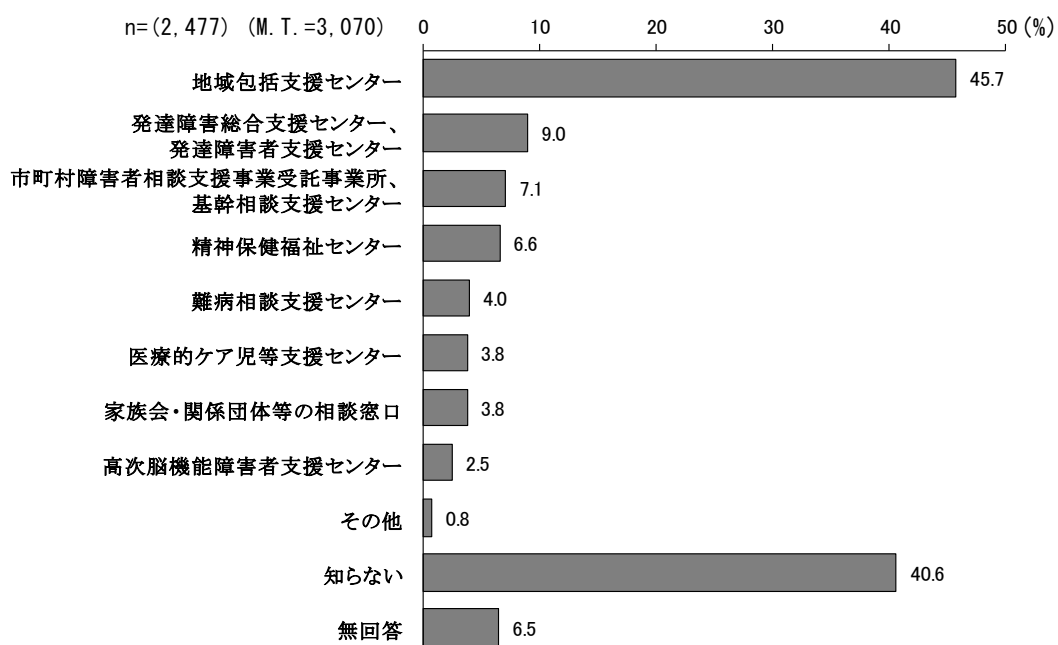


親や家族などの介護、看護等の備えは、「介護や看護等に関する知識の習得」と「介護や看護等にかかる費用の計算やお金の準備」(各16.6%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで「介護や看護等に関する相談先の確保」(15.3%)、「親や家族などと介護や看護等についての事前の話し合い」(14.8%)などとなっている。一方で、「特に何もしていない(しなかった)」(52.6%)は5割強となっている。

## (6) 介護、看護等の相談窓口の認知度

◇「地域包括支援センター」が45.7%

問24 介護、看護等の相談窓口として以下のような機関がありますが、知っているもの（利用したことがあるもの）はありますか。（〇はいくつでも）



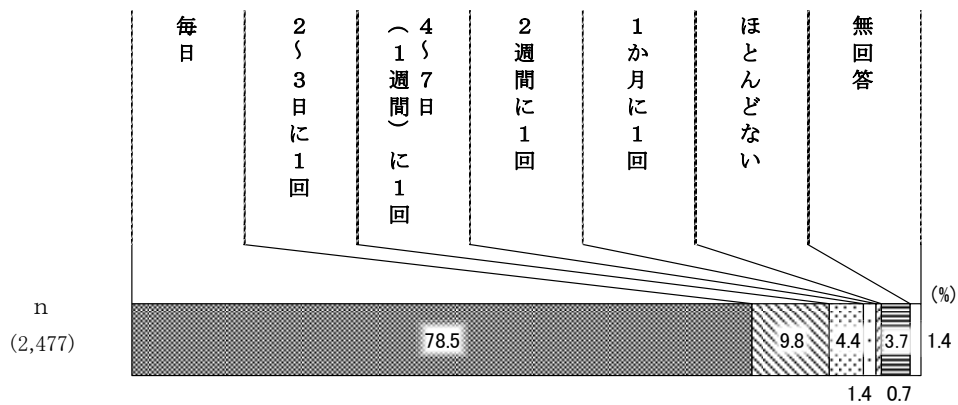
介護、看護等の相談窓口の認知度は、「地域包括支援センター」（45.7%）が4割台半ばと最も高く、次いで「発達障害総合支援センター、発達障害者支援センター」（9.0%）、「市町村障害者相談支援事業受託事業所、基幹相談支援センター」（7.1%）、「精神保健福祉センター」（6.6%）などとなっている。一方で、「知らない」（40.6%）は4割を超えている。

## 5. 人と人とのつながり・支え合いの状況について

### (1) 人と会話や世間話をする頻度

◇「毎日」が78.5%

問25 あなたは普段どの程度、人と会話や世間話をしますか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つだけ)

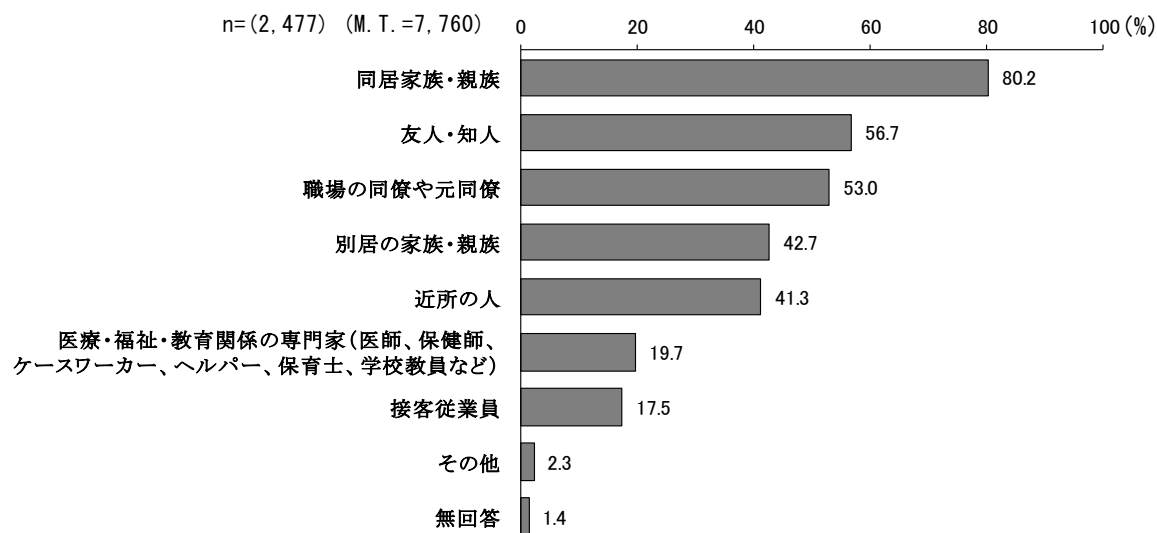


人と会話や世間話をする頻度は、「毎日」(78.5%)が8割弱と最も高く、次いで「2〜3日に1回」(9.8%)、「4〜7日(1週間)に1回」(4.4%)、「ほとんどない」(3.7%)、「2週間に1回」(1.4%)となっている。

## (2) ここ1ヶ月に会話や世間話をした人との関係性

◇「同居家族・親族」が80.2%

問26 あなたがここ1か月間に会話や世間話をした人はどんな関係の人ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



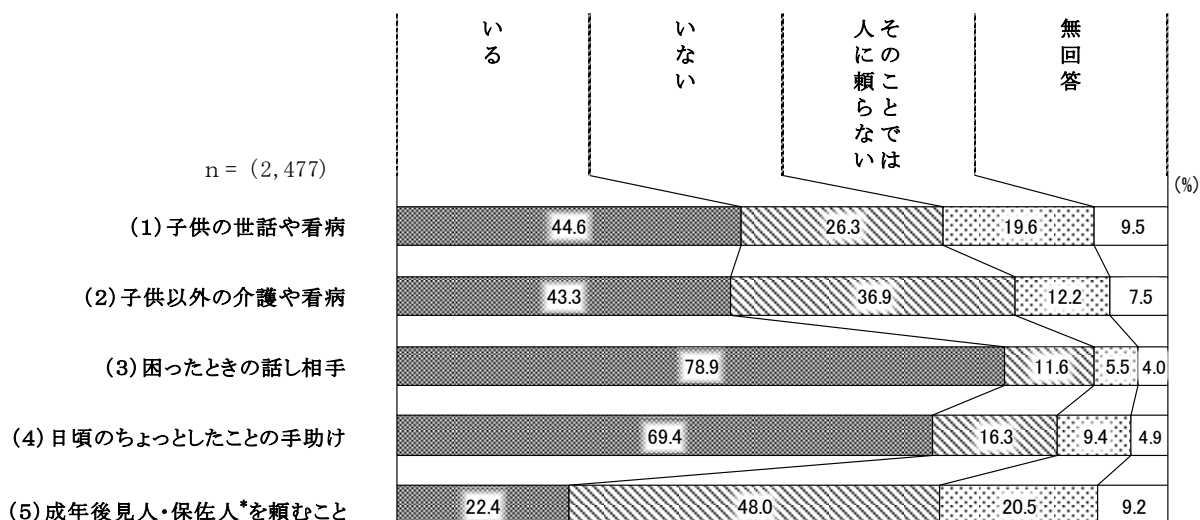
ここ1か月間に会話や世間話をした人との関係性は、「同居家族・親族」(80.2%)が8割を超えて最も高く、次いで「友人・知人」(56.7%)、「職場の同僚や元同僚」(53.0%)、「別居の家族・親族」(42.7%)、「近所の人」(41.3%)などとなっている。



### (3) 頼れる人の有無

◇困ったときの話し相手が「いる」は78.9%

問27 あなたは次の(1)から(5)までの項目について頼れる人はいますか。  
あてはまるものを選んでください。(各項目それぞれ〇は1つずつ)



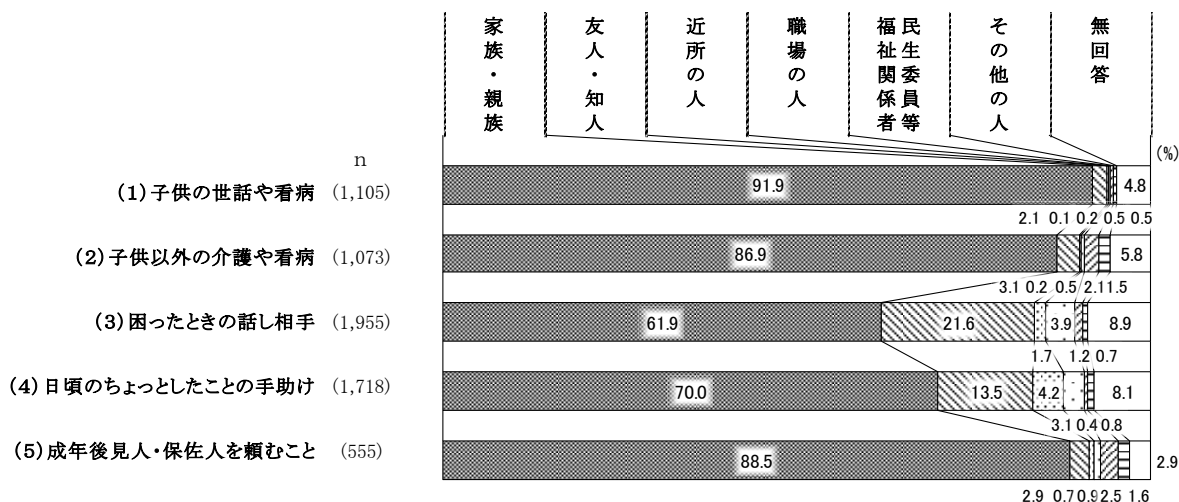
\*成年後見人・保佐人とは、認知症などの理由で判断能力が十分でない方の法律行為を保護し、支援するため、家庭裁判所によって選ばれる後見人のことをいいます。

頼れる人の有無は、「いる」は(3) 困ったときの話し相手(78.9%)が8割弱と最も高く、次いで(4) 日頃のちょっとしたことの手助け(69.4%)が約7割と高くなっている。一方で、「いない」は(5) 成年後見人・保佐人を頼むこと(48.0%)が5割弱と最も高く、次いで(2) 子供以外の介護や看病(36.9%)が3割台半ばを超えて高くなっている。

### (3-1) 頼れる人との関係性

◇「家族・親族」は子供の世話や看病が91.9%

(前ページ問27で「1 いる」とお答えの方にお伺いします。)  
 問27-1 それは誰ですか。次の(1)から(5)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。(各項目それぞれ〇は1つずつ)

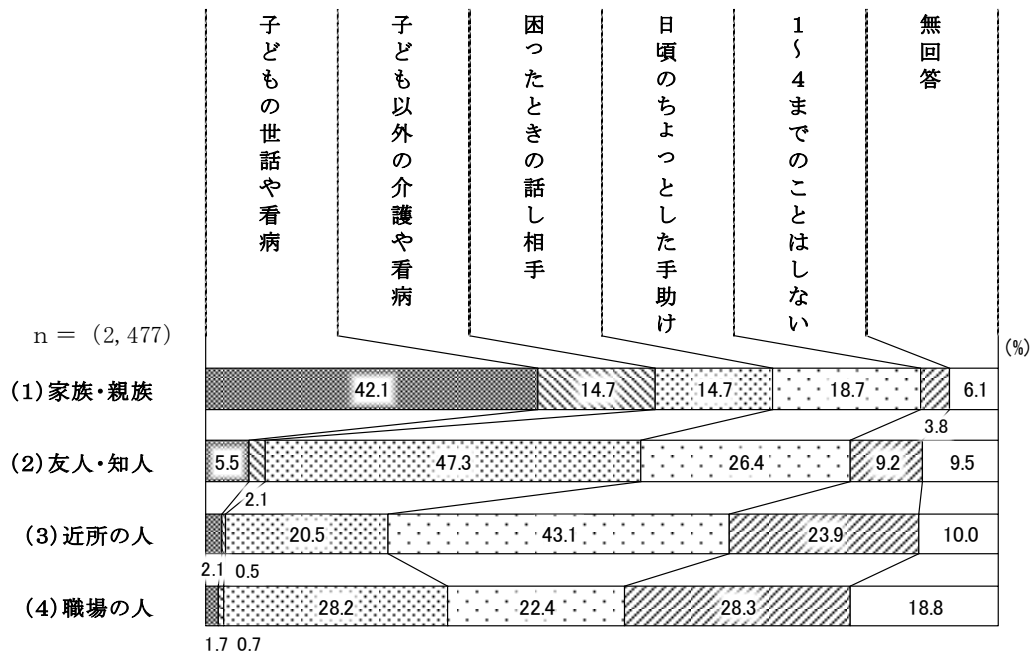


頼れる人との関係性について、「家族・親族」は(1)子供の世話や看病(91.9%)が9割強と最も高く、次いで(5)成年後見人・保佐人を頼むこと(88.5%)、(2)子供以外の介護や看病(86.9%)が高くなっている。一方で、「友人・知人」は(3)困ったときの話し相手(21.6%)が2割強と最も高く、次いで(4)日頃のちょっとしたことの手助け(13.5%)が1割強となっている。

(4) 人から援助を求められた場合、どの程度援助するか

◇「子どもの世話や看病」は家族・親族が42.1%

問28 あなたは、次の(1)から(4)までの人から援助を求められた場合、1から4の項目について援助をしますか。あてはまるものを選んでください。  
(各項目それぞれ〇は1つずつ)

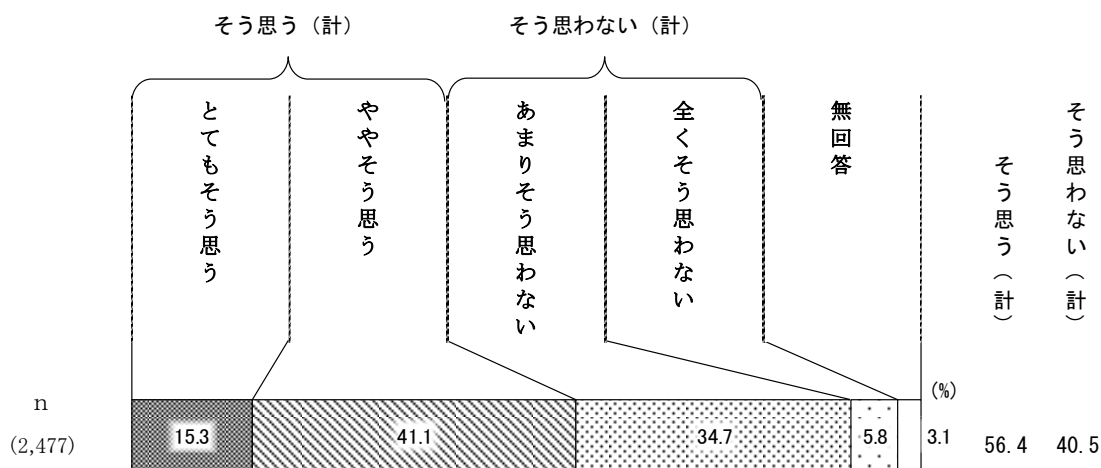


人から援助を求められた場合、どの程度援助するかについて、「子どもの世話や看病」と「子ども以外の介護や看病」は(1) 家族・親族(42.1%・14.7%)が最も高くなっている。「困ったときの話し相手」は(2) 友人・知人(47.3%)で4割台半ばを超えて最も高く、「日頃のちょっとした手助け」は(3) 近所の人(43.1%)が4割強と最も高くなっている。一方で、「1～4までのことはしない」は(4) 職場の人(28.3%)が3割弱と最も高くなっている。

### (5) 長生きすることは良いことだと思うか

◇『そう思う (計)』が 56.4%

問29 あなたは、長生きすることは良いことだと思いますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)



長生きすることは良いことだと思うかは、「ややそう思う」(41.1%)が4割強と最も高く、「とてもそう思う」(15.3%)と合わせた『そう思う(計)』(56.4%)は5割台半ばを超えている。一方で、「全くそう思わない」(5.8%)と「あまりそう思わない」(34.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(40.5%)は4割を超えている。

# 世論調査実施状況

(参考資料)

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康とくらし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民のくらし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロシウム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報の保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しいにつくり、人と環境にやさしいサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国をいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活範囲とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマノミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%
52	平成28年度	7月8日～31日	生活意識、日常生活、スポーツ振興、認知症、水道の利用、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	72.5%
53	平成29年度	7月7日～31日	生活意識、日常生活、シニアの社会参加、性的少数者(LGBT)、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.3%
54	平成30年度	7月6日～31日	生活意識、日常生活、定住意向、受動喫煙防止対策、社会貢献活動における寄附、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.7%
55	令和元年度	7月5日～31日	生活意識、日常生活、大地震に備えた取組について、生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	66.5%
56	令和2年度	8月8日～28日	生活意識、日常生活、住みよさ、新型コロナウイルス感染症への不安、環境への関心と行動、川の再生、県政への要望	5,000	郵送法	56.7%
57	令和3年度	7月9日～30日	生活意識、日常生活、定住意向、新型コロナウイルス感染症への不安、共生社会、エスカレーターの利用、県政への要望	5,000	郵送法	55.3%
58	令和4年度	7月8日～29日	生活意識、日常生活、大地震に備えた取組、受動喫煙対策、県立図書館の将来像に関するニーズ、県政への要望	5,000	郵送法	50.5%
59	令和5年度	7月7日～28日	生活意識、日常生活、ケアラー・ヤングケアラーの認知度等、人と人とのつながり・支え合いの状況、県政への要望	5,000	郵送法	49.5%

本報告書の調査データを引用された場合は、  
掲載資料1部を下記の担当課へ送付願います。

令和5年度

## 埼玉県政世論調査結果の概要

令和5年11月発行

埼玉県県民生活部県民広聴課

広聴・知事への提案担当

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」